

第三次北本市障害者福祉計画策定のためのアンケート調査
結果報告書

平成 29 年 3 月
北本市

目次

I 調査概要

1 調査目的	1
2 調査対象	1
3 調査時期及び調査方法	1
4 回収状況	1
5 調査項目	2
6 この報告書における調査結果の見方	2

II 身体障がい者調査結果

1 基本的な属性	3
2 障がいの状況	5
3 介助・援助の状況	7
4 外出などの状況	9
5 医療や健康管理の状況	14
6 日中の過ごし方	16
7 保育・教育について	17
8 就労について	18
9 相談や情報入手の状況	21
10 障がい福祉サービスについて	24
11 防災対策について	27
12 差別や人権侵害について	30
13 将来の希望等について	33

III 知的障がい者調査結果

1 基本的な属性	37
2 障がいの状況	39
3 介助・援助の状況	40
4 外出などの状況	42
5 医療や健康管理の状況	46
6 日中の過ごし方	48
7 保育・教育について	49
8 就労について	50
9 相談や情報入手の状況	53
10 障がい福祉サービスについて	56
11 防災対策について	59
12 差別や人権侵害について	62
13 将来の希望等について	66

IV 精神障がい者調査結果

1 基本的な属性	70
2 障がいの状況	72
3 介助・援助の状況	75
4 外出などの状況	77
5 医療や健康管理の状況	80
6 日中の過ごし方	82
7 就労について	83
8 相談や情報入手の状況	86
9 障がい福祉サービスについて	89
10 防災対策について	92
11 差別や人権侵害について	94
12 将来の希望等について	98

V 家族調査結果

1 基本的な属性	102
2 介助・援助の状況	104
3 将来の生活について	105

VI 障がい者団体調査結果

1 団体の活動について	109
2 各種サービス利用について	111
3 社会生活について	112
4 計画への要望等	114

VII サービス事業者調査結果

1 事業内容について	116
2 運営状況について	119
3 サービスの質の向上のための取り組み	120
4 利用者や家族からの声	122
5 事業所が抱える課題等	124
6 意見・要望等	125

資料

1 調査目的

第三次北本市障害者福祉計画策定の基礎資料とするため、障がい者及び障がい者団体、サービス提供事業者等を対象としたアンケート調査を実施する。

2 調査対象

調査区分	対象者抽出方法・対象者数
身体障がい者調査	手帳所持者からそのほぼ半数にあたる 1,000 人を無作為に抽出
知的障がい者調査	手帳所持者からそのほぼ半数にあたる 200 人を無作為に抽出
精神障がい者調査	手帳所持者からそのほぼ半数にあたる 200 人を無作為に抽出
家族調査	上記 3 種類の調査対象者の家族、合計 1,400 人
障がい者団体調査	市内等で活動している障がい者団体、合計 5 団体
サービス事業者調査	市内で事業を行っているサービス事業者、合計 17 事業者

3 調査時期及び調査方法

調査区分	調査時期	調査方法
身体障がい者調査	平成 28 年 11 月	郵送配付・郵送回収
知的障がい者調査	平成 28 年 11 月	郵送配付・郵送回収
精神障がい者調査	平成 28 年 11 月	郵送配付・郵送回収
家族調査	平成 28 年 11 月	身体・知的・精神障がい者調査票に同封し、郵送配付・郵送回収
障がい者団体調査	平成 28 年 11 月	郵送配付・郵送回収
サービス事業者調査	平成 28 年 11 月	郵送配付・郵送回収

4 回収状況

調査区分	対象者数	有効回収数	有効回収率
身体障がい者調査	1,000	529	52.9%
知的障がい者調査	200	107	53.5%
精神障がい者調査	200	92	46.0%
家族調査	1,400	496	35.4%
障がい者団体調査	5	5	100.0%
サービス事業者調査	17	14	82.4%

5 調査項目

調査区分	調査項目
身体障がい者調査	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な属性 障がいの状況 就労について 相談や情報入手の状況
知的障がい者調査	<ul style="list-style-type: none"> 介助・援助の状況 外出などの状況 障がい福祉サービスについて 防災対策について
精神障がい者調査	<ul style="list-style-type: none"> 医療や健康管理の状況 日中の過ごし方 差別や人権侵害について 将来の希望等について 保育・教育について
家族調査	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な属性 介助・援助の状況 将来の生活について
障がい者団体調査	<ul style="list-style-type: none"> 団体の活動について 各種サービス利用について 社会生活について 計画への要望等
サービス事業者調査	<ul style="list-style-type: none"> 事業内容について 運営状況について サービスの質の向上のための取り組み 利用者や家族からの声 事業所が抱える課題等 意見・要望等

6 この報告書における調査結果の見方

- 調査結果の数値は、回答率(%)で表示している。回答率(%)の母数は、その質問項目に該当する回答者の総数であり、その数はTOTAL及びnで示している。
- 回答率(%)については、小数点第2位を四捨五入し、小数点第1位までを表示している。このため、その合計数値は必ずしも100%とはならない場合がある。
- 回答には、単一回答(○は1つ)と複数回答(○はいくつでも)の2種類がある。複数回答の場合、その回答率(%)の合計は100%を超える場合がある。

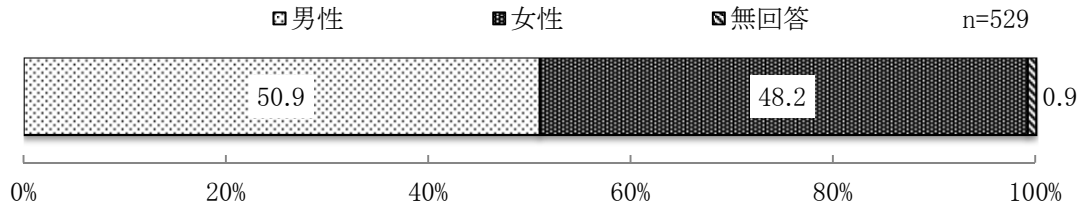
1 基本的な属性

(1) 性別

問2 あなたの性別をお答えください。(○は1つ)

男性が 50.9%、女性が 48.2%である。

[図表 II-1-1: 性別]



(2) 年齢

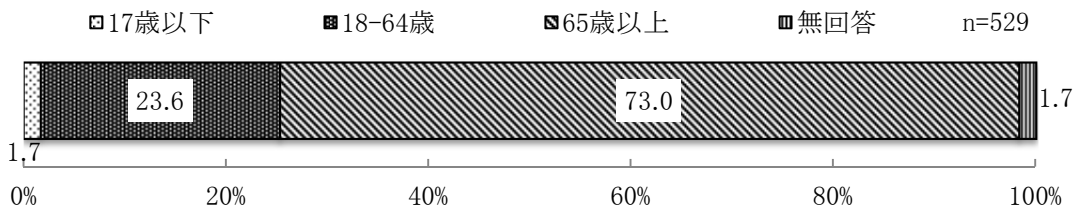
問3 年齢(11月1日現在)を記入してください。

年齢は、60歳代が 20.2%、70歳代が 35.5%、80歳以上が 25.9%を占め、平均年齢は 70.2歳である。なお、17歳以下は 1.7%、65歳以上は 73.0%となっている。

[図表 II-1-2: 年齢(10歳刻み)]

	10歳未満	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上	無回答
n=529	0.8%	1.1%	0.9%	2.1%	5.1%	6.6%	20.2%	35.5%	25.9%	1.7%

[図表 II-1-3: 年齢(3区分)]



(3) 居住場所

問4 現在、あなたはどこで暮らしていますか。(○は1つ)

現在、88.3%の人が「自宅で暮らしている」状況である。

[図表 II-1-4: 居住場所]

	自宅で暮らしている	病院に入院している	福祉施設に入所している	その他	無回答
n=529	88.3%	2.1%	5.7%	2.8%	1.1%

(4) 同居者

問5 どなたと一緒に暮らしていますか。(○はいくつでも)

全体では、55.6%が「配偶者(夫または妻)」と、28.9%が「子ども(子どもの配偶者も含む)」と一緒に暮らしている。

年齢別にみると、18歳～64歳では、50.4%が「配偶者(夫または妻)」と、32.0%が「父、母」と一緒に暮らしている。

[図表Ⅱ-1-5:同居者/年齢別]

		自分ひとりだけで暮らしている	配偶者(夫または妻)	子ども(子どもの配偶者も含む)	父、母	祖父、祖母
全 体	n=529	15.3%	55.6%	28.9%	9.3%	0.6%
17歳以下	n=9	—	—	—	88.9%	33.3%
18歳～64歳	n=125	15.2%	50.4%	28.0%	32.0%	—
65歳以上	n=386	16.1%	59.8%	30.3%	—	—
無回答	n=9	—	—	11.1%	11.1%	—
		兄弟、姉妹	その他の親せき	福祉施設の職員や仲間	その他	無回答
全 体	n=529	4.2%	0.2%	5.5%	1.9%	1.7%
17歳以下	n=9	55.6%	—	—	—	—
18歳～64歳	n=125	12.0%	—	2.4%	0.8%	—
65歳以上	n=386	0.5%	0.3%	6.5%	2.1%	1.0%
無回答	n=9	—	—	11.1%	11.1%	55.6%

(5) 調査票の記入者

問1 この用紙(調査票)に記入されるのはどなたですか。(○は1つ)

調査票の記入者については、「本人(この調査票が郵送されたあて名の方)が記入、または本人が答え、代筆者が記入」が66.5%、「家族(本人の立場に立って記入)」が25.5%である。

[図表Ⅱ-1-6:調査票の記入者]

		本人(この調査票が郵送されたあて名の方)が記入、または本人が答え、代筆者が記入	家族(本人の立場に立って記入)	その他の方(本人の立場に立って記入)	無回答
n=529		66.5%	25.5%	0.2%	7.8%

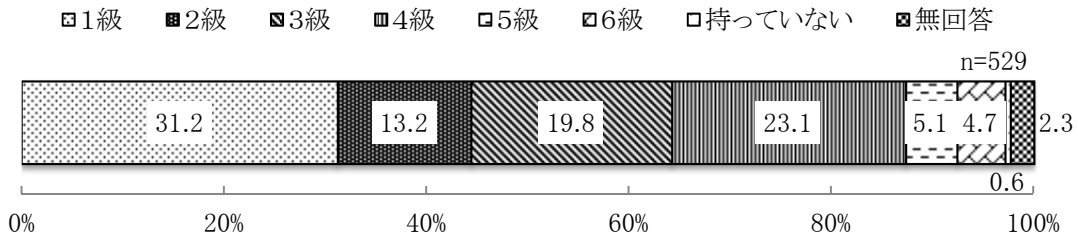
2 障がいの状況

(1) 障がいの程度

問6 身体障害者手帳に記載された障がいの程度をお答えください。(○は1つ)

身体障害者手帳に記載されている障がいの程度は、「1級」が31.2%、「2級」が13.2%、「3級」が19.8%、「4級」が23.1%、「5級」が5.1%、「6級」が4.7%である。

[図表 II-2-1: 障がいの程度]

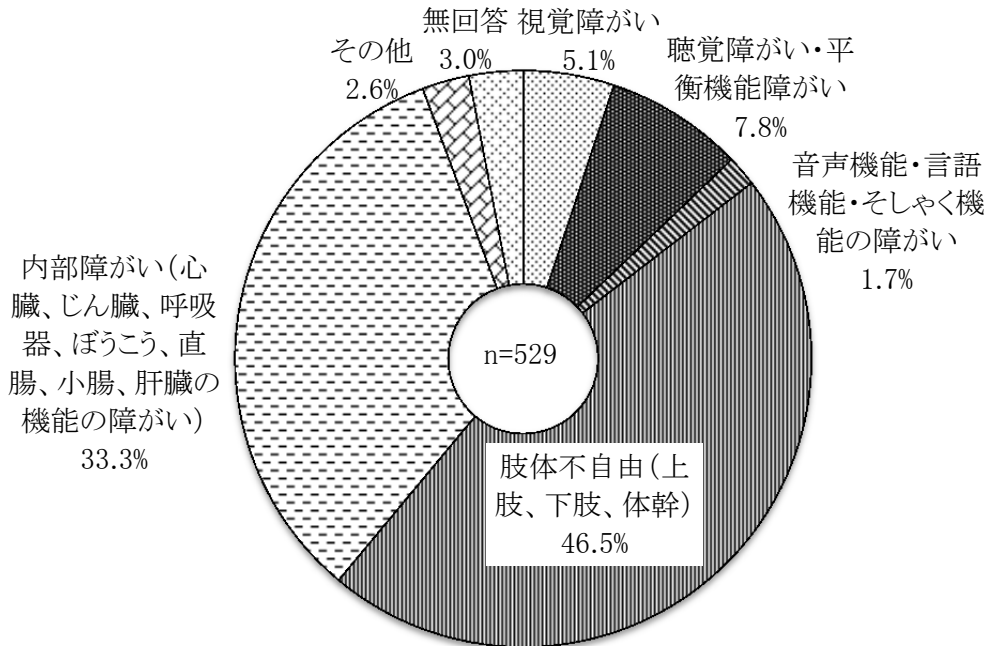


(2) 障がいの種類

問7 手帳に記載されている障がいは次のどれですか。主な障がい1つをお答えください。(○は1つ)

身体障害者手帳に記載されている障がいの種類は、「肢体不自由(上肢、下肢、体幹)」が46.5%と最も多く、次いで「内部障がい(心臓、じん臓、呼吸器、ぼうこう、直腸、小腸、肝臓の機能の障がい)」が33.3%で続いている。

[図表 II-2-2: 障がいの種類]

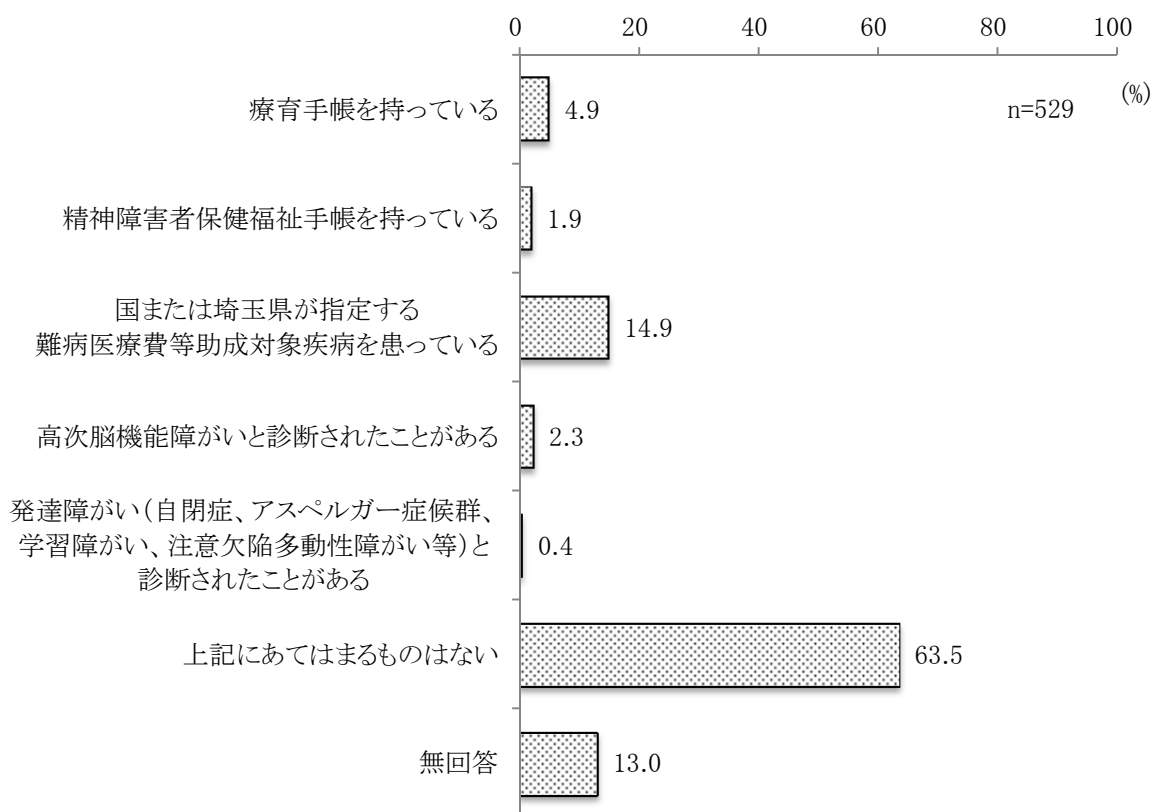


(3) 他の障がいの状況

問8 次のうち、あてはまるものに○をつけてください。(○はいくつでも)

身体障がいのほか、「療育手帳を持っている」人は4.9%、「精神障害者保健福祉手帳を持っている」人は1.9%、「国または埼玉県が指定する難病医療費等助成対象疾患を患っている」人は14.9%である。

[図表Ⅱ-2-3:他の障がいの状況]



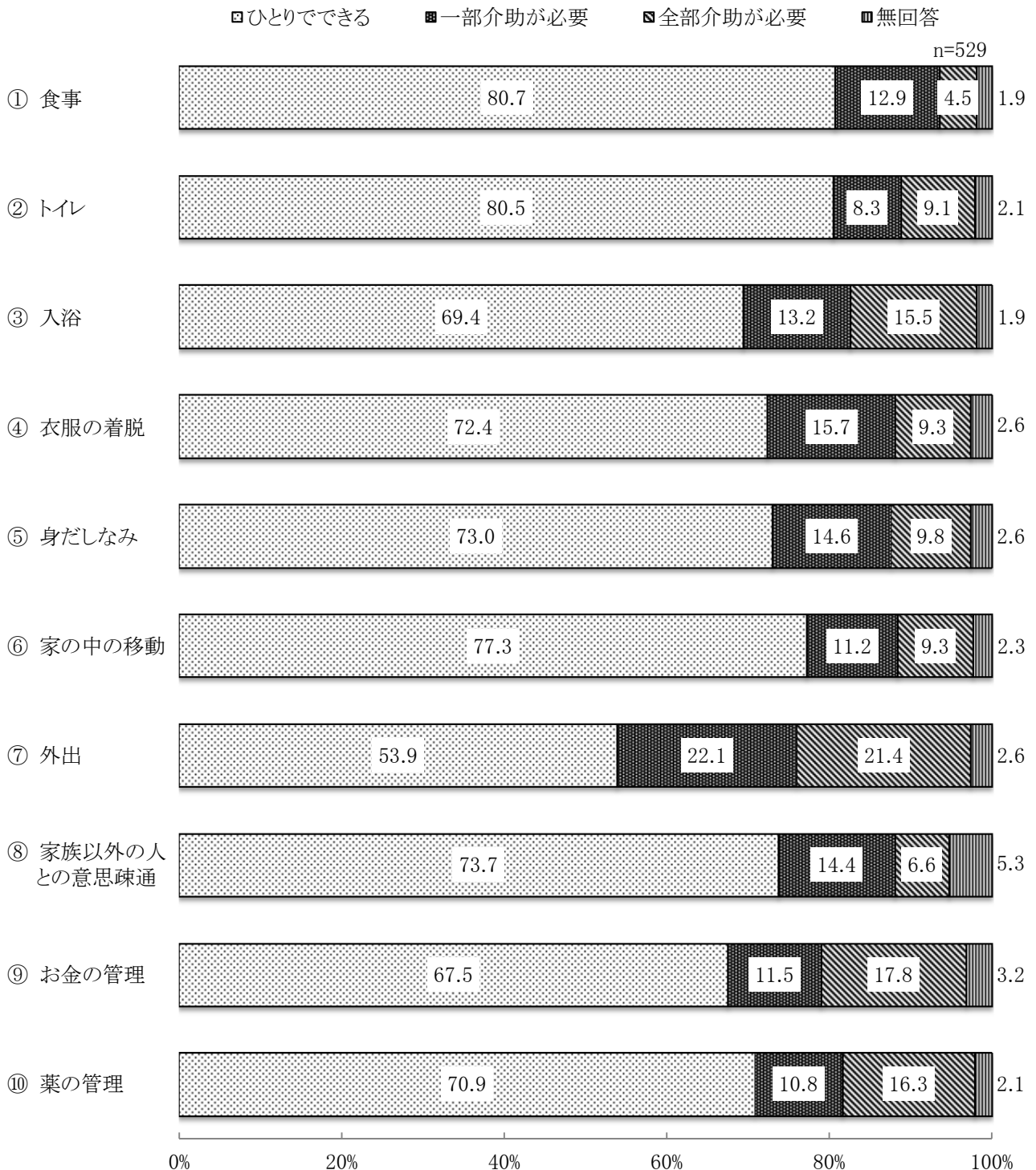
3 介助・援助の状況

(1) 日常生活における介助・援助の必要性

問9 日常生活で、次のことをどのようにしていますか。①から⑩のそれぞれにお答えください。(○は①から⑩それぞれに1つずつ)

日常生活で介助・援助の必要性が最も高いのは「外出」で、21.4%が「全部介助が必要」、22.1%が「一部介助が必要」な状況である。

[図表 II-3-1: 日常生活における介助・援助の必要性]



(2) 主な介助・援助者

問 10 ふだん、あなたを主に介助・援助しているのはどなたですか。(○は1つ)

主な介助・援助者は、「配偶者（夫、妻）」が40.5%と最も多く、次いで「子ども、子どもの配偶者」が16.8%で続いている。

年齢別にみると、18歳～64歳では「配偶者（夫、妻）」が28.8%、「父、母」が20.8%である。

[図表Ⅱ-3-2: 主な介助・援助者／年齢別]

	父、母	配偶者(夫、妻)	子ども、子どもの配偶者	兄弟姉妹	その他の親せき
全 体 n=529	6.6%	40.5%	16.8%	2.1%	0.6%
17歳以下 n=9	88.9%	—	—	—	11.1%
18歳～64歳 n=125	20.8%	28.8%	3.2%	6.4%	0.8%
65歳以上 n=386	—	45.3%	21.5%	0.8%	0.3%
無回答 n=9	11.1%	33.3%	22.2%	—	—

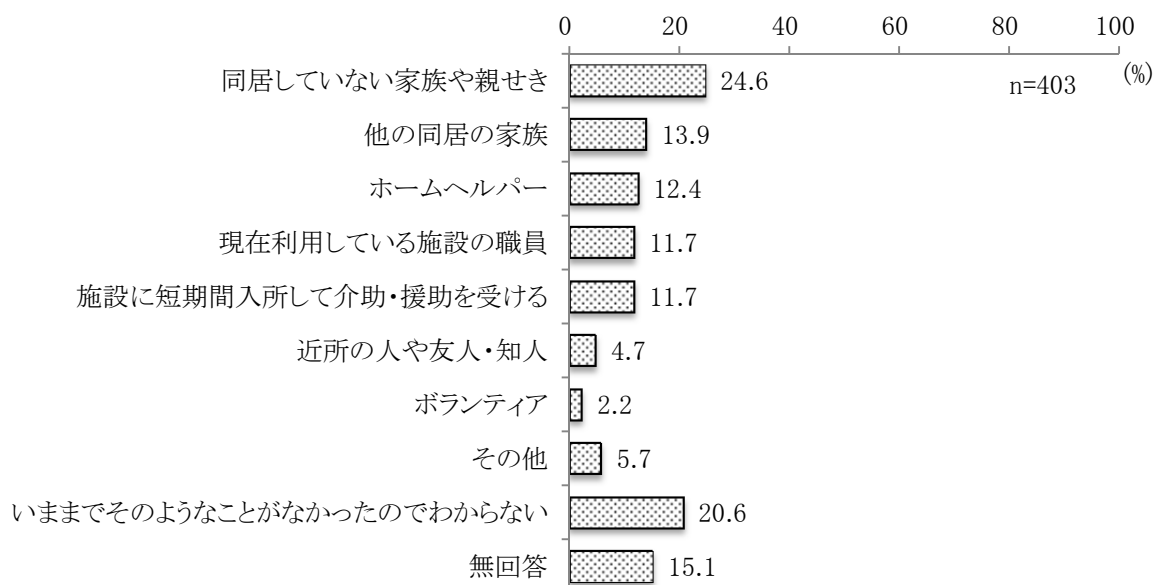
	近所の人、友人・知人	ホームヘルパー等の在宅サービス事業者	その他	介助・援助している人はいない(必要ない)	無回答
全 体 n=529	0.6%	4.9%	4.2%	19.1%	4.7%
17歳以下 n=9	—	—	—	—	—
18歳～64歳 n=125	0.8%	3.2%	1.6%	30.4%	4.0%
65歳以上 n=386	0.5%	5.4%	4.7%	16.3%	5.2%
無回答 n=9	—	11.1%	22.2%	—	—

(3) 代わりの介助・援助者

問 11 あなたを主に介助・援助している方が、病気や外出をしなければならないときは、代わりにどなたに介助・援助してもらいたいと思いますか。(○はいくつでも)

代わりに介助・援助してもらいたい人は、「同居していない家族や親せき」が24.6%と最も多く、次いで「他の同居の家族」(13.9%)、「ホームヘルパー」(12.4%)と続いている。

[図表Ⅱ-3-3: 代わりの介助・援助者]



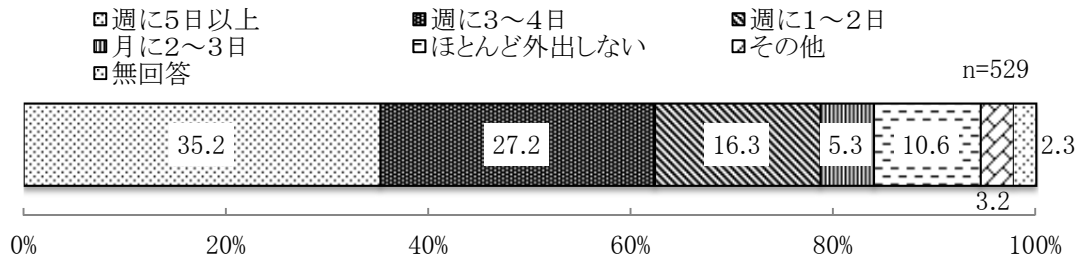
4 外出などの状況

(1) 外出の頻度

問 12 あなたは、どのくらい外出しますか。通園、通学、通勤、買い物、日常の散歩など、すべてを含めてお答えください。(○は1つ)

外出の頻度は、「週5日以上」が35.2%、「週に3～4日」が27.2%で、約6割の人は週3日以上外出している状況である。

[図表 II-4-1: 外出の頻度]



年齢別にみると、65歳以上では、「ほとんど外出しない」人が約1割（11.7%）みられる。

[図表 II-4-2: 日中の過ごし方／年齢別]

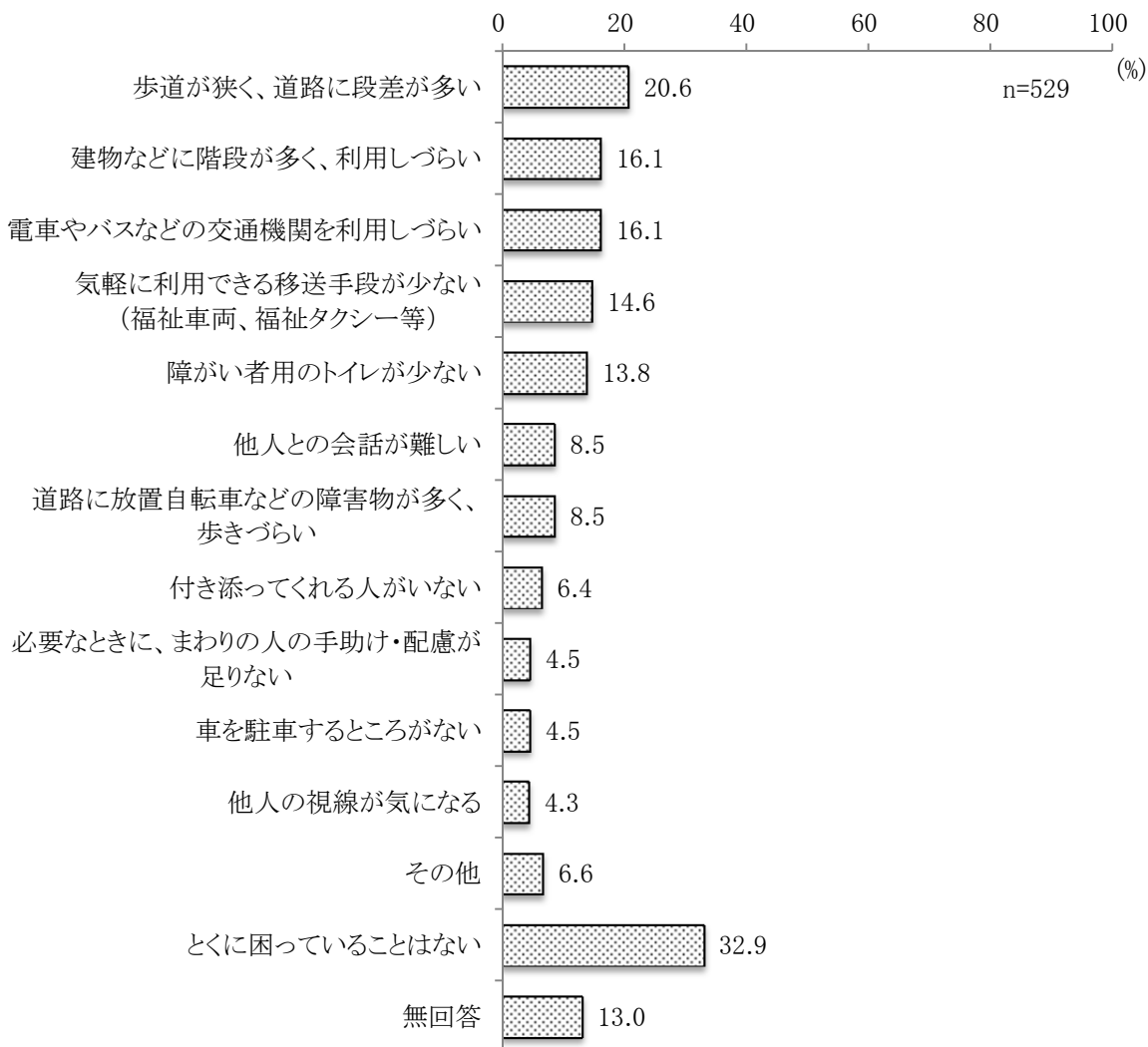
	週に5日以上	週に3～4日	週に1～2日	月に2～3日	ほとんど外出しない	その他	無回答
17歳以下 n=9	88.9%	—	—	—	—	11.1%	—
18歳～64歳 n=125	53.6%	20.8%	11.2%	3.2%	7.2%	2.4%	1.6%
65歳以上 n=386	28.5%	30.6%	17.9%	5.7%	11.7%	3.4%	2.3%
無回答 n=9	11.1%	—	33.3%	22.2%	22.2%	—	11.1%

(2) 外出の際に困っていること

問 13 外出の際に困っていることがありますか。(○はいくつでも)

外出の際に困っていることは、「歩道が狭く、道路に段差が多い」ことをあげる人が 20.6%と最も多く、次いで「建物などに階段が多く、利用しづらい」と「電車やバスなどの交通機関を利用しづらい」がそれぞれ 16.1%で続いている。

[図表Ⅱ-4-3:外出の際に困っていること]



視覚障がいのある人と聴覚・平衡機能障がいのある人についてみると、視覚障がいのある人では、約6割が「歩道が狭く、道路に段差が多い」(59.3%) ことで困っていることがわかる。また、聴覚・平衡機能障がいのある人のうち 46.3%は「他人との会話が難しい」 ことで困っていることがわかる。

[図表Ⅱ-4-4:外出の際に困っていること／視覚障がい、聴覚・平衡機能障がい(上位3項目)]

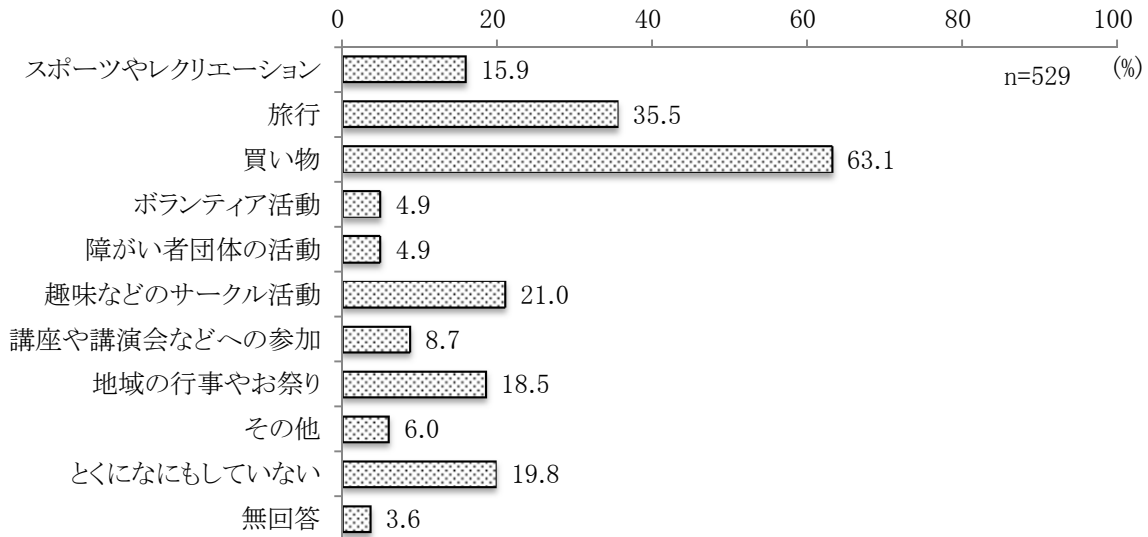
		1位	2位	3位
視覚障がい	n=27	歩道が狭く、道路に段差が多い (59.3%)	道路に放置自転車などの障害物が多く、歩きづらい (44.4%)	建物などに階段が多く、利用しづらい (29.6%)
聴覚・平衡機能障がい	n=41	他人との会話が難しい (46.3%)	歩道が狭く、道路に段差が多い (12.2%)	建物などに階段が多く、利用しづらい (12.2%)

(3) 1年間の活動内容

問 14 この1年くらいの間に、次のような活動をしましたか。(○はいくつでも)

この1年くらいの間に行った活動としては、「買い物」が63.1%と最も多く、次いで「旅行」(35.5%)、「趣味などのサークル活動」(21.0%)と続いている。

[図表 II-4-5: 1年間の活動内容]

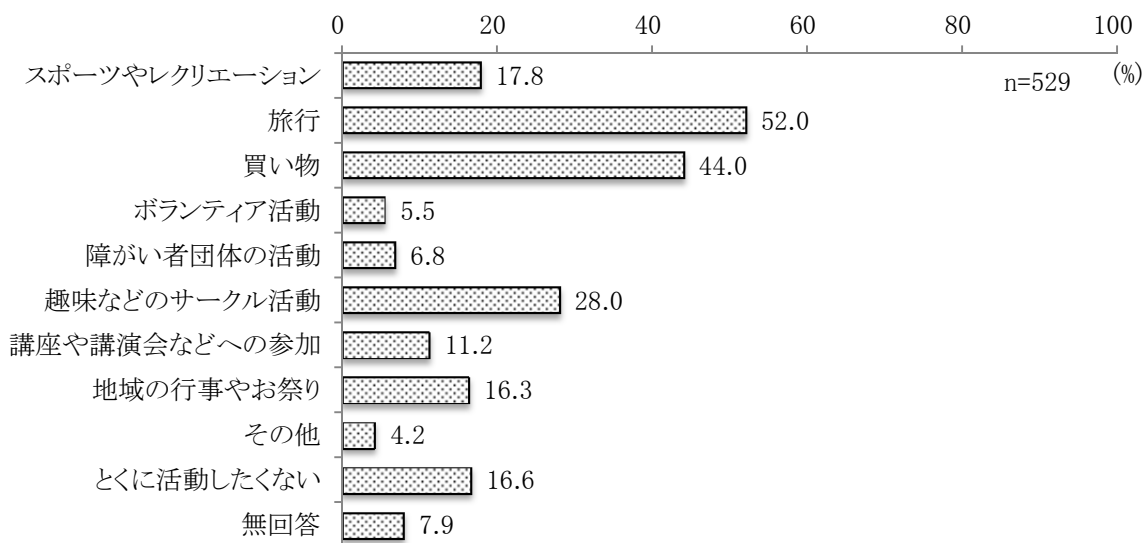


(4) 今後希望する活動内容

問 15 これから、どのような活動をしたいと思いませんか。(○はいくつでも)

今後行いたい活動としては、「旅行」が52.0%と最も多く、次いで「買い物」(44.0%)、「趣味などのサークル活動」(28.0%)と続いている。

[図表 II-4-6: 今後希望する活動内容]



この1年くらいの間に行った活動と今後行いたい活動を比較してみると、「旅行」については、実際にこの1年間に行くことができた人は35.5%だが、今後行きたいと考えている人は52.0%にのぼり、その差が特に大きい。

また、この1年くらいの間特に何も活動していない人についてみると、58.1%の人は今後も「とくに活動したくない」と回答しているが、「旅行」に行きたいと考えている人は18.1%、「買い物」に行きたい人は15.2%いるなど、何らかの活動を希望している人も少なくない。

[図表Ⅱ-4-7: 今後希望する活動内容／この1年くらいの間特に何も活動していない人]

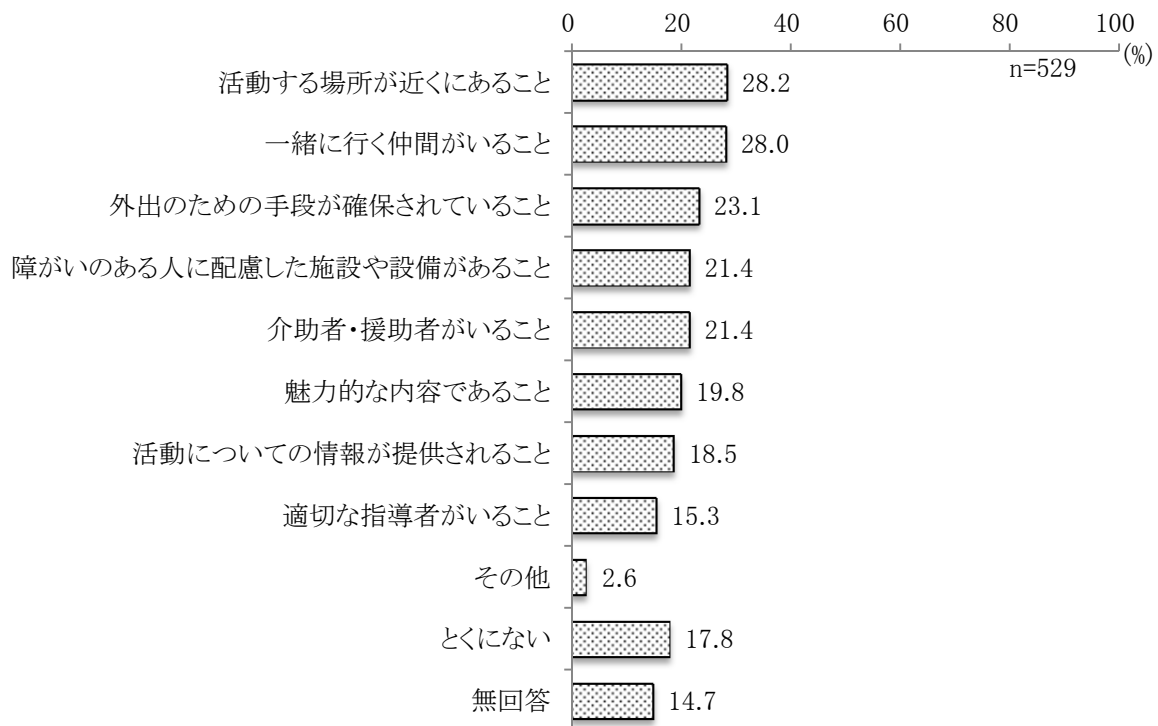
	スポーツ やレクリ エーショ ン	旅行	買い物	障がい 者団体 の活動	趣味な どのサ ークル 活動	講座や 講演会 などへ の参加	地域の 行事や お祭り	その他	とくに活 動したく ない	無回答
n=105	3.8%	18.1%	15.2%	1.9%	8.6%	1.9%	2.9%	5.7%	58.1%	7.6%

(5) 希望する活動をするために必要な条件

問 16 5ページの間 15のような活動をするためには、どのような条件が必要だと思いますか。(○はいくつでも)

希望する活動をするために必要な条件としては、「活動する場所が近くにあること」をあげる人が28.2%と最も多く、次いで「一緒に行く仲間がいること」が28.0%で続いている。

[図表Ⅱ-4-8: 希望する活動をするために必要な条件]

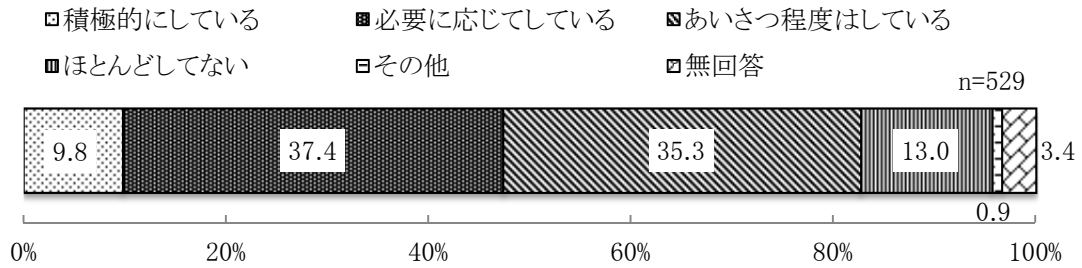


(6) 近所とのつきあいの状況

問 17 ご近所とのつきあいは、次のどれにあてはまりますか。(○は1つ)

近所とのつきあいの状況は、「積極的にしている」が 9.8%、「必要に応じてしている」が 37.4%、「あいさつ程度はしている」が 35.3%で、「ほとんどしていない」は 13.0%である。

[図表 II-4-9: 近所とのつきあいの状況]



5 医療や健康管理の状況

(1) 医療的ケアの状況

問 18 あなたは、現在、次のような医療的ケアを受けていますか。(○はいくつでも)

現在受けている医療的ケアとしては、「服薬管理」が 35.2%と最も多く、次いで「透析」(10.2%)、「ストマ (人工肛門・人工膀胱)」(6.8%) と続いている。

[図表Ⅱ-5-1:医療的ケアの状況]

n=529	医療的ケアは受けていない	服薬管理	透析	ストマ(人工肛門・人工膀胱)	カテーテル留置	胃ろう・腸ろう
	23.8%	35.2%	10.2%	6.8%	1.9%	1.7%
	在宅酸素	吸入	吸引	その他の医療的ケアを受けている	無回答	
	1.9%	0.9%	1.9%	15.7%	14.7%	

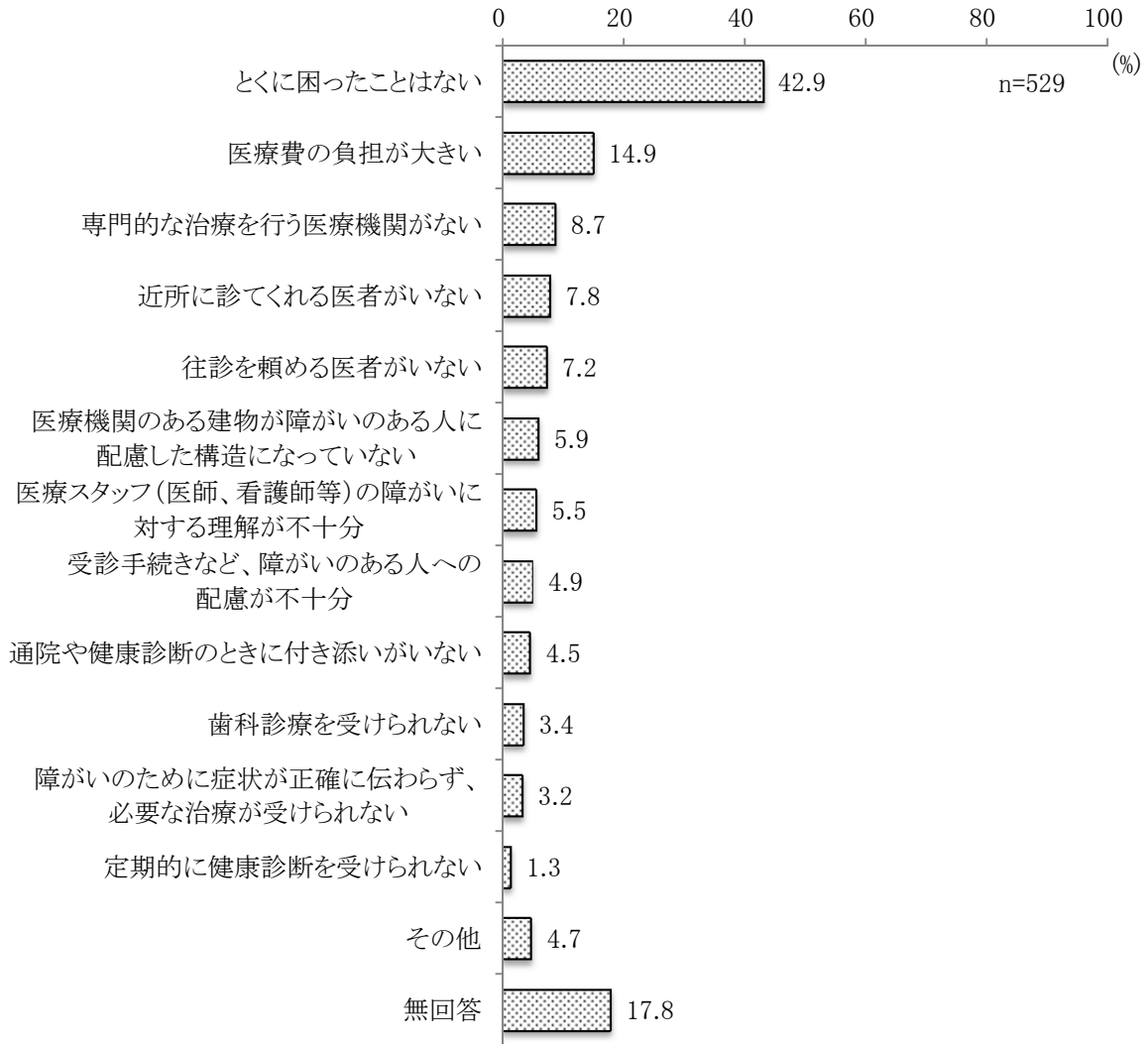
なお、「その他の医療的ケア」としては、具体的に「点滴」、「経管栄養」、「ICD機器定期管理」、「ペースメーカーの定期検査」、「定期的な血液検査・骨密度検査」などの記入があった。

(2) 健康管理や医療について困ったり不便に思うこと

問 19 健康管理や医療について、困ったり不便に思ったことがありますか。(○はい/△は多少/□はいい/◇はよくない/○はい/△は多少/□はいい/◇はよくない)

健康管理や医療については、42.9%の人が「とくに困ったことはない」と回答しているが、困ったり不便に思うこととしては、「医療費の負担が大きい」ことをあげる人が14.9%と最も多く、次いで「専門的な治療を行う医療機関がない」(8.7%)、「近所に診てくれる医者がない」(7.8%)と続いている。

[図表Ⅱ-5-2: 健康管理や医療について困ったり不便に思うこと]



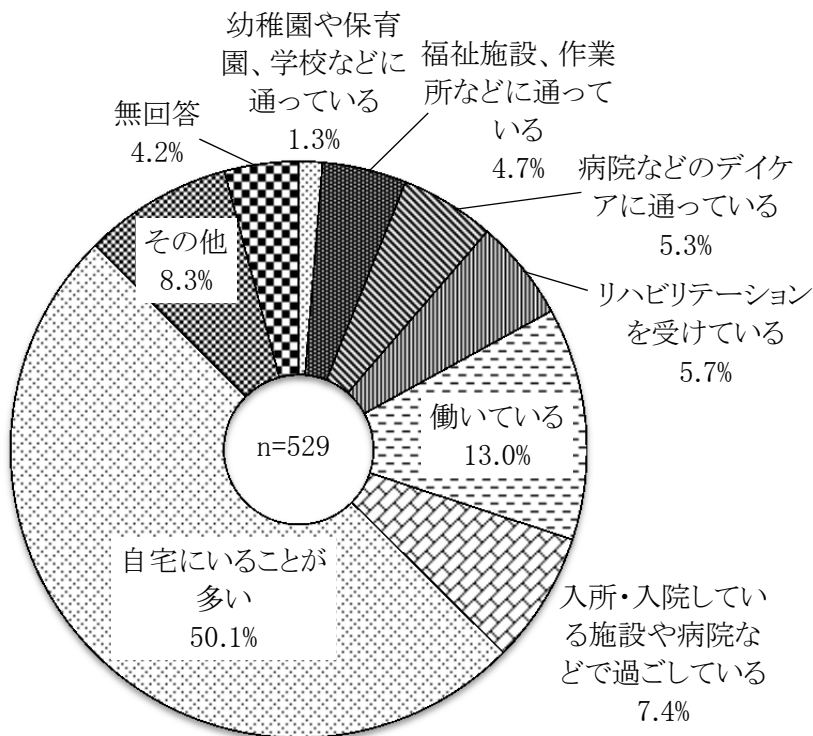
6 日中の過ごし方

(1) 日中の過ごし方

問 20 あなたは、平日の日中を主にどのように過ごしていますか。(○は1つ)

平日の日中は、約半数が「自宅にすることが多い」(50.1%) 状況である。

[図表Ⅱ-6-1:日中の過ごし方]



年齢別にみると、18歳～64歳では、35.2%が「働いている」、39.2%が「自宅にすることが多い」状況である。また、65歳以上では、54.4%が「自宅にすることが多い」と回答している。

[図表Ⅱ-6-2:日中の過ごし方／年齢別]

	幼稚園や保育園、学校などに通っている	福祉施設、作業所などに通っている	病院などのデイケアに通っている	リハビリテーションを受けている	働いている
17歳以下 n=9	77.8%	—	—	—	—
18歳～64歳 n=125	—	11.2%	3.2%	1.6%	35.2%
65歳以上 n=386	—	2.8%	6.2%	7.3%	6.0%
無回答 n=9	—	—	—	—	22.2%

	入所・入院している施設や病院などで過ごしている	自宅にすることが多い	その他	無回答
17歳以下 n=9	—	22.2%	—	—
18歳～64歳 n=125	3.2%	39.2%	3.2%	3.2%
65歳以上 n=386	8.8%	54.4%	10.1%	4.4%
無回答 n=9	11.1%	44.4%	11.1%	11.1%

7 保育・教育について

(1) 通園・通学先

問 21 通っているのは次のうちどれですか。(○は1つ)

通園・通学先は、7人中5人が「小学校、中学校、高校（特別支援学校）」(71.4%)である。

[図表Ⅱ-7-1:通園・通学先]

	幼稚園、保育園	小学校、中学校、 高校(普通学級)	小学校、中学校 (特別支援学級)	小学校、中学校、高 校(特別支援学校)	大学、専門学校
n=7	—	14.3%	14.3%	71.4%	—

(2) 通園・通学して困っていること

問 22 幼稚園や保育園、学校などに通っていて困っていることはありますか。(○はいくつでも)

通園・通学して困っていることとしては、7人中2人が「通うのがたいへん」(28.6%)なことをあげている。

[図表Ⅱ-7-2:通園・通学して困っていること]

	通うのがたいへん	介助体制が十分 でない	医療的なケア(吸 入・導入等)が受 けられない	とくに困っていること はない	無回答
n=7	28.6%	14.3%	14.3%	42.9%	14.3%

(3) 学校教育に望むこと

問 23 学校教育に望むことはどのようなことですか。(○はいくつでも)

学校教育に望むこととしては、7人中3人が「就学相談や進路相談など、相談体制を充実させてほしい」(42.9%)と回答している。

[図表Ⅱ-7-3:学校教育に望むこと]

	就学相談や進 路相談など、相 談体制を充実さ せてほしい	能力や障がい の状況にあっ た指導をして ほしい	個別指導を充 実してほしい	障がいの状況に かかわらず、普 通学級で受け入 れてほしい	とくに望むことは ない	無回答
n=7	42.9%	14.3%	14.3%	14.3%	28.6%	14.3%

8 就労について

(1) 就労状況

問 24 現在、あなたは収入を伴う仕事をしていますか。(○は1つ)

18歳～64歳のうち、「収入を伴う仕事をしている」人の割合は40.0%である。

[図表Ⅱ-8-1:就労状況/年齢別]

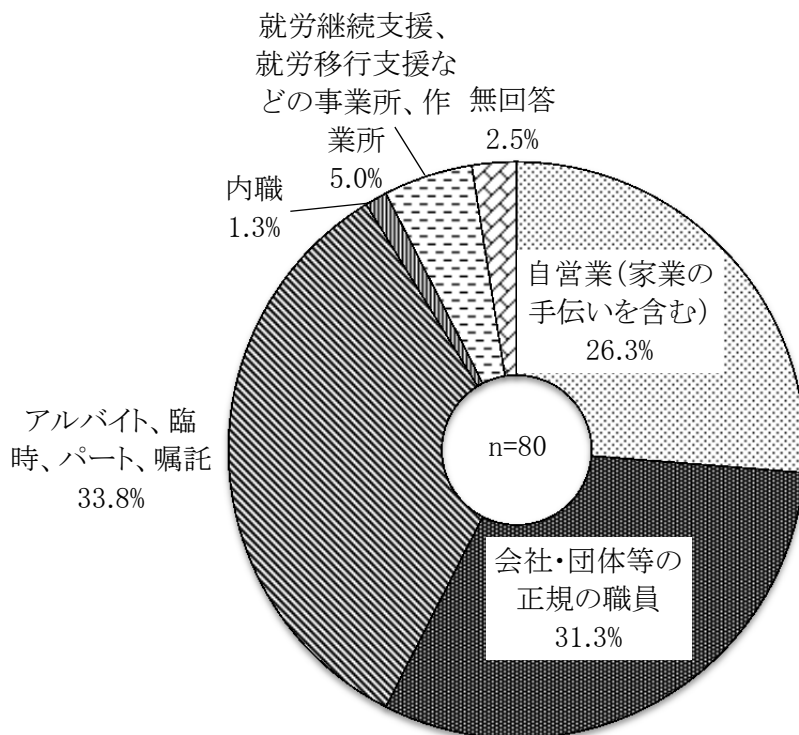
	収入を伴う仕事をしている	収入を伴う仕事はしていない	無回答
全 体 n=529	15.1%	79.2%	5.7%
17歳以下 n=9	—	100.0%	—
18歳～64歳 n=125	40.0%	58.4%	1.6%
65歳以上 n=386	7.3%	85.8%	7.0%
無回答 n=9	22.2%	66.7%	11.1%

(2) 仕事の形態

問 25 仕事の形態は、次のうちどれですか。(○は1つ)

仕事の形態は、「アルバイト、臨時、パート、嘱託」が33.8%、「会社・団体等の正規の職員」が31.3%、「自営業(家業の手伝いを含む)」が26.3%である。

[図表Ⅱ-8-2:仕事の形態]



(3) 給与・賃金の額

問 26 あなたご自身の1か月あたりの平均的な給与・賃金はいくらですか。(○は1つ)

1か月あたりの平均的な給与・賃金の額は、「10万円～20万円未満」が25.0%、「5万円～10万円未満」が21.3%である。

仕事の形態別にみると、「就労継続支援、就労移行支援などの事業所、作業所」で働いている4人の平均的な給与・賃金の額は、3人が「5千円未満」(75.0%)、1人が「5千円～1万円未満」(25.0%)である。

[図表 II-8-3: 給与・賃金の額/仕事の形態別]

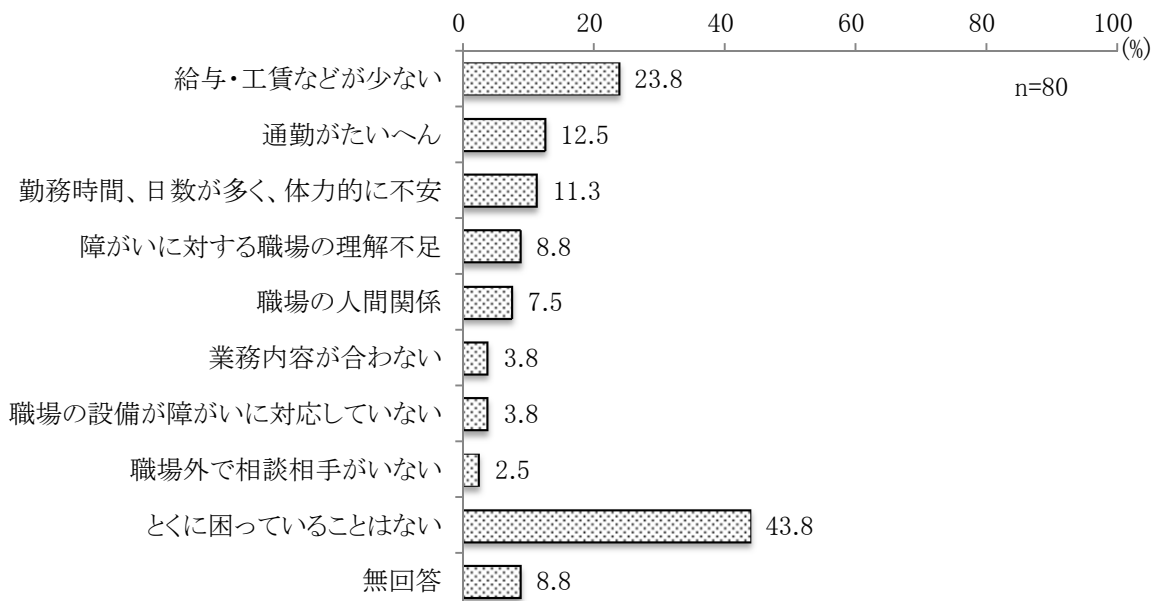
	5千円未満	5千円～1万円未満	1万円～3万円未満	3万円～5万円未満	5万円～10万円未満	10万円～20万円未満	20万円～30万円未満	30万円以上	無回答
全 体 n=80	5.0%	3.8%	5.0%	10.0%	21.3%	25.0%	17.5%	10.0%	2.5%
自営業(家業の手伝いを含む) n=21	4.8%	4.8%	14.3%	19.0%	19.0%	14.3%	9.5%	9.5%	4.8%
会社・団体等の正規の職員 n=25	—	—	—	—	4.0%	24.0%	48.0%	24.0%	—
アルバイト、臨時、パート、嘱託 n=27	—	—	—	14.8%	44.4%	40.7%	—	—	—
内職 n=1	—	100.0%	—	—	—	—	—	—	—
就労継続支援、就労移行支援などの事業所、作業所 n=4	75.0%	25.0%	—	—	—	—	—	—	—
無回答 n=2	—	—	50.0%	—	—	—	—	—	50.0%

(4) 仕事をするうえで困っていること

問 27 仕事をするうえで困っていることはなんですか。(○はいくつでも)

仕事をするうえで困っていることとしては、「給与・工賃などが少ない」が23.8%と最も多く、次いで「通勤がたいへん」が12.5%で続いている。

[図表 II-8-4: 仕事をするうえで困っていること]

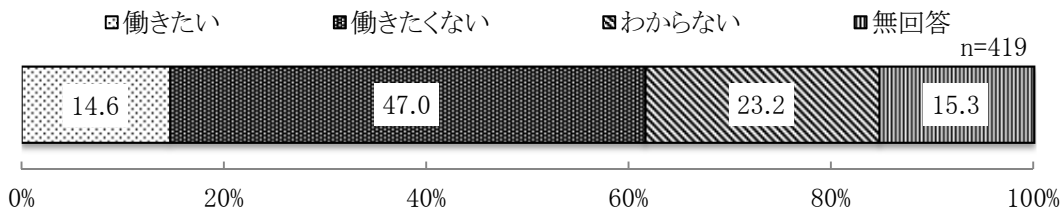


(5) 就労意向

問 28 今後、自分の健康状況や通勤の可能性など、条件が整えば働きたいと思えますか。(○は1つ)

現在働いていない人でも、自分の健康状況や通勤の可能性などの条件が整えば、14.6%の人は「働きたい」と回答している。

[図表 II-8-5: 就労意向]

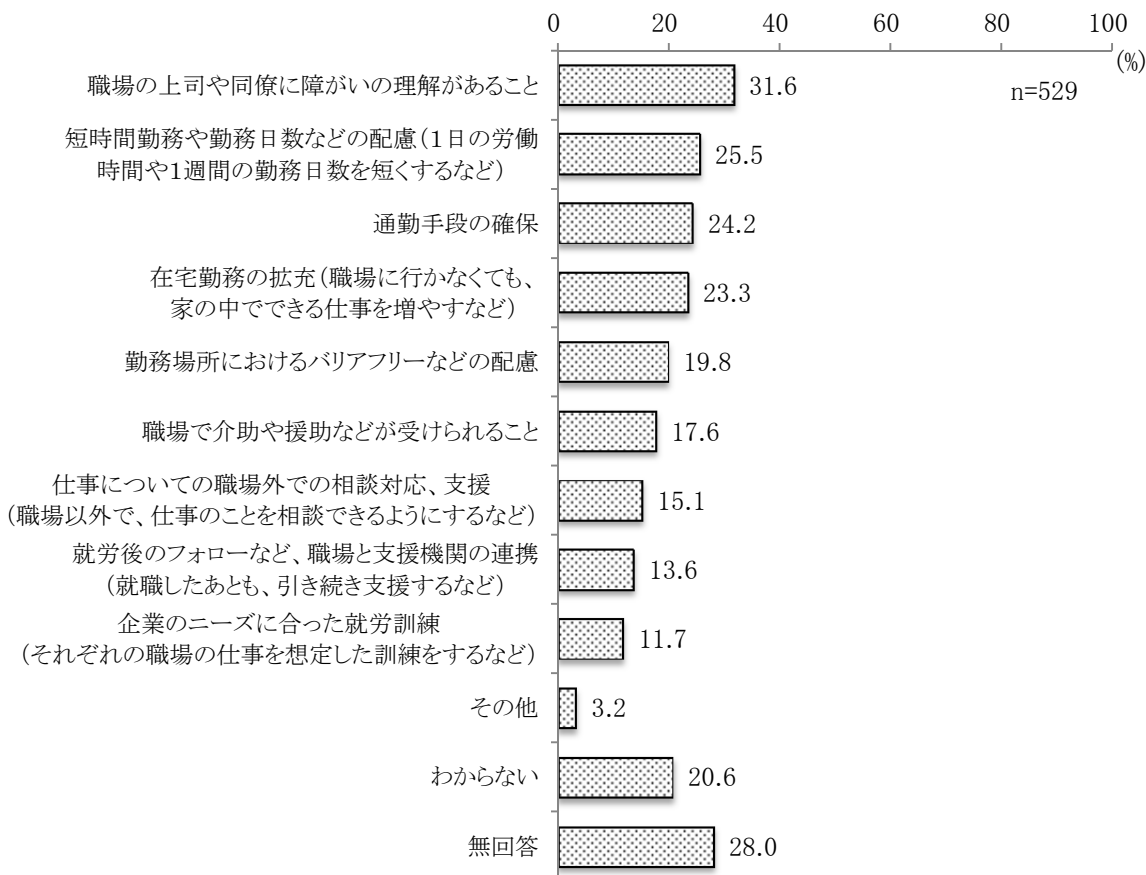


(6) 障がい者の就労支援に必要なこと

問 29 あなたは、障がい者の就労支援として、どのようなことが必要だと思いますか。あてはまるものに○をつけてください。(○はいくつでも)

障がい者の就労支援として必要なこととしては、「職場の上司や同僚に障がいの理解があること」をあげる人が31.6%と最も多く、次いで「短時間勤務や勤務日数などの配慮(1日の労働時間や1週間の勤務日数を短くするなど)」(25.5%)、「通勤手段の確保」(24.2%)と続いている。

[図表 II-8-6: 障がい者の就労支援に必要なこと]



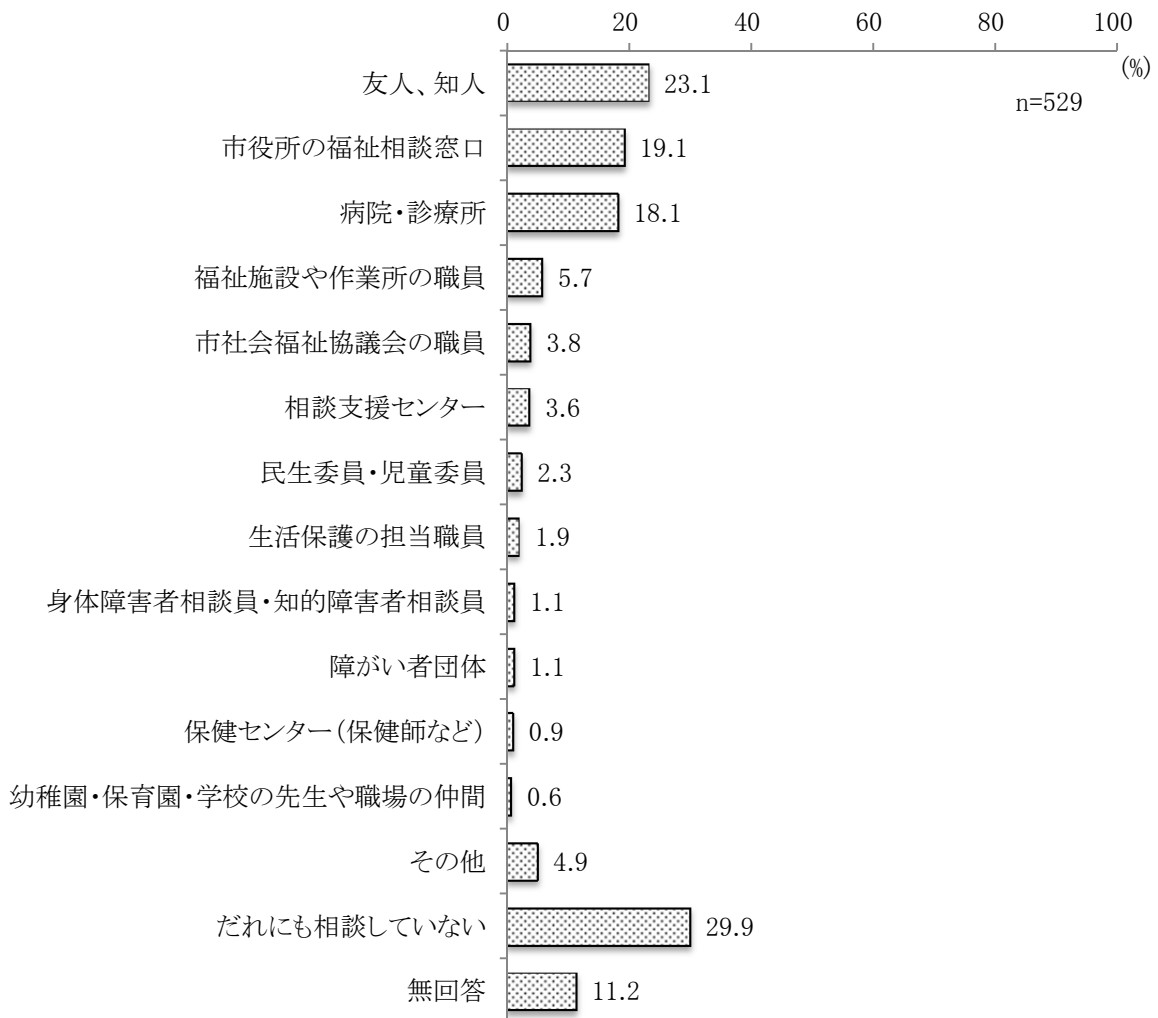
9 相談や情報入手の状況

(1) 悩みごとや心配ごとの相談先

問 30 あなたは、悩みごとや心配ごとがあるとき、家族や親せき以外に、どのようなところに相談していますか。
 (○はいくつでも)

悩みごとや心配ごとの相談先としては、「友人・知人」をあげる人が 23.1%、「市役所の福祉相談窓口」が 19.1%、「病院・診療所」が 18.1%となっているが、約 3 割は「だれにも相談していない」(29.9%) 状況である。

[図表 II-9-1: 悩みごとや心配ごとの相談先]

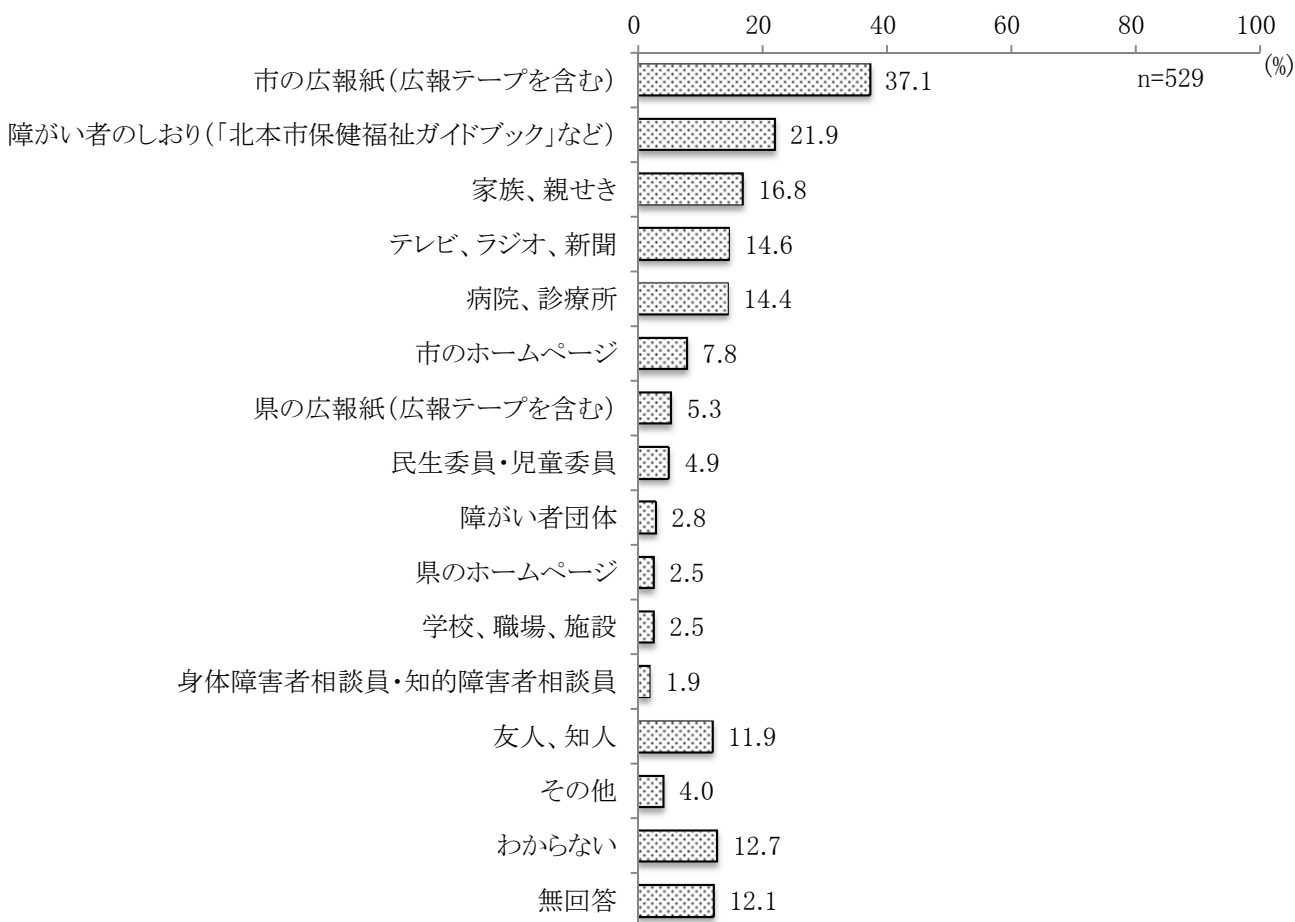


(2) 福祉サービスなどの情報の入手先

問 31 障がい福祉サービスなどの情報をどこから得ていますか。(○はいくつでも)

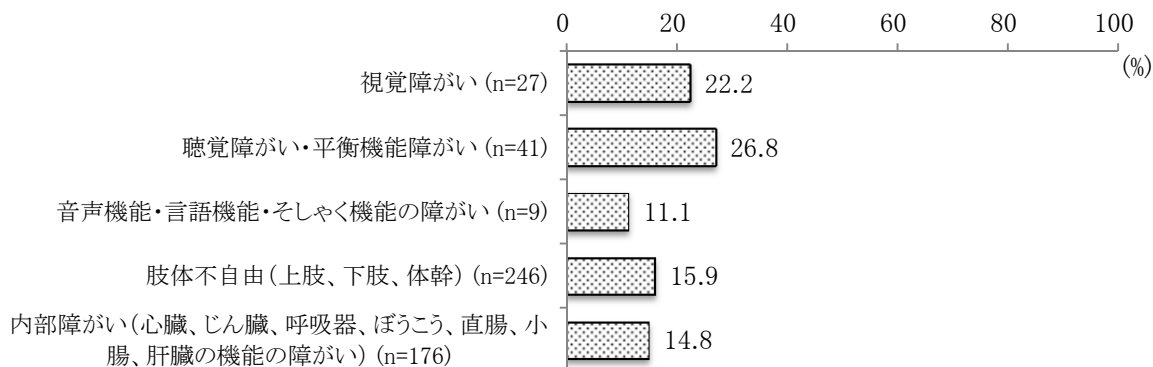
障がい福祉サービスなどの情報の入手先は、「市の広報紙（広報テープを含む）」が37.1%と最も多く、次いで「障がい者のしおり（「北本市保健福祉ガイドブック」など）」(21.9%)、「家族、親せき」(16.8%)と続いている。

[図表Ⅱ-9-2:福祉サービスなどの情報の入手先]



視覚障がいのある人と聴覚・平衡機能障がいのある人についてみると、どちらも2番目に「家族、親せき」があげられているが、その割合は他の障がいに比べて高くなっている。

[図表Ⅱ-9-3:「家族、親せき」から情報を得ている人の割合/障がいの種類別]

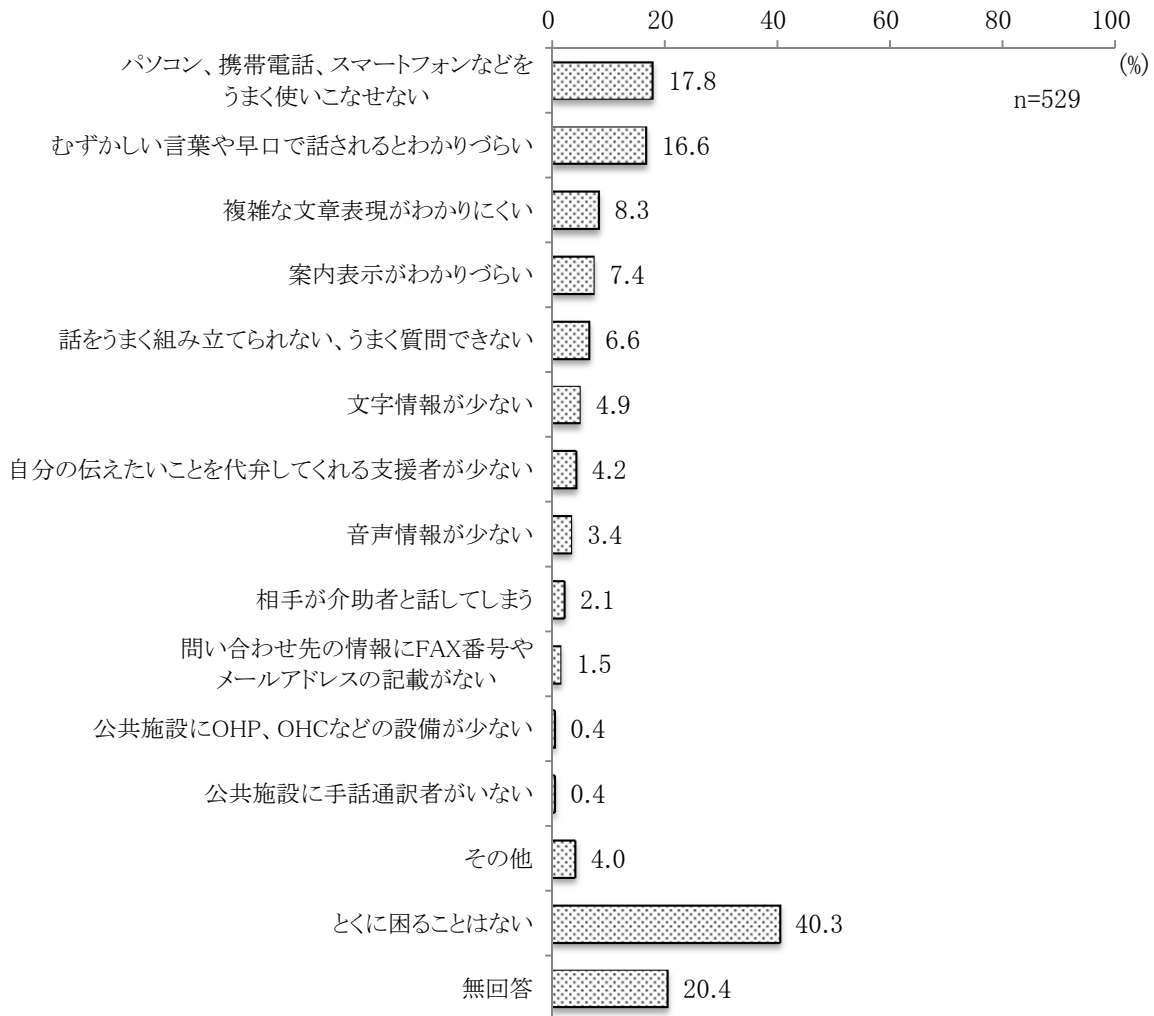


(3) コミュニケーションや情報取得をするうえで困ること

問 32 コミュニケーションや情報取得をするうえで困ることはどのようなことですか。(○はいくつでも)

コミュニケーションや情報取得については、約4割が「とくに困ることはない」(40.3%)と回答しているが、困ることとしては、「パソコン、携帯電話、スマートフォンなどをうまく使いこなせない」ことをあげる人が17.8%と最も多く、次いで「むずかしい言葉や早口で話されるとわかりづらい」が16.6%で続いている。

[図表Ⅱ-9-4:コミュニケーションや情報取得をするうえで困ること]



視覚障がいのある人と聴覚・平衡機能障がいのある人についてみると、視覚障がいのある人では、33.3%が「音声情報が少ない」ことで困っていることがわかる。また、聴覚・平衡機能障がいのある人のうち41.5%が「むずかしい言葉や早口で話されるとわかりづらい」、26.8%が「文字情報が少ない」ことで困っていることがわかる。

[図表Ⅱ-9-5:コミュニケーションや情報取得をするうえで困ること／視覚障がい、聴覚・平衡機能障がい(上位3項目)]

		1位	2位	3位
視覚障がい	n=27	音声情報が少ない (33.3%)	案内表示がわかりづらい (25.9%)	パソコン、携帯電話、スマートフォンなどをうまく使いこなせない (22.2%)
聴覚・平衡機能障がい	n=41	むずかしい言葉や早口で話されるとわかりづらい (41.5%)	文字情報が少ない (26.8%)	パソコン、携帯電話、スマートフォンなどをうまく使いこなせない (26.8%)

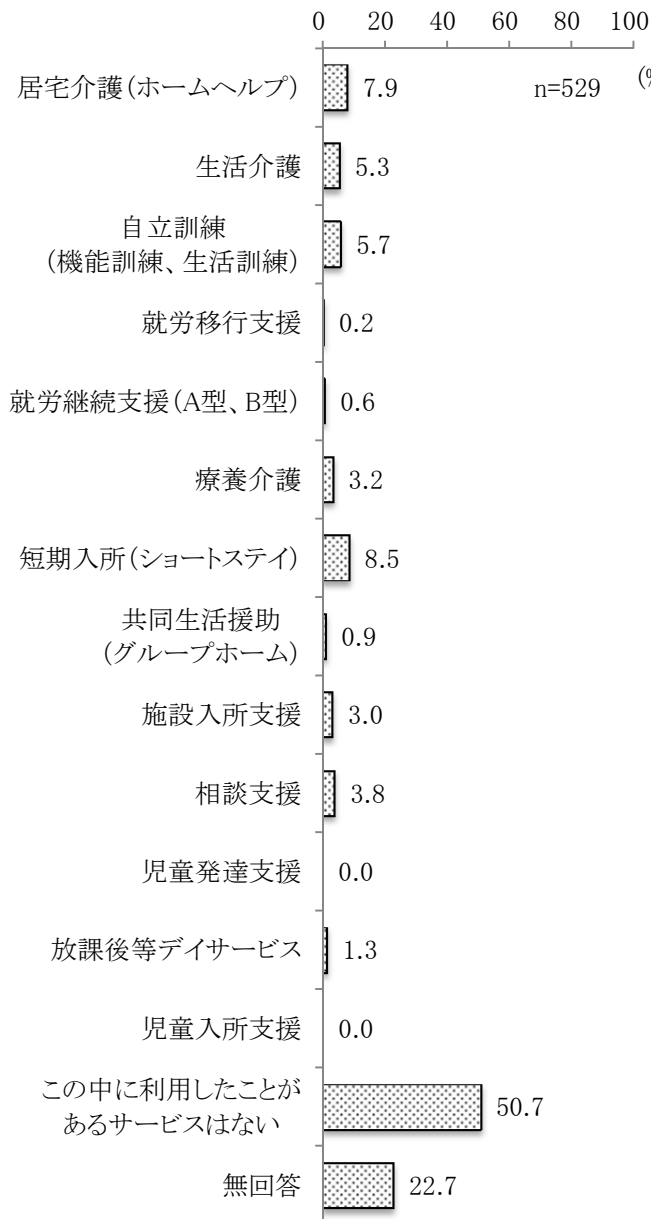
10 障がい福祉サービスについて

(1) サービスの利用状況

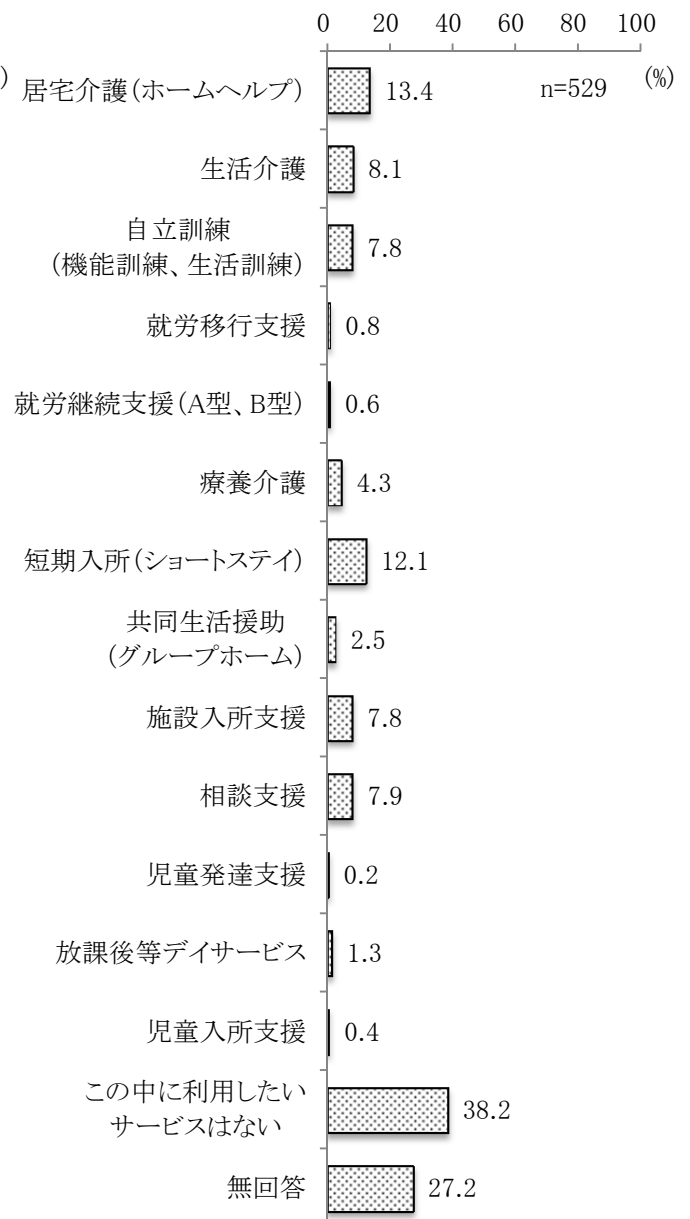
問 33 あなたは、ここ1年くらいの間に、次のサービスを利用したことがありますか。利用したことがあるものすべてに○をつけてください。(○はいくつでも)

利用したことのある障がい福祉サービスは、「短期入所（ショートステイ）」が8.5%と最も多く、次いで「居宅介護（ホームヘルプ）」が7.9%が続いている。なお、約半数は、「この中に利用したことがあるサービスはない」（50.7%）と回答している

[図表 II-10-1: サービスの利用状況]



[図表 II-10-2: サービスの利用意向]



(2) サービスの利用意向

問 34 次のサービスの中で、今後も引き続き利用したい、あるいは、新たに利用したいと思うサービスはありますか。利用したいものすべてに○をつけてください。(○はいくつでも)

今後も引き続き利用したい、あるいは新たに利用したいと思う障がい福祉サービスは、「居宅介護（ホームヘルプ）」が 13.4%と最も多く、次いで「短期入所（ショートステイ）」が 12.1%で続いている。

利用したことのある障がい福祉サービスがない人についてみると、約7割は「この中に利用したいサービスはない」（70.9%）と回答しているが、「居宅介護（ホームヘルプ）」を利用したい人は 4.9%、「生活介護」を利用したい人は 3.4%など、今後新たに障がい福祉サービスを利用したいと考えている人もみられる。

[図表Ⅱ-10-3: サービスの利用意向/いままで障がい福祉サービスを利用したことがない人]

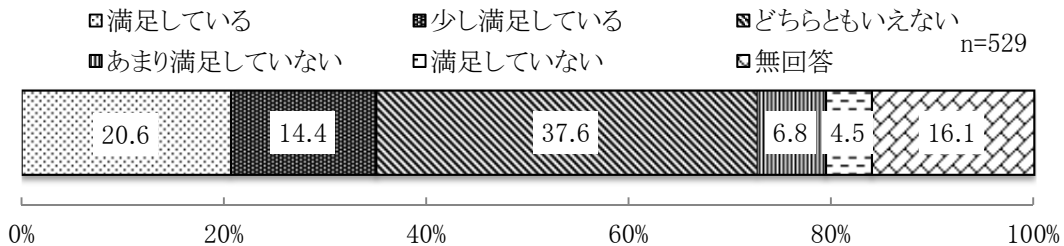
n=268	居宅介護(ホームヘルプ)	生活介護	自立訓練(機能訓練、生活訓練)	就労移行支援	療養介護	短期入所(ショートステイ)
	4.9%	3.4%	1.5%	0.4%	1.1%	3.0%
	共同生活援助(グループホーム)	施設入所支援	相談支援	放課後等デイサービス	この中に利用したいサービスはない	無回答
	1.1%	3.0%	6.0%	0.7%	70.9%	13.4%

(3) 障がい福祉サービスの満足度

問 35 市の障がい福祉サービス全般について、満足していますか。(○は1つ)

市の障がい福祉サービス全般については 20.6%が「満足している」、14.4%が「少し満足している」と回答している。

[図表Ⅱ-10-4: 障がい福祉サービスの満足度]



障がい福祉サービスの利用状況別にみると、何らかのサービスを利用したことがある人では、「満足している」23.4%、「少し満足している」22.7%、「満足していない」7.1%、「あまり満足していない」8.5%となっており、満足と不満足との割合は概ね3：1となっている。

[図表Ⅱ-10-5: 障がい福祉サービスの満足度/障がい福祉サービスの利用状況別]

	満足している	少し満足している	どちらともいえない	あまり満足していない	満足していない	無回答
サービス利用あり n=141	23.4%	22.7%	35.5%	8.5%	7.1%	2.8%
サービス利用なし n=268	22.8%	11.6%	47.0%	5.2%	3.7%	9.7%

(4) 障がい福祉サービスについて満足していないところ

問 36 満足していないのはどのようなところですか。ご自由にお書きください。(自由記入)

市の障がい福祉サービス全般について満足していないところとしては、具体的に次のような記入があった。

- ・ 市役所に手続きに行くのが大変。
- ・ いろいろな申請の手続きに時間がかかりすぎる。
- ・ サービスはたくさんあるのかもしれないが、情報が少なく、全部使いこなせない。
- ・ 福祉サービス全般についてもっと詳しい情報やサービスをしてほしい。
- ・ 病院までに行く、交通手段がない。
- ・ 急な出来事に相談できる土、日、電話がほしい。夜中も。
- ・ 市内に利用できるサービスがない。
- ・ 卒業後の進路先が少なすぎる。
- ・ 生活介護型の作業所も内容にバラつきがあり作業が出来ない子は、居づらい環境に思える。
- ・ 短期入所できる所が近くにない。受け入れ場所が少ない。
- ・ 高齢になると受けられるサービスが少ない。
- ・ 卓球・テニスなど、障がい者が利用できる施設、機会がない。
- ・ 各種箱物には洋式のトイレがほとんどない。体が不自由なので洋式にしてほしい。
- ・ デマンドバスが希望する時間に空きがなく利用しづらい。
- ・ 手話通訳が急なために頼めない。
- ・ 市役所の職員で手話を知っている人、できる人(簡単な程度でも)がほとんどいない。
- ・ 外出時に車いすが必要で、市で借りられるのか調べたら基本的に 65 歳以上と書いてあり残念。

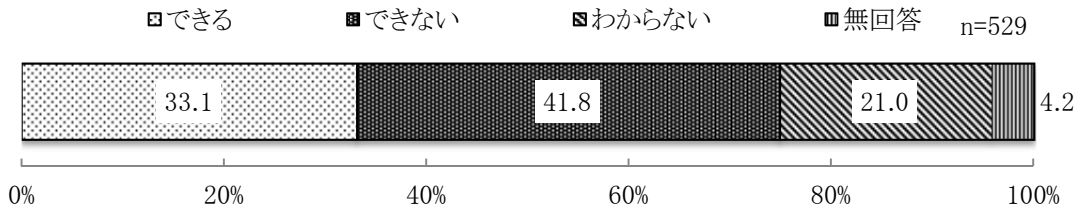
11 防災対策について

(1) 災害時の単独避難の能否

問 37 あなたは、地震や台風などの災害時に、ひとりで避難できると思いますか。(○は1つ)

地震や台風などの災害時に、ひとりで避難「できる」と回答した人は33.1%で、約4割は「できない」(41.8%)と回答している。

[図表 II-11-1: 災害時の単独避難の能否]



障がいの種類別にみると、視覚障がいでは、27人中17人(63.0%)が、肢体不自由では52.0%が、ひとりで避難「できない」と回答している。

[図表 II-11-2: 災害時の単独避難の能否／障がいの種類別]

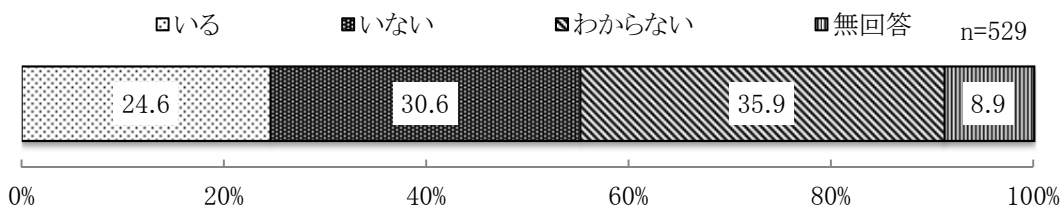
障がいの種類	n	できる	できない	わからない	無回答
視覚障がい	n=27	14.8%	63.0%	14.8%	7.4%
聴覚障がい・平衡機能障がい	n=41	46.3%	31.7%	12.2%	9.8%
音声機能・言語機能・そしゃく機能の障がい	n=9	55.6%	33.3%	—	11.1%
肢体不自由(上肢、下肢、体幹)	n=246	23.2%	52.0%	21.1%	3.7%
内臓障がい(心臓、じん臓、呼吸器、ぼうこう、直腸、小腸、肝臓の機能の障がい)	n=176	47.7%	25.6%	25.6%	1.1%
その他	n=14	28.6%	57.1%	14.3%	—
無回答	n=16	12.5%	43.8%	18.8%	25.0%

(2) 近隣援助者の有無

問 38 家族が不在の場合や、ひとり暮らしの場合、近所にあなたを助けてくれる人はいますか。(○は1つ)

災害時、近所に助けてくれる人が「いる」人は24.6%で、約3割は「いない」(30.6%)と回答している。

[図表 II-11-3: 近隣援助者の有無]

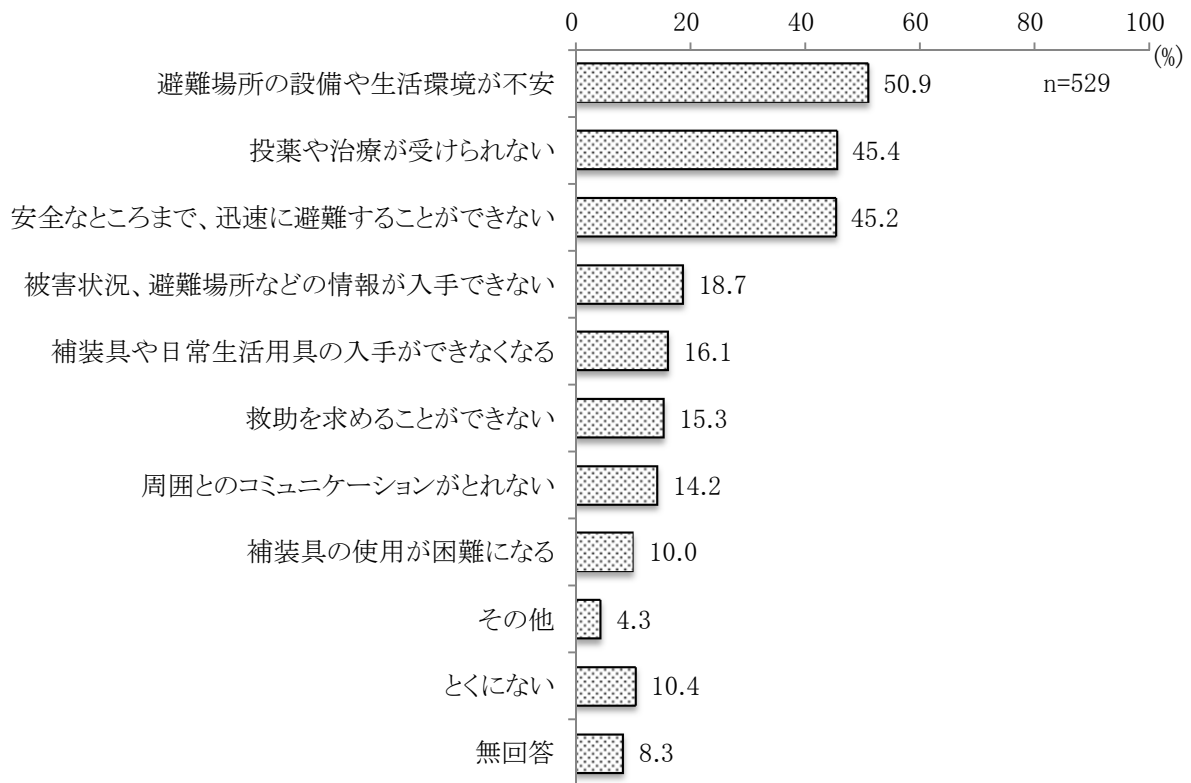


(3) 災害時に困ると思うこと

問 39 地震や台風などの災害時に困ると思うことはなんですか。(○はいくつでも)

災害時に困ることとしては、「避難場所の設備や生活環境が不安」をあげる人が 50.9%と最も多く、次いで「投薬や治療が受けられない」(45.4%)、「安全なところまで、迅速に避難することができない」(45.2%)と続いている。

[図表Ⅱ-11-4: 災害時に困ると思うこと]



障がいの種類別にみると、視覚障がいでは、27人中17人(63.0%)が「安全なところまで、迅速に避難することができない」ことをあげている。また、聴覚・平衡機能障がいでは「周囲とのコミュニケーションがとれない」が36.6%と最も多くなっている。

[図表Ⅱ-11-5: 災害時に困ると思うこと／視覚障がい、聴覚・平衡機能障がい(上位3項目)]

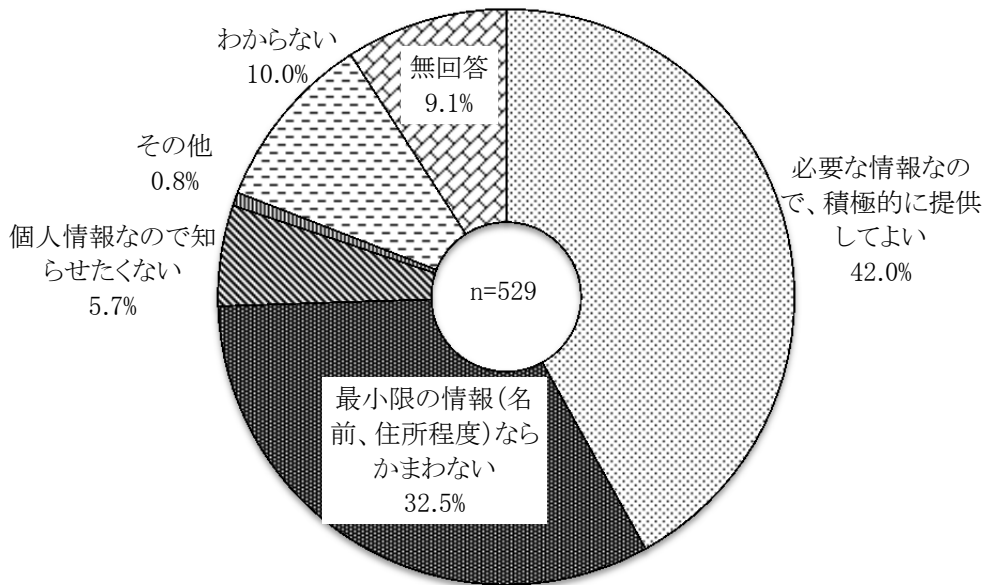
		1位	2位	3位
視覚障がい	n=27	安全なところまで、迅速に避難することができない (63.0%)	避難場所の設備や生活環境が不安 (44.4%)	投薬や治療が受けられない (29.6%)
聴覚障がい・平衡機能障がい	n=41	周囲とのコミュニケーションがとれない (36.6%)	安全なところまで、迅速に避難することができない (34.1%)	被害状況、避難場所などの情報が入手できない (31.7%)

(4) 避難行動要支援者避難支援制度に対する考え

問 40 災害時に行政や地域などから支援を受けるため、あらかじめ個人情報（名前、住所、世帯の状況、障がいの状況等）を市に提供することについて、どう思いますか。（○は1つ）

避難行動要支援者避難支援制度については、42.0%の人が「必要な情報なので、積極的に提供してよい」、32.5%の人が「最小限の情報（名前、住所程度）ならかまわない」と回答しており、合わせると7割超は個人情報を提供してもかまわないと考えていることがわかる。

[図表 II-11-6: 避難行動要支援者避難支援制度に対する考え]



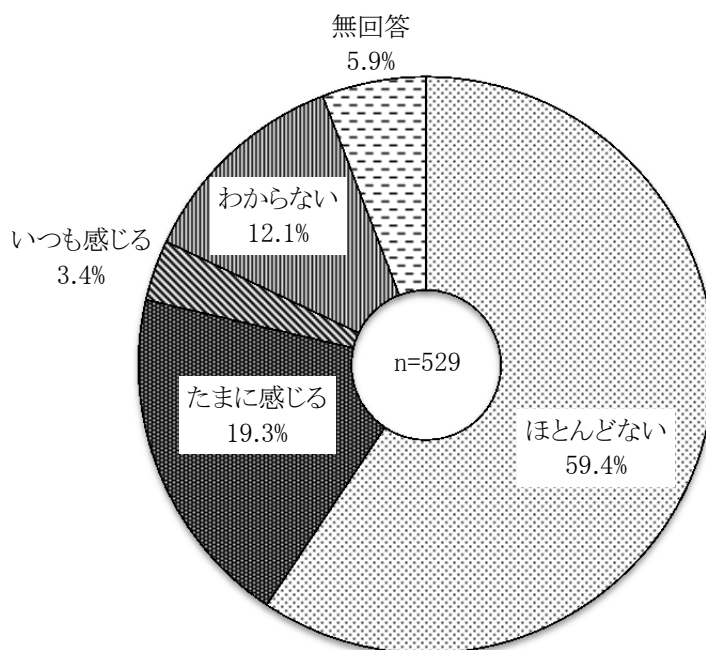
12 差別や人権侵害について

(1) 差別や人権侵害を受けた経験

問 41 障がいがあることで、差別や人権侵害を受けていると感じることはありますか。(○は1つ)

約6割の人は、障がいがあることで差別や人権侵害を受けていると感じたことは「ほとんどない」(59.4%)と回答しているが、「いつも感じる」(3.4%)と「たまに感じる」(19.3%)を合わせると2割超の人は差別や人権侵害を感じたことがあることがわかる。

[図表Ⅱ-12-1:差別や人権侵害を受けた経験]



(2) 差別や人権侵害の内容

問 42 具体的には、どのようなときに、差別や人権侵害を受けていると感じますか。(自由記入)

差別や人権侵害の具体的な内容については、次のような記入があった。

[言葉や視線]

- ・ 病院の待合室でじろじろと見られる。(80歳男性)
- ・ 人の集まる場所に行くと、じろじろ見られる。(78歳男性)
- ・ 不自由な身体を見られている感じがする。(74歳男性)
- ・ 障害者手帳を持っていると知られると、じろじろ見られる。見た目ではわからないからかもしれない。(38歳女性)
- ・ 脚が不自由で、歩き方で普通の人とことなるため、イヤな目でみられる。(75歳女性)
- ・ 酸素を吸うときシューと音がするので、うるさがられ私の回りから人がいなくなる。特にコンサートに行ったときには、白い目で見られる。(65歳男性)
- ・ 公園で「障がいのある人は、障がいのある人だけが利用するところで遊べ」と言われた。(9歳女性)

- ・ 知らない人に、足が悪いんですねとストレートに言われること。(63歳男性)
- ・ 若くして透析になったため、医療費が償還払いで済むことや年金を受けていることに、「ずるーい」「もう年金もらっているんだ」という言葉が大変傷ついた。(53歳女性)
- ・ 言葉による直接的な言動。(52歳男性)

[就労・職場]

- ・ リストラされた。(52歳男性)
- ・ 直接感じたことはないが、勤務先での評価・昇進の機会に影響があるかもしれない。(58歳男性)

[外出時や余暇活動]

- ・ 聞こえない時の対応、筆談してくれないことが多い。(62歳男性)
- ・ 障がい者と伝えても対応しない(店の接客係)。(46歳男性)
- ・ いろいろなツアーに参加しているが、ある観光会社に「障がいがある人は参加お断わり」と言われた。(32歳男性)

[保育・教育]

- ・ 保育所に行けなかったのは「本人の状態」+「本人の安全を確保できない」との理由だった。「本人」を理由にして障がいのある人を普通の社会から追いやっていると感じた。(1歳男性)
- ・ 小学校のとき、いじめにあっていたが、先生や学校は、保護者に話がなかった。家族は、本人からの話しや、泣いて帰ったことで気がついた。(14歳女性)
- ・ 子ども達の障がい者に対する教育ができていない。学校教育に時間をとるべき。(66歳女性)

[医療機関]

- ・ 重度の知的障がいを受けてくれる病院が少ない。北本の泌尿器科はどこも受けってくれなかった。(20歳男性)

[その他]

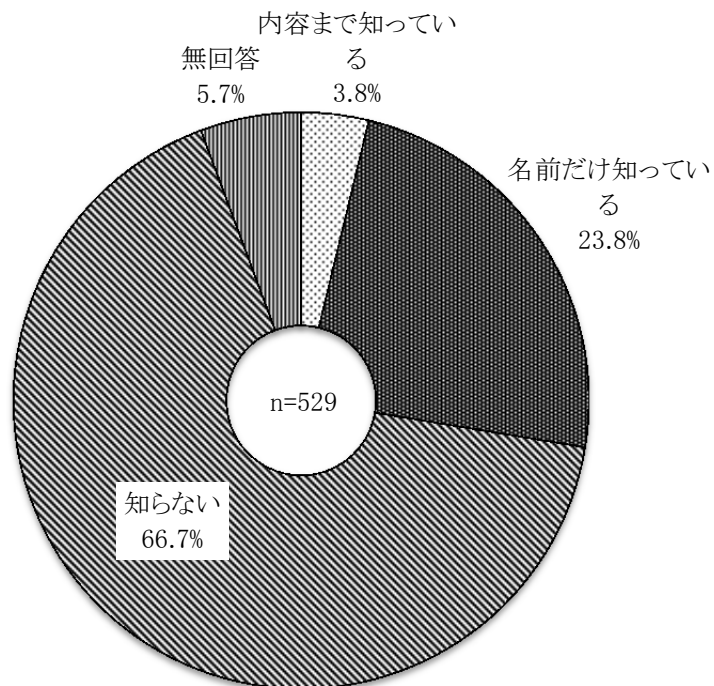
- ・ 特別扱いしすぎる面がある。(63歳女性)
- ・ 生命保険などへの加入が難しい。(61歳男性)

(3) 障害者差別解消法の認知状況

問 43 障がいのある方々への差別をなくすことを目的として、今年の4月1日に「障害者差別解消法」が施行されましたが、このことを知っていますか。(○は1つ)

障害者差別解消法を「内容まで知っている」人は 3.8%、「名前だけ知っている」人は 23.8% となっており、3人に2人は「知らない」(66.7%) 状況である。

[図表Ⅱ-12-2: 障害者差別解消法の認知状況]



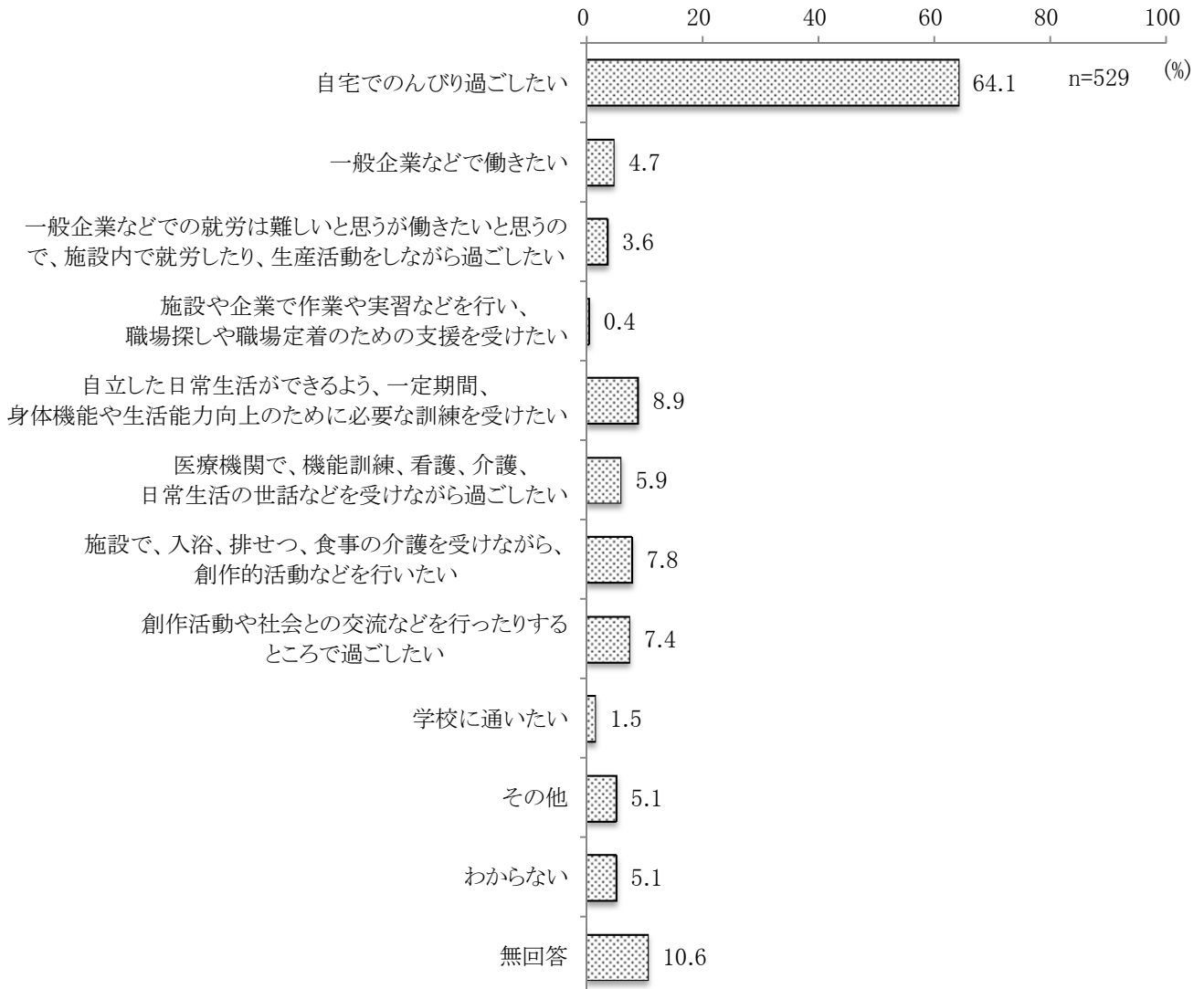
13 将来の希望等について

(1) 今後、希望する日中の過ごし方

問 44 今後、どのように日中を過ごしたいと思いますか。(〇はいくつでも)

今後、希望する日中の過ごし方としては、64.1%の人が「自宅でのんびり過ごしたい」と回答している。

[図表 II-13-1: 今後、希望する日中の過ごし方]

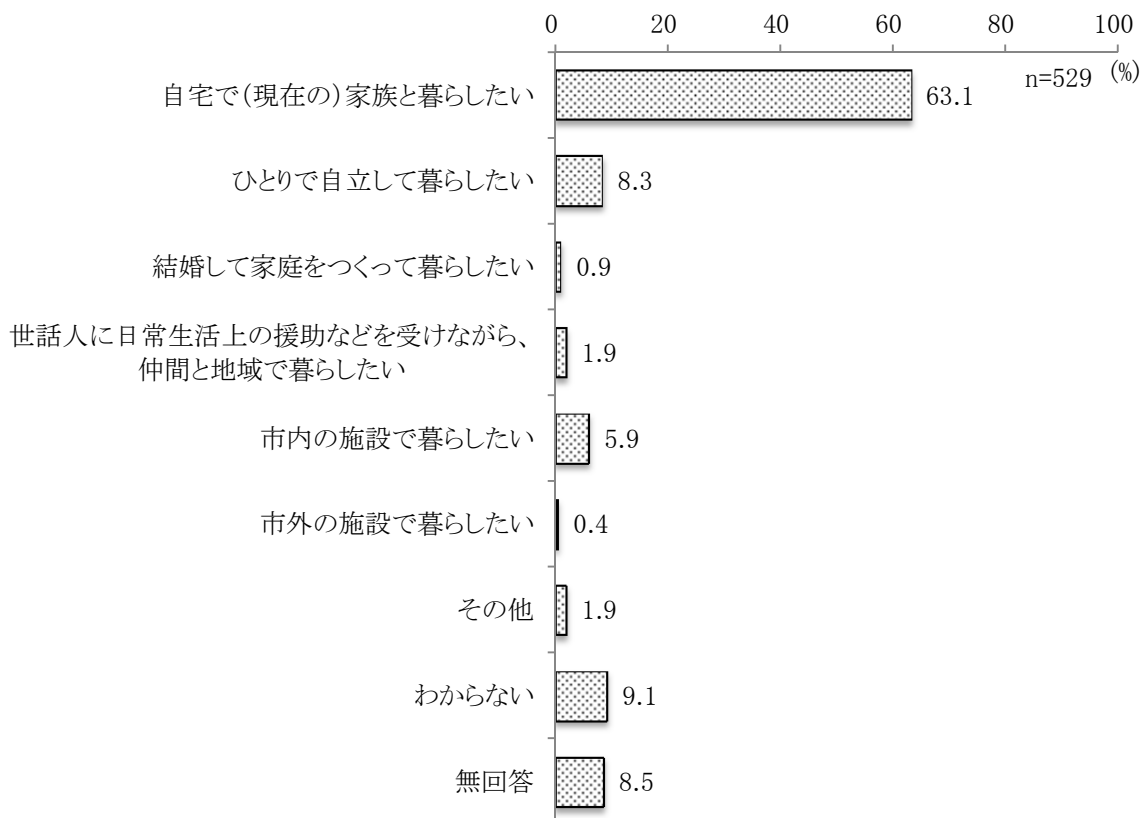


(2) 近い将来、希望する暮らし方

問 45 あなたは、近い将来（おおむね5～10年後）どのように暮らしたいと思いますか。（○は1つ）

近い将来（おおむね5～10年後）希望する暮らし方としては、63.1%の人が「自宅で（現在の）家族と暮らしたい」と回答している。

[図表Ⅱ-13-2:近い将来、希望する暮らし方]



(3) 意見・要望

最後に、この調査を通じて、選択肢や自由記入欄だけでは表現しきれなかったことや、ご意見・ご要望などがありましたら、ご自由にお書きください。(自由記入)

調査の終わりにあたり、意見・要望等についての自由記入欄を設けたところ、以下のような記入があった。

[環境整備などに関すること]

- ・ 市内の道は一部を除き狭く歩道がない。狭い道をゆっくり歩くが車のスピードが早く危険を感じるが多い。体を動かすために散歩したくても危なくてできない。(75歳女性)
- ・ 年寄が多いので近所の人達とお茶など飲める場所がほしい(たとえば市の空き地にテーブルとイスを置くとか)。(73歳女性)
- ・ デマンドバスを予約が集中する時間だけでも、増やしていただければ大助かり。(67歳女性)
- ・ 買いものを便利にする手段の充実を求めたい。(78歳女性)
- ・ 思いやり駐車場利用許可証を北本でも発行してほしい。この件について「すぐやる課」から返答するとのことだったが何ヶ月たっても返答がない。(9歳女性)

[相談・手続きに関すること]

- ・ 障がい者の側からすべて、役所の方へ出向いてお願いしないと援助が受けられないことが多い様に思います。他人を頼むのも気兼ねなので諦めがさきに立ちます。(77歳男性)
- ・ 償還払いをどうにかしてもらいたい。(46歳女性)

[情報提供に関すること]

- ・ 色々な情報が入りにくい。相談に自分から行けない人には手段がない。(84歳男性)
- ・ 視覚障がいなので、まわりで何か起ってもまったくわかりません。常に不安。(78歳男性)
- ・ 聴覚障がいには情報保障が必要である。音声情報を文字情報にかえることを進めてほしい。(62歳男性)
- ・ 障がいをもっている子どもの幼稚園について何も情報がない。発達障がいだけでなく、肢体不自由などの子の情報をもっと発して欲しい。(4歳男性)
- ・ 放課後等デイサービスこども課から障がい福祉課にかわったが、こども課で説明受けたことと、全く違うことを言われる。(9歳女性)
- ・ 介護保険と受ける内容の区別がわからない。はっきりしない。(63歳女性)

[施設の整備などに関すること]

- ・ 市内にグループホーム、ショートステイがほしい。(45歳女性)
- ・ 介護施設でゆっくり生活したい(リハビリ等も含めて)。(68歳男性)
- ・ 視覚障がいなので、施設が少なく、心配している。(64歳女性)

[経済的な援助に関すること]

- ・ 医療費以外に雑費が非常に大きいので、おむつ等の補助が出れば助かります。(70歳女性)

<Ⅱ 身体障がい者調査結果>

- ・ 障がい者は働きたくても働けない事実があります。手厚い保護を願います。(58歳女性)

[障がいに対する理解や権利擁護に関すること]

- ・ 人間らしく一生を暮らすための知識や知恵、そして何より大切なお互いの人権を(障がい者もちろん)を尊重することをもっと学校教育で教えるべき。(63歳女性)

[非常時、緊急時の対策に関すること]

- ・ 災害時に継続して透折が受けることができるのか不安。(79歳男性)
- ・ 避難行動支援者避難支援制度について。市役所をおとずれた際、一度担当者が家庭訪問すると聞かされ、待っているのですが連絡もなく、一年程たちます。(45歳男性)

[医療に関すること]

- ・ 救急救命センターの設置。(72歳女性)
- ・ 内部障がい、1時間かけて病院に通っています。もう少し近くで必要な治療や投薬を受けられたらありがたいものです。(59歳女性)

[その他]

- ・ 軽度の障がいであればできるパークゴルフ場の整備をしてほしい。(73歳男性)
- ・ 車イスで行ける散歩コースなど市内にあったら嬉しいです。(83歳男性)

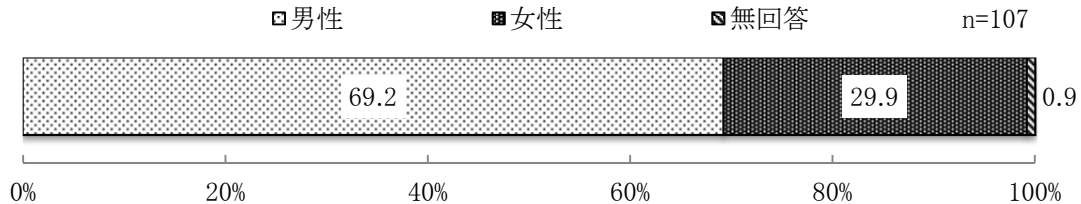
1 基本的な属性

(1) 性別

問2 あなたの性別をお答えください。(○は1つ)

男性が69.2%、女性が29.9%である。

[図表Ⅲ-1-1:性別]



(2) 年齢

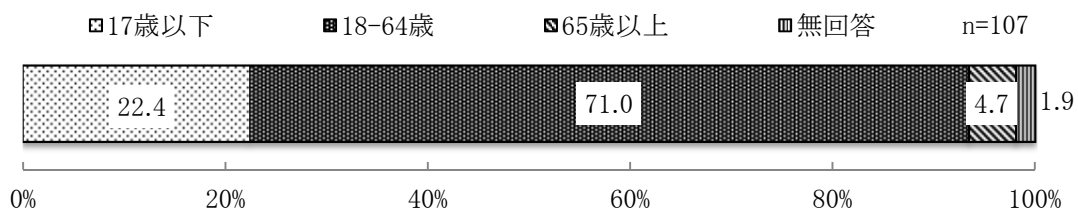
問3 年齢(11月1日現在)を記入してください。

年齢は、20歳代が23.4%、30歳代が23.4%、40歳代が15.0%を占め、平均年齢は30.4歳である。なお、17歳以下は22.4%、65歳以上は4.7%となっている。

[図表Ⅲ-1-2:年齢(10歳刻み)]

年齢	割合
10歳未満	8.4%
10歳代	17.8%
20歳代	23.4%
30歳代	23.4%
40歳代	15.0%
50歳代	4.7%
60歳代	4.7%
70歳代	0.9%
無回答	1.9%

[図表Ⅲ-1-3:年齢(3区分)]



(3) 居住場所

問4 現在、あなたはどこで暮らしていますか。(○は1つ)

現在、78.5%の人が「自宅で暮らしている」状況である。

[図表Ⅲ-1-4:居住場所]

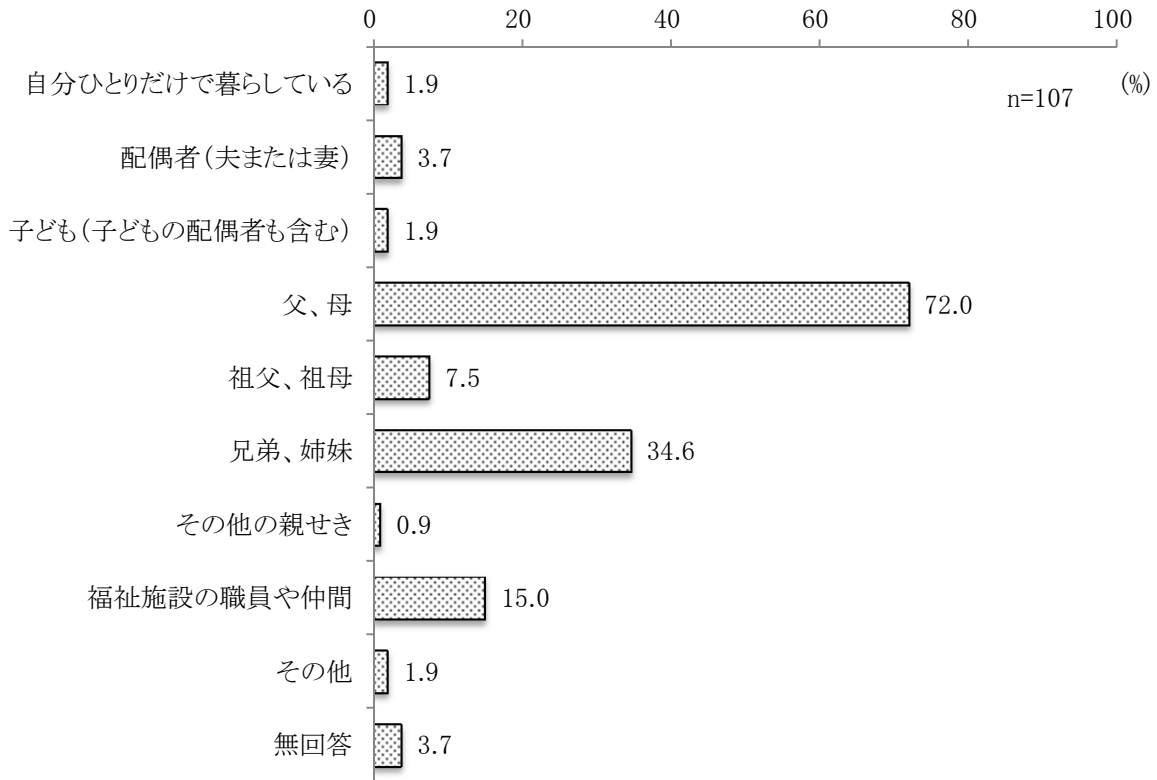
居住場所	割合
自宅で暮らしている	78.5%
病院に入院している	1.9%
福祉施設に入所している	14.0%
その他	1.9%
無回答	3.7%

(4) 同居者

問5 どなたと一緒に暮らしていますか。(○はいくつでも)

72.0%の人は「父、母」と、34.6%の人は「兄弟、姉妹」と暮らしている。

[図表Ⅲ-1-5:同居者]



(5) 調査票の記入者

問1 この用紙(調査票)に記入されるのはどなたですか。(○は1つ)

調査票の記入者については、「本人(この調査票が郵送されたあて名の方)が記入、または本人が答え、代筆者が記入」が18.7%、「家族(本人の立場に立って記入)」が70.1%である。

[図表Ⅲ-1-6:調査票の記入者]

	本人(この調査票が郵送されたあて名の方)が記入、または本人が答え、代筆者が記入	家族(本人の立場に立って記入)	その他の方(本人の立場に立って記入)	無回答
n=107	18.7%	70.1%	0.9%	10.3%

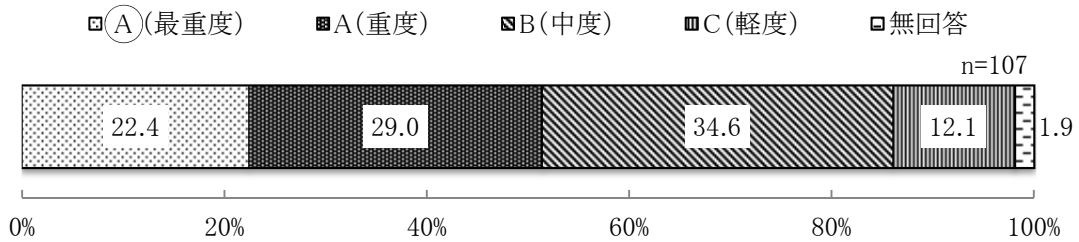
2 障がいの状況

(1) 障がいの程度

問6 療育手帳に書かれている障がいの程度をおこたえください。(○は1つ)

療育手帳に記載されている障がいの程度は、「㊤(最重度)」が22.4%、「A(重度)」が29.0%、「B(中度)」が34.6%、「C(軽度)」が12.1%である。

[図表Ⅲ-2-1:障がいの程度]

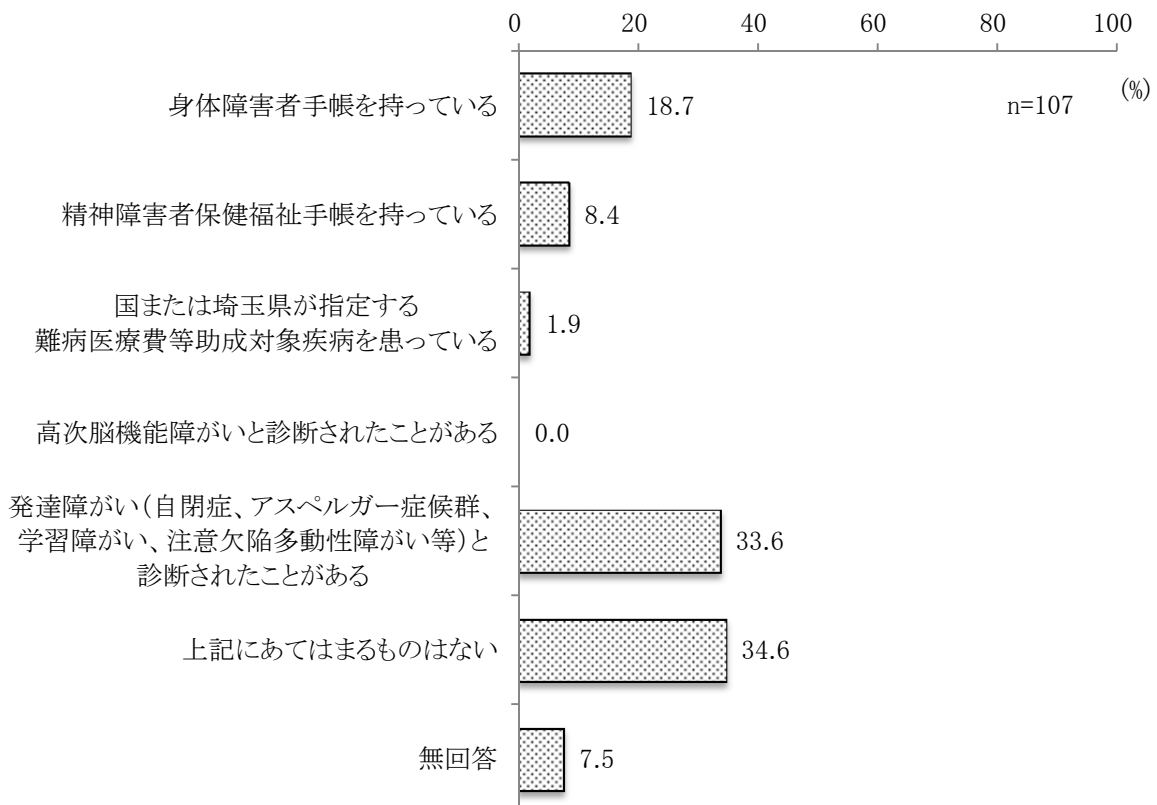


(2) 他の障がいの状況

問7 次のうち、あてはまるものに○をつけてください。(○はいくつでも)

知的障がいのほか、「身体障がい者手帳を持っている」人は18.7%、「精神障がい者保健福祉手帳を持っている」人は8.4%、「国または埼玉県が指定する難病医療費等助成対象疾患を患っている」人は1.9%、「発達障がい(自閉症、アスペルガー症候群、学習障がい、注意欠陥多動性障がい等)と診断されたことがある」人は33.6%である。

[図表Ⅲ-2-2:他の障がいの状況]



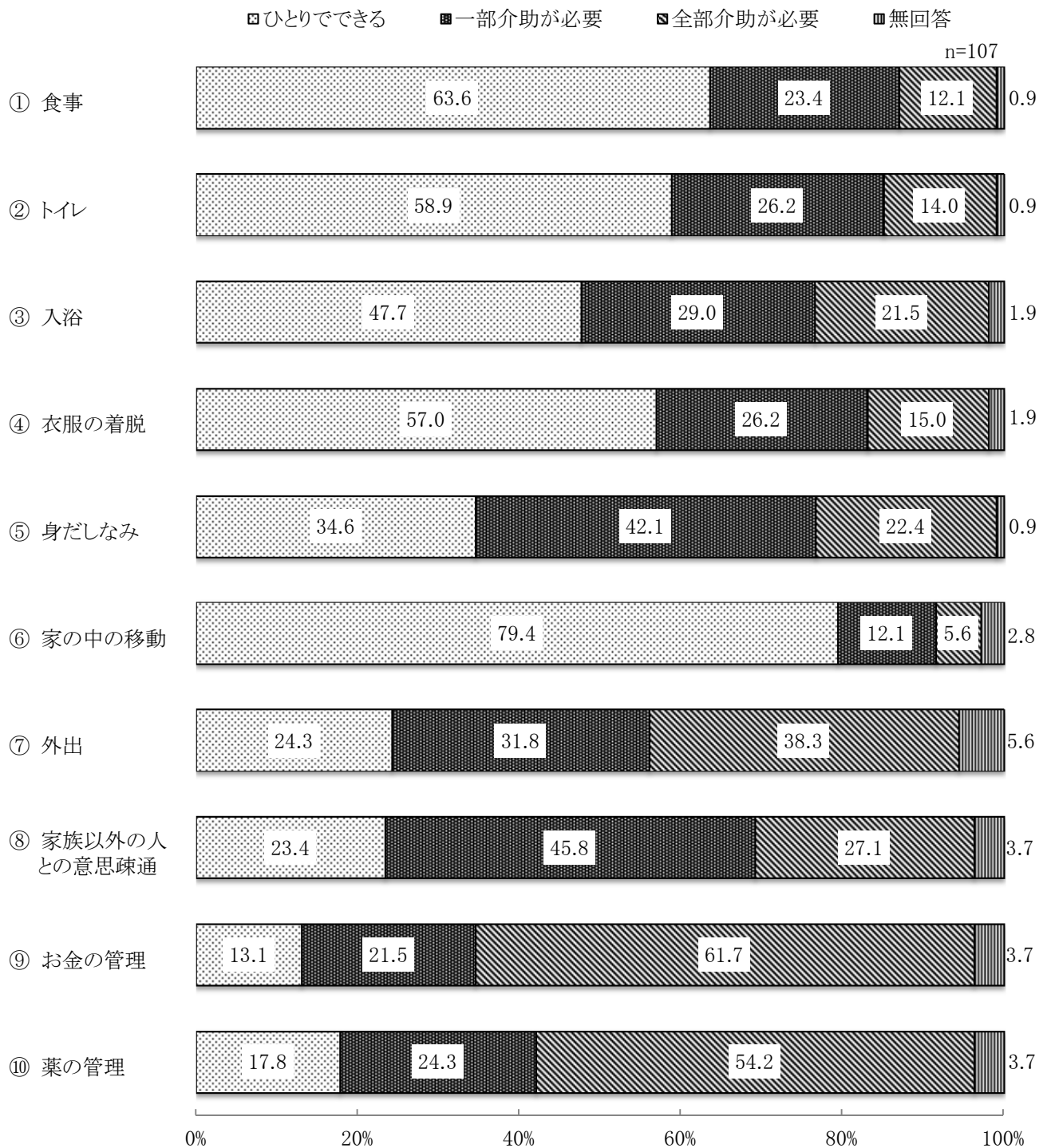
3 介助・援助の状況

(1) 日常生活における介助・援助の必要性

問8 日常生活で、次のことをどのようにしていますか。①から⑩のそれぞれにお答えください。(○は①から⑩それぞれに1つずつ)

日常生活で介助・援助の必要性が最も高いのは「お金の管理」で、61.7%が「全部介助が必要」、21.5%が「一部介助が必要」な状況である。

[図表Ⅲ-3-1:日常生活における介助・援助の必要性]



(2) 主な介助・援助者

問9 ふだん、あなたを主に介助・援助しているのはどなたですか。(○は1つ)

主な介助・援助者は、「父、母」が73.8%を占めている。

[図表Ⅲ-3-2: 主な介助・援助者]

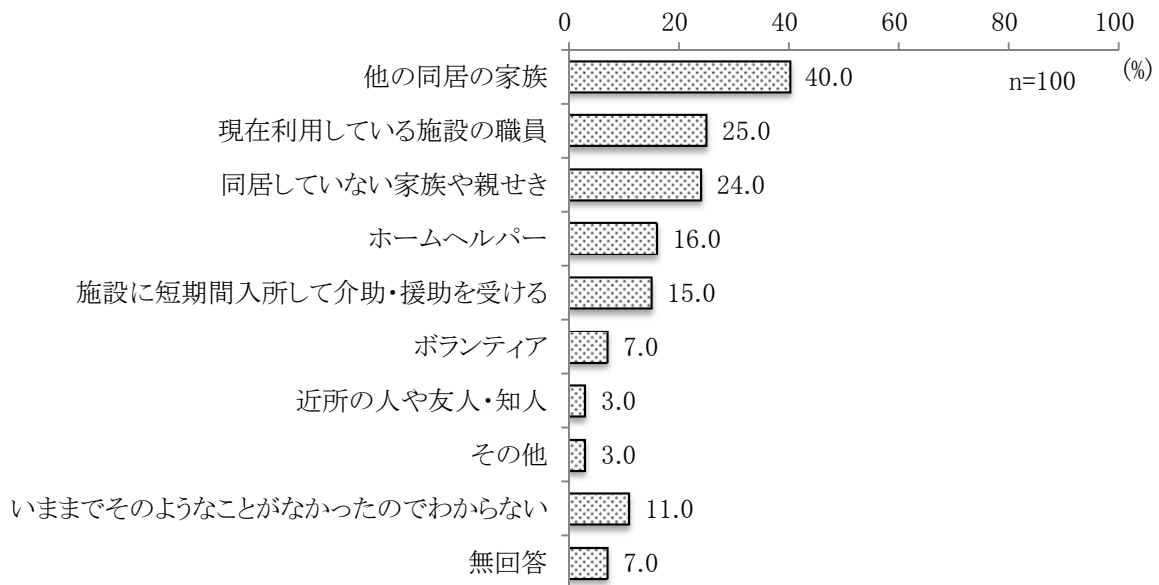
	父、母	配偶者 (夫、妻)	子ども、子 どもの配 偶者	兄弟姉妹	ホームヘル パー等の在 宅サービス 事業者	その他	介助・援助 している人 はいない (必要ない)	無回答
n=107	73.8%	2.8%	0.9%	3.7%	2.8%	9.3%	2.8%	3.7%

(3) 代わりの介助・援助者

問10 あなたを主に介助・援助している方が、病気や外出をしなければならないときは、代わりにどなたに介助・援助してもらいたいと思いますか。(○はいくつでも)

代わりに介助・援助してもらいたい人は、「他の同居の家族」が40.0%と最も多く、次いで「現在利用している施設の職員」(25.0%)、「同居していない家族や親せき」(24.0%)と続いている。

[図表Ⅲ-3-3: 代わりの介助・援助者]



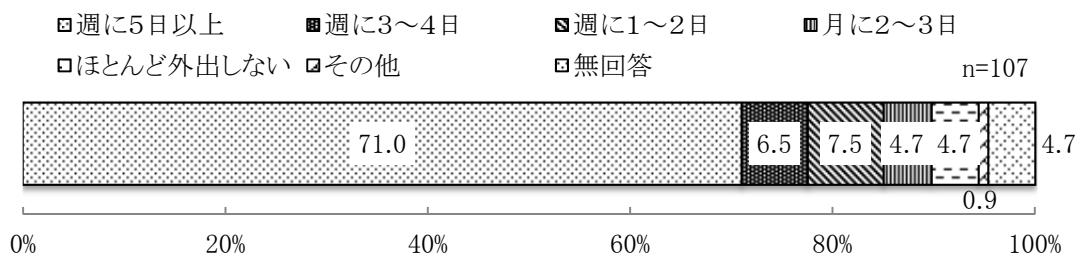
4 外出などの状況

(1) 外出の頻度

問 11 あなたは、どのくらい外出しますか。通園、通学、通勤、買い物、日常の散歩など、すべてを含めてお答えください。(○は1つ)

外出の頻度は、「週5日以上」が約7割(71.0%)を占めている。

[図表Ⅲ-4-1:外出の頻度]

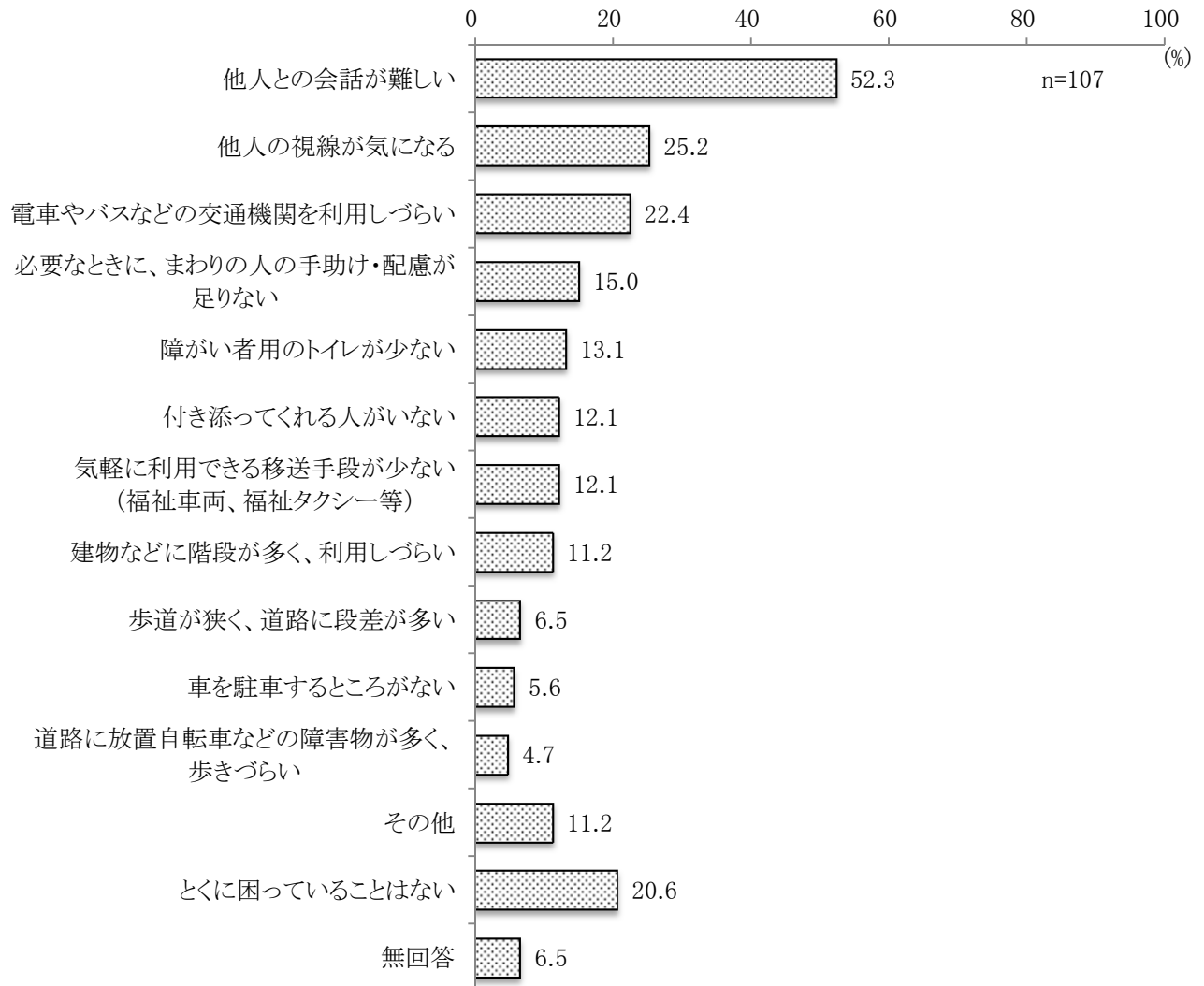


(2) 外出の際に困っていること

問 12 外出のときに困っていることがありますか。(○はいくつでも)

外出の際に困っていることは、「他人との会話が難しい」ことをあげる人が 52.3%と最も多く、次いで「他人の視線が気になる」が 25.2%と続いている。

[図表Ⅲ-4-2: 外出の際に困っていること]

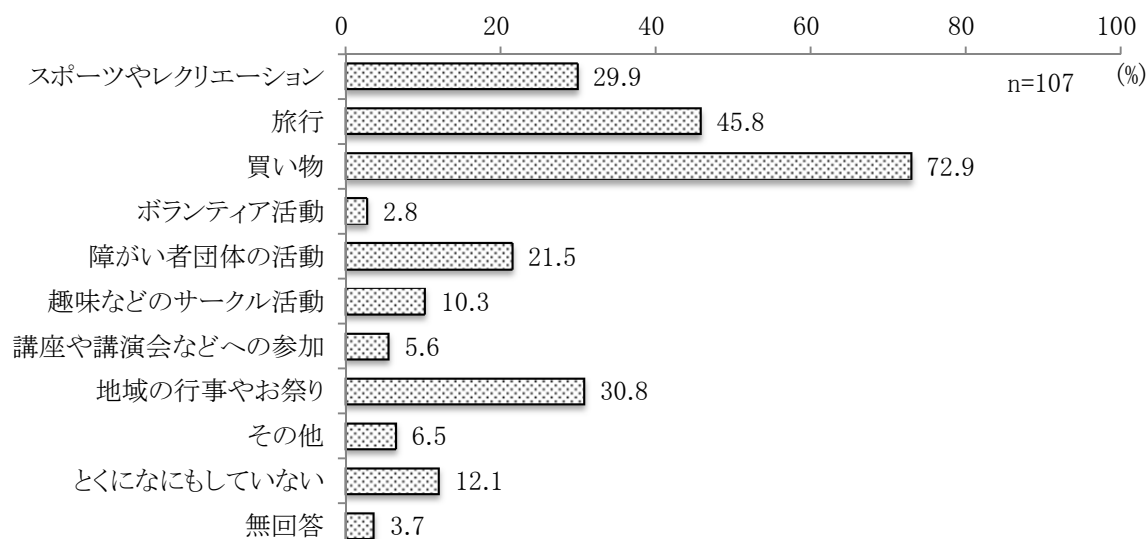


(3) 1年間の活動内容

問 13 この1年くらいの間に、次のような活動をしましたか。(○はいくつでも)

この1年くらいの間に行った活動としては、「買い物」が72.9%と最も多く、次いで「旅行」(45.8%)、「地域の行事やお祭り」(30.8%)と続いている。

[図表Ⅲ-4-3: 1年間の活動内容]

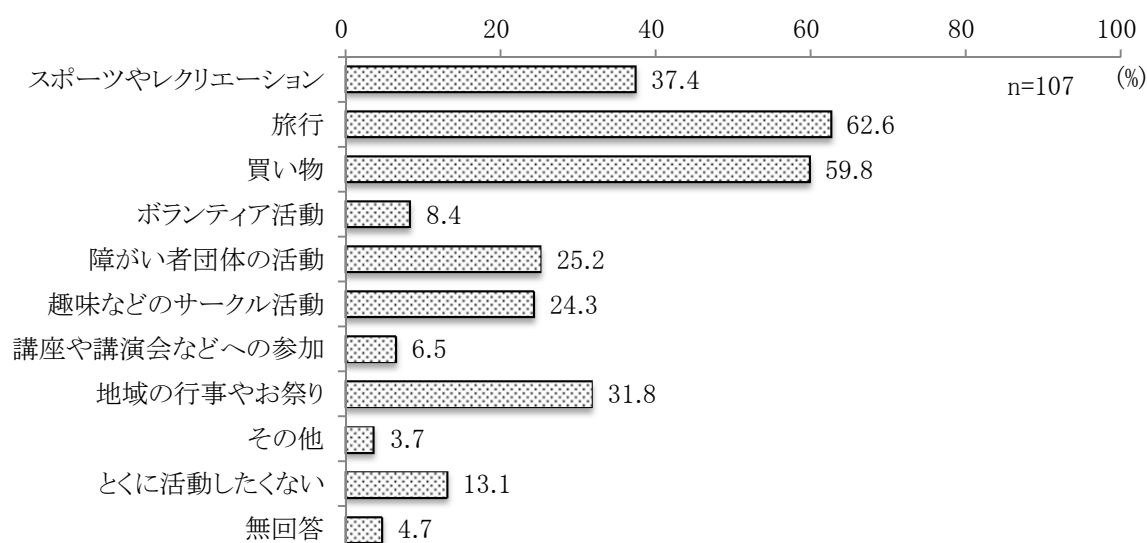


(4) 今後希望する活動内容

問 14 これから、どのような活動をしたいと思いますか。(○はいくつでも)

今後行いたい活動としては、「旅行」が62.6%と最も多く、次いで「買い物」(59.8%)、「スポーツやレクリエーション」(37.4%)と続いている。

[図表Ⅲ-4-4: 今後希望する活動内容]



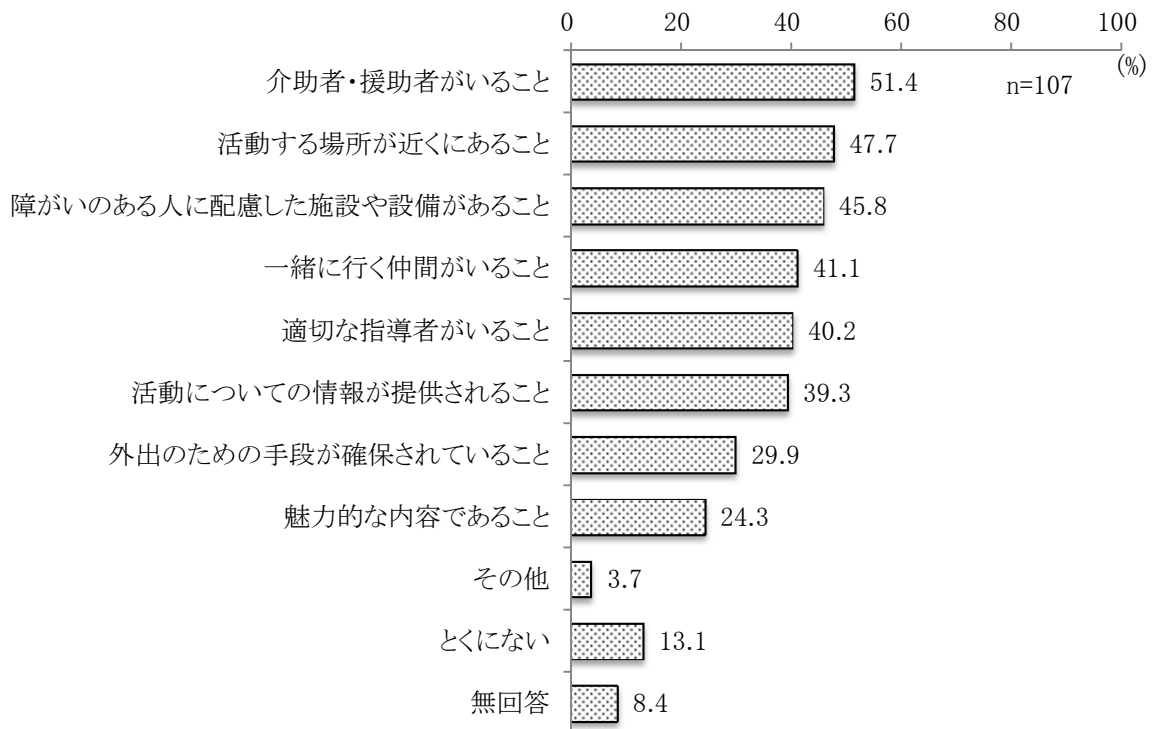
この1年くらいの間に行った活動と今後行いたい活動を比較してみると、「旅行」については、実際にこの1年間に行くことができた人は45.8%だが、今後行きたいと考えている人は62.6%となっており、その差が大きい。

(5) 希望する活動をするために必要な条件

問 15 5 ページの問 14 のような活動をするためには、どのような条件が必要だと思いますか。(○はいくつでも)

希望する活動をするために必要な条件としては、「介助者・援助者がいること」をあげる人が51.4%と最も多く、次いで「活動する場所が近くにあること」が47.7%で続いている。

[図表Ⅲ-4-5: 希望する活動をするために必要な条件]

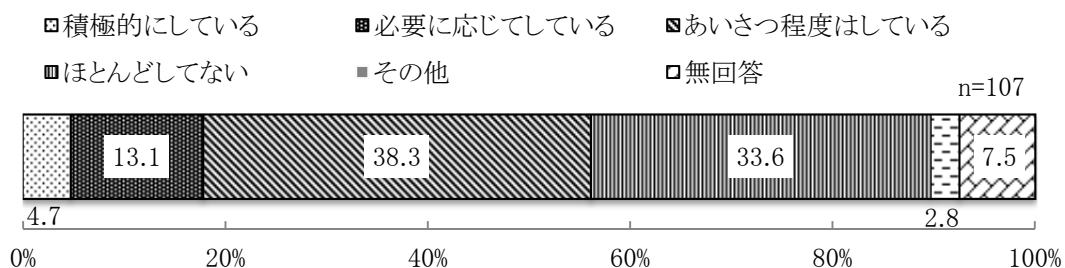


(6) 近所とのつきあいの状況

問 16 ご近所とのつきあいは、次のどれにあてはまりますか。(○は1つ)

近所とのつきあいの状況は、「積極的にしている」が4.7%、「必要に応じてしている」が13.1%、「あいさつ程度はしている」が38.3%で、「ほとんどしていない」は33.6%である。

[図表Ⅲ-4-6: 近所とのつきあいの状況]



5 医療や健康管理の状況

(1) 医療的ケアの状況

問 17 あなたは、現在、次のような医療的ケアを受けていますか。(○はい/□でも)

現在、38.3%の人は「医療的ケアは受けていない」状況であり、受けている医療的ケアとしては、「服薬管理」が30.8%と最も多い。

[図表Ⅲ-5-1:医療的ケアの状況]

n=107	医療的ケアは受けていない	服薬管理	ストマ(人工肛門・人工膀胱)	胃ろう・腸ろう	在宅酸素
	38.3%	30.8%	1.9%	0.9%	0.9%
	吸入	吸引	その他の医療的ケアを受けている	無回答	
	0.9%	0.9%	12.1%	20.6%	

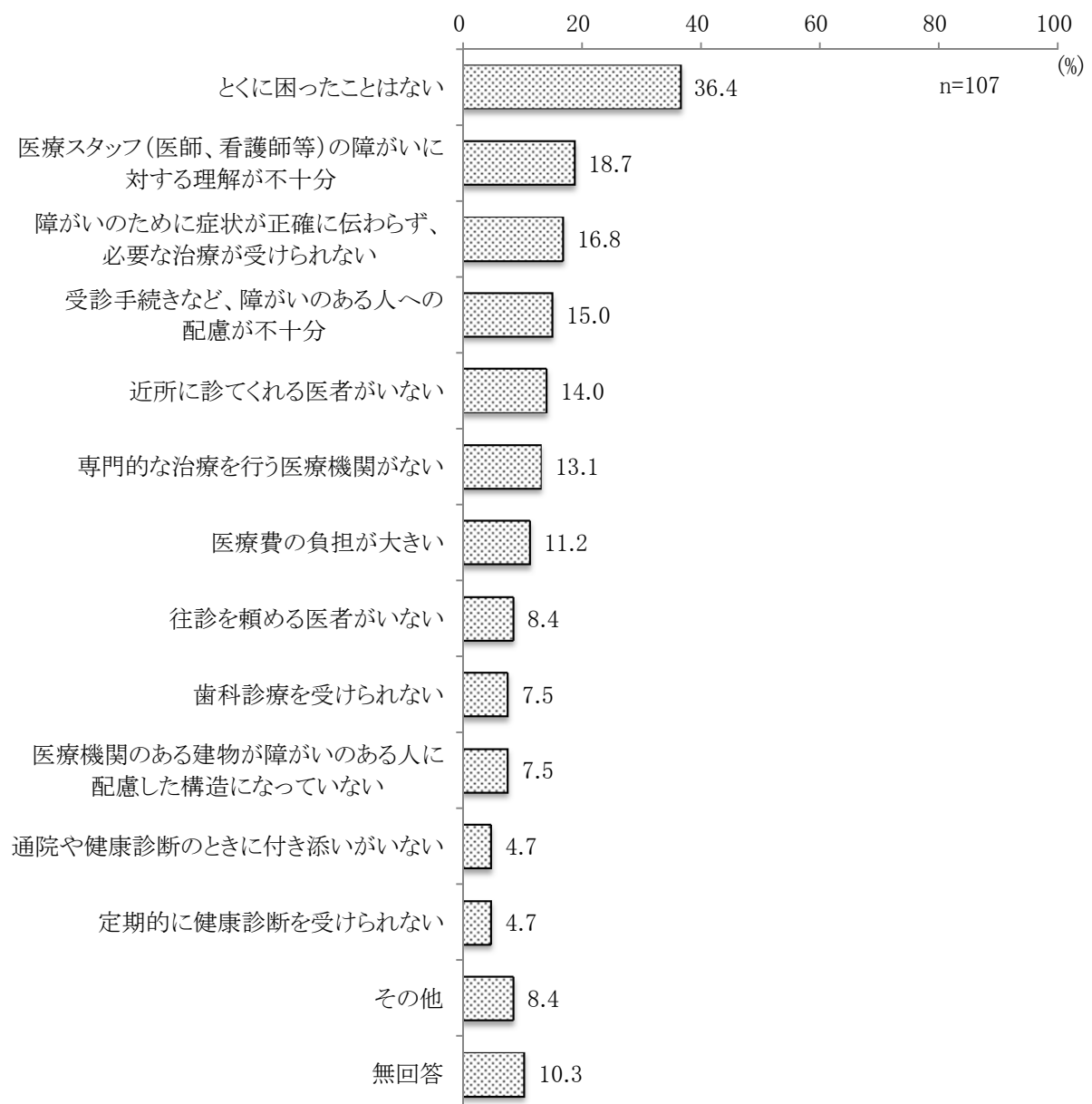
なお、「その他の医療的ケア」としては、具体的に「心療内科」、「小児医療センターの定期検診」、「骨折後の定期検診」などの記入があった。

(2) 健康管理や医療について困ったり不便に思うこと

問 18 健康管理や医療について、困ったり不便に思ったことがありますか。(○はい/△はいいえ/□はどちらでもない)

健康管理や医療については、36.4%の人が「とくに困ったことはない」と回答しているが、困ったり不便に思うこととしては、「医療スタッフ（医師、看護師等）の障がいに対する理解が不十分なことをあげる人が 18.7%と最も多く、次いで「障がいのために症状が正確に伝わらず、必要な治療が受けられない」（16.8%）、「受診手続きなど、障がいのある人への配慮が不十分」（15.0%）と続いている。

[図表Ⅲ-5-2: 健康管理や医療について困ったり不便に思うこと]



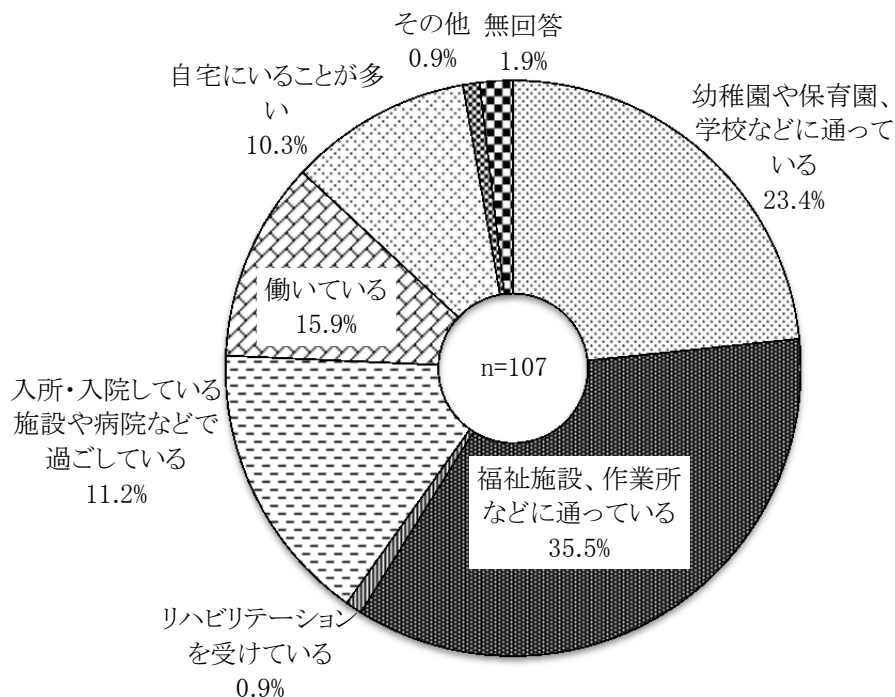
6 日中の過ごし方

(1) 日中の過ごし方

問 19 あなたは、平日（月曜日～金曜日）の日中を主にどのように過ごしていますか。（○は1つ）

平日の日中は、「福祉施設、作業所などに通っている」人が 35.5%、「幼稚園や保育園、学校などに通っている」人が 23.4%などとなっている。

[図表Ⅲ-6-1: 日中の過ごし方]



年齢別にみると、18歳～64歳では、「福祉施設、作業所などに通っている」人が 44.7%と最も多く、次いで「働いている」(22.4%)、「自宅にすることが多い」(14.5%)と続いている。

[図表Ⅲ-6-2: 日中の過ごし方／年齢別]

		幼稚園や保育園、学校などに通っている	福祉施設、作業所などに通っている	リハビリテーションを受けている	働いている
17歳以下	n=24	95.8%	4.2%	—	—
18歳～64歳	n=76	2.6%	44.7%	1.3%	22.4%
65歳以上	n=5	—	40.0%	—	—
無回答	n=2	—	50.0%	—	—

		入所・入院している施設や病院などで過ごしている	自宅にすることが多い	その他	無回答
17歳以下	n=24	—	—	—	—
18歳～64歳	n=76	11.8%	14.5%	—	2.6%
65歳以上	n=5	60.0%	—	—	—
無回答	n=2	—	—	50.0%	—

7 保育・教育について

(1) 通園・通学先

問 20 通っているのは次のうちどれですか。(○は1つ)

通園・通学先は、「小学校、中学校(特別支援学級)」と「小学校、中学校、高校(特別支援学校)」がそれぞれ25人中11人(44.0%)、「幼稚園、保育園」が3人(12.0%)である。

[図表Ⅲ-7-1:通園・通学先]

	幼稚園、保育園	小学校、中学校、 高校(普通学級)	小学校、中学校 (特別支援学級)	小学校、中学校、高 校(特別支援学校)	大学、専門学校
n=25	12.0%	—	44.0%	44.0%	—

(2) 通園・通学して困っていること

問 21 幼稚園や保育園、学校などに通っていて困っていることはありますか。(○はいくつでも)

通園・通学して困っていることとしては、25人中5人が「通うのがたいへん」(20.0%)なことをあげている。

[図表Ⅲ-7-2:通園・通学して困っていること]

n=25	通うのがたいへん	手助けしてくれる人 が少ない・いない	先生が自分のことをよ くわかってくれない、 気配りがたりない	まわりの児童・生徒た ちが障がいのことをよ くわかってくれない	トイレなどの施設が 使いにくい
	20.0%	8.0%	8.0%	8.0%	4.0%
	友だちができない	その他	とくに困っているこ とはない	無回答	
	4.0%	8.0%	52.0%	4.0%	

(3) 学校教育に望むこと

問 22 学校教育に望むことはどのようなことですか。(○はいくつでも)

学校教育に望むこととしては、25人中16人が「能力や障がいの状況にあった指導をしてほしい」(64.0%)、13人が「就学相談や進路相談など、相談体制を充実させてほしい」(52.0%)と回答している。

[図表Ⅲ-7-3:学校教育に望むこと]

n=25	能力や障がいの状況 にあった指導をしてほ しい	就学相談や進路相談 など、相談体制を充実 させてほしい	施設、設備、教材を充 実してほしい	個別指導を充実してほ しい
	64.0%	52.0%	40.0%	36.0%
	普通学級との交流の機 会を増やしてほしい	障がいの状況にかかわ らず、普通学級で受け 入れてほしい	その他	とくに望むことはない
	20.0%	8.0%	16.0%	4.0%

8 就労について

(1) 就労状況

問 23 現在、あなたは収入を伴う仕事をしていますか。(○は1つ)

18歳～64歳のうち、「収入を伴う仕事をしている」人の割合は57.9%である。

[図表Ⅲ-8-1:就労状況／年齢別]

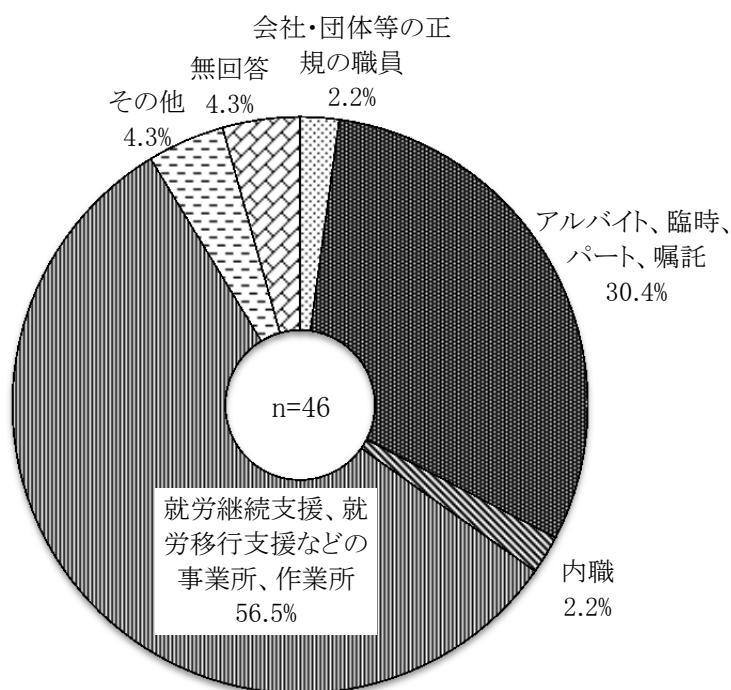
		収入を伴う仕事をしている	収入を伴う仕事はしていない	無回答
全 体	n=107	43.0%	55.1%	1.9%
17歳以下	n=24	4.2%	95.8%	—
18歳～64歳	n=76	57.9%	40.8%	1.3%
65歳以上	n=5	20.0%	80.0%	—
無回答	n=2	—	50.0%	50.0%

(2) 仕事の形態

問 24 仕事の形態は、次のうちどれですか。(○は1つ)

仕事の形態は、「就労継続支援、就労移行支援などの事業所、作業所」が56.5%、「アルバイト、臨時、パート、嘱託」が30.4%である。

[図表Ⅲ-8-2:仕事の形態]



(3) 給与・賃金の額

問 25 あなたご自身の1か月あたりの平均的な給与・賃金はいくらですか。(○は1つ)

1か月あたりの平均的な給与・賃金の額は、「5千円未満」が34.8%、「5千円～1万円未満」が21.7%である。

仕事の形態別にみると、「就労継続支援、就労移行支援などの事業所、作業所」で働いている26人の平均的な給与・賃金の額は、14人が「5千円未満」(53.8%)、1人が「5千円～1万円未満」(30.8%)となっており、1万円未満が8割超を占めている状況である。

[図表Ⅲ-8-3: 給与・賃金の額／仕事の形態別]

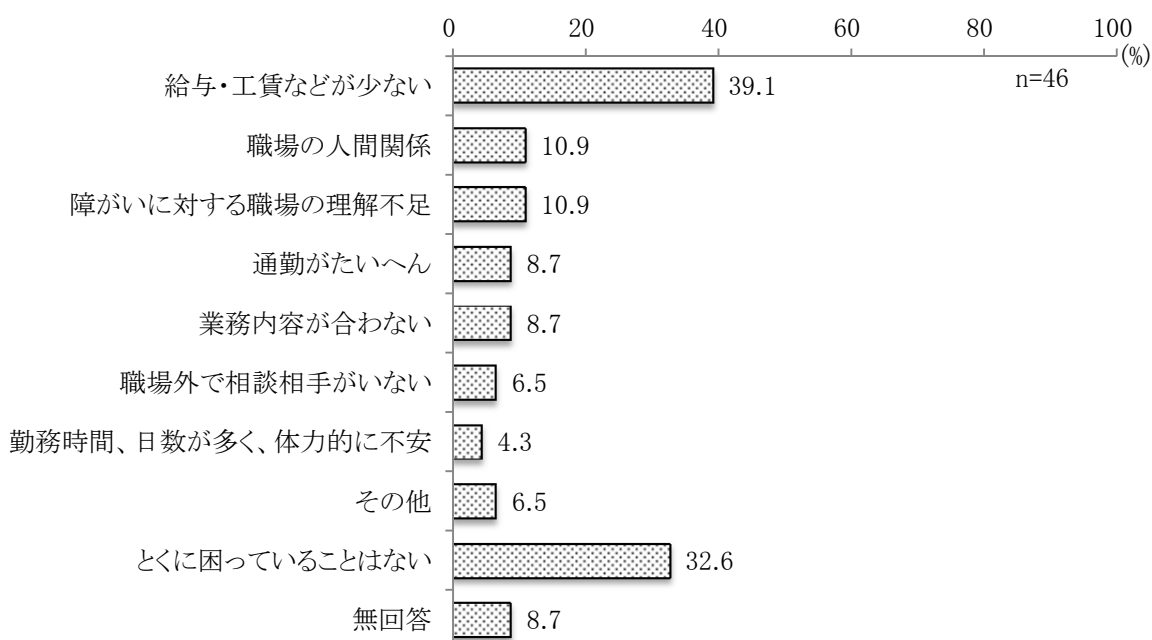
	5千円未満	5千円～1万円未満	1万円～3万円未満	3万円～5万円未満	5万円～10万円未満	10万円～20万円未満	無回答
全 体 n=46	34.8%	21.7%	6.5%	2.2%	19.6%	13.0%	2.2%
会社・団体等の正規の職員 n=1	—	—	—	—	—	100.0%	—
アルバイト、臨時、パート、嘱託 n=14	—	—	7.1%	7.1%	57.1%	28.6%	—
内職 n=1	—	100.0%	—	—	—	—	—
就労継続支援、就労移行支援などの事業所、作業所 n=26	53.8%	30.8%	7.7%	—	3.8%	—	3.8%
その他 n=2	50.0%	50.0%	—	—	—	—	—
無回答 n=2	50.0%	—	—	—	—	50.0%	—

(4) 仕事をするうえで困っていること

問 26 仕事をするうえで困っていることはなんですか。(○はいくつでも)

仕事をするうえで困っていることとしては、「給与・工賃などが少ない」が39.1%と最も多く、次いで「職場の人間関係」と「障がいに対する職場の理解不足」がそれぞれ10.9%で続いている。

[図表Ⅲ-8-4: 仕事をするうえで困っていること]

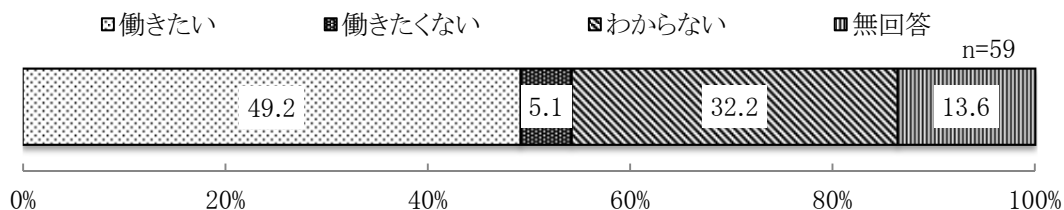


(5) 就労意向

問 27 今後、自分の健康状況や通勤の可能性など、条件が整えば働きたいと思いませんか。(○は1つ)

現在働いていない人でも、自分の健康状況や通勤の可能性などの条件が整えば、約半数の人は「働きたい」(49.2%)と回答している。

[図表Ⅲ-8-5: 就労意向]

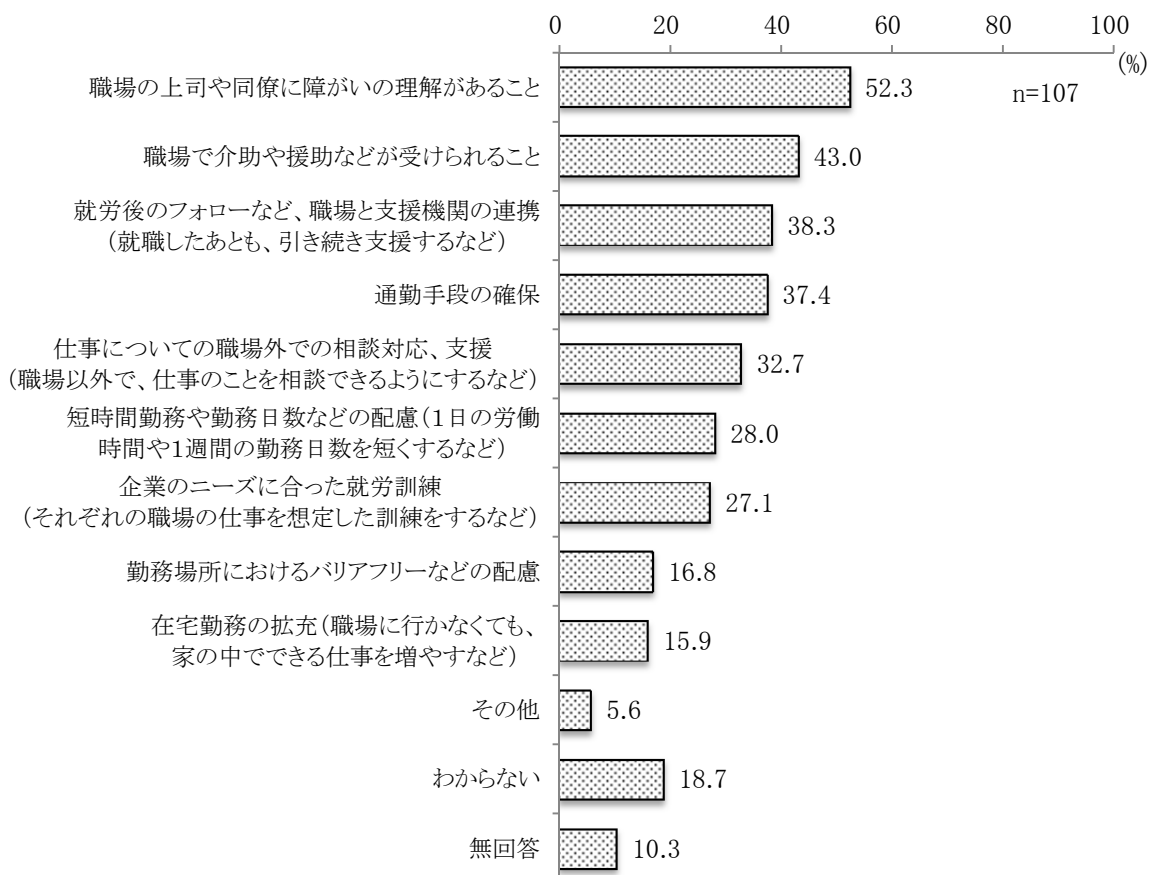


(6) 障がい者の就労支援に必要なこと

問 28 あなたは、障がい者の就労支援として、どのようなことが必要だと思いますか。あてはまるものに○をつけてください。(○はいくつでも)

障がい者の就労支援として必要なこととしては、「職場の上司や同僚に障がいの理解があること」をあげる人が52.3%と最も多く、次いで「職場で介助や援助などが受けられること」が43.0%で続いている。

[図表Ⅲ-8-6: 障がい者の就労支援に必要なこと]



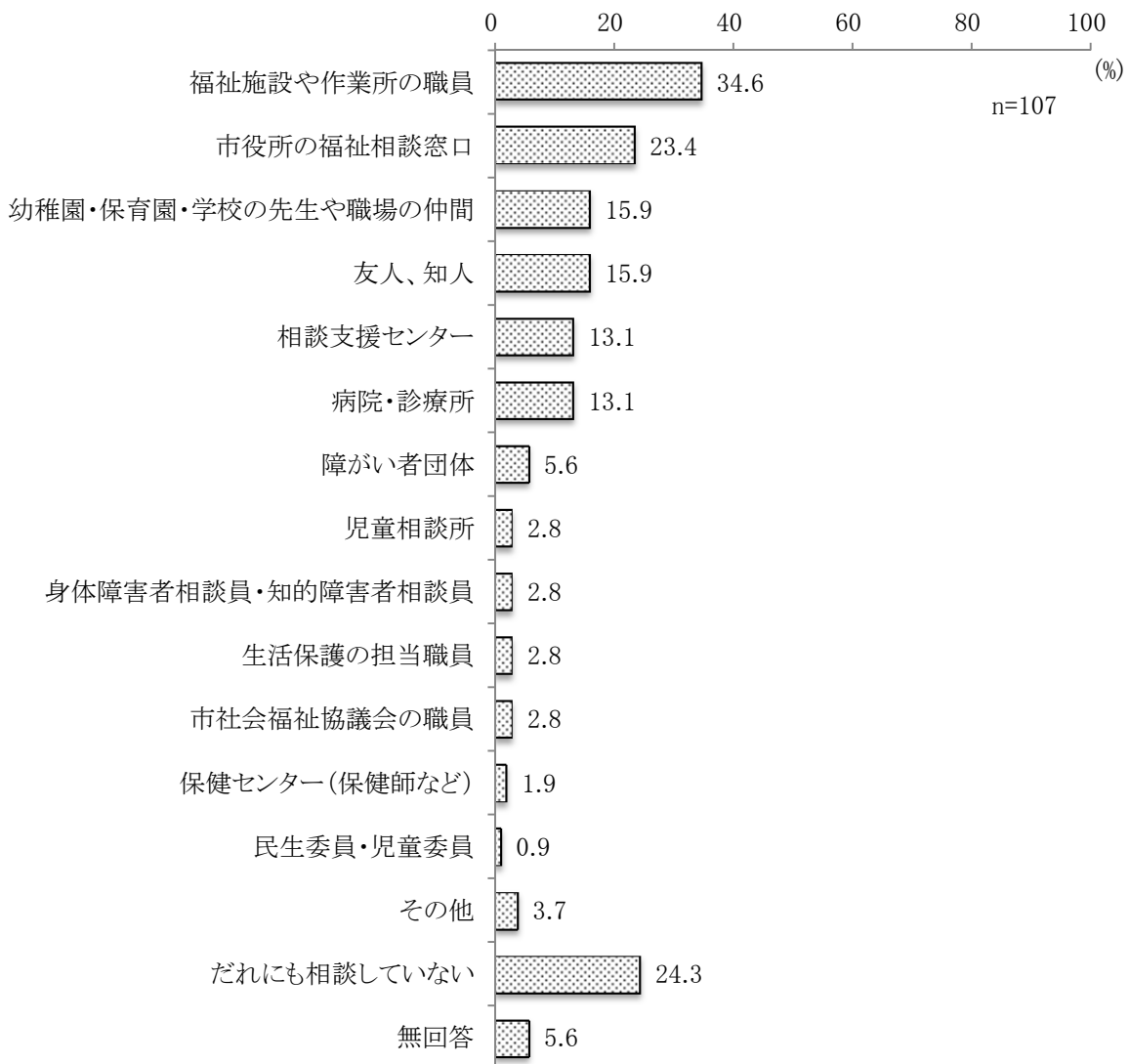
9 相談や情報入手の状況

(1) 悩みごとや心配ごとの相談先

問 29 あなたは、悩みごとや心配ごとがあるとき、家族や親せき以外に、どのようなところに相談していますか。
 (○はいくつでも)

悩みごとや心配ごとの相談先としては、「福祉施設や作業所の職員」をあげる人が 34.6%と最も多く、次いで「市役所の福祉相談窓口」が 23.4%で続いているが、24.3%は「だれにも相談していない」状況である。

[図表Ⅲ-9-1: 悩みごとや心配ごとの相談先]

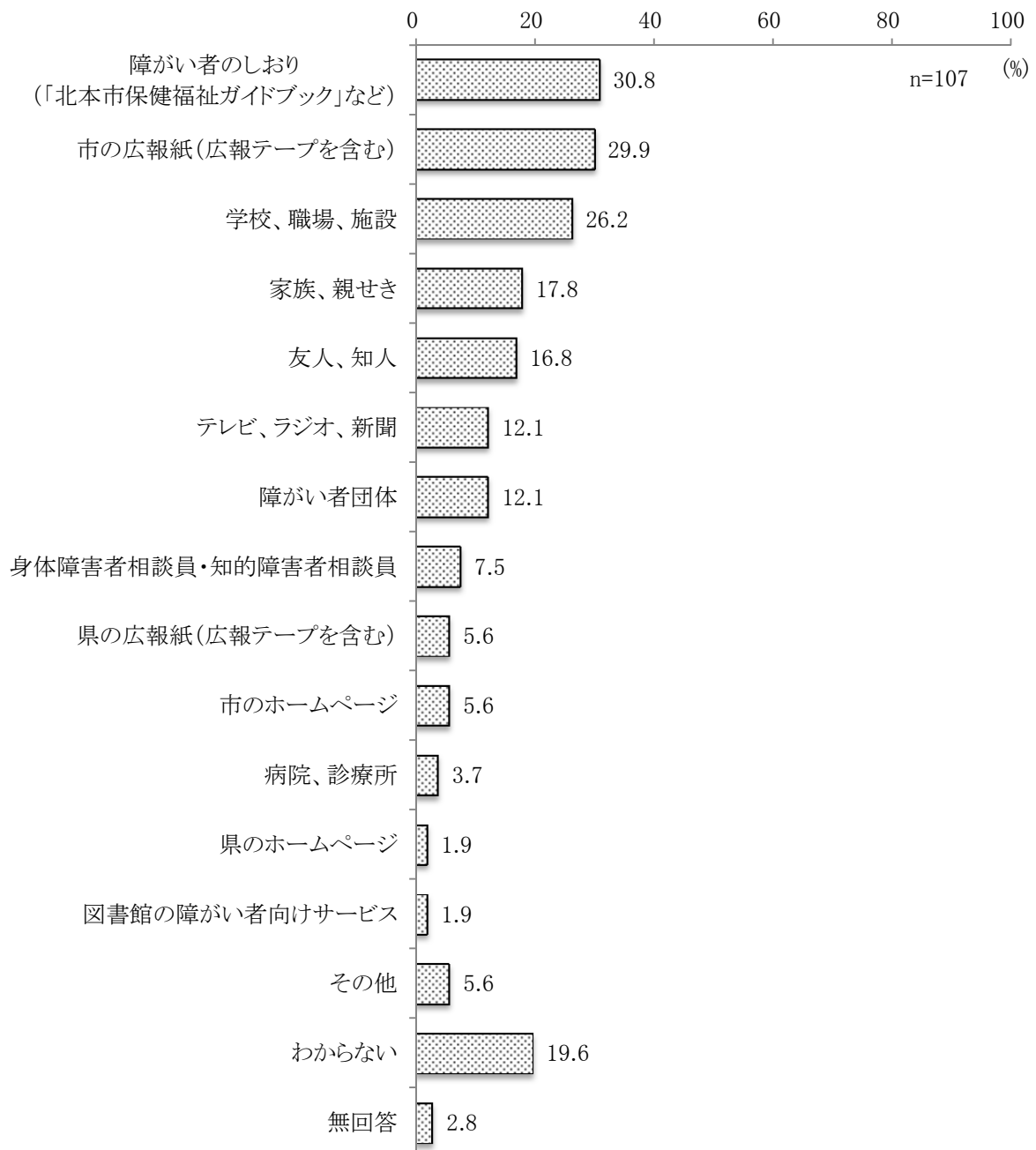


(2) 福祉サービスなどの情報の入手先

問 30 障がい福祉サービスなどの情報をどこから得ていますか。(○はいくつでも)

障がい福祉サービスなどの情報の入手先は、「障がい者のしおり（「北本市保健福祉ガイドブック」など）」が 30.8%と最も多く、次いで「市の広報紙（広報テープを含む）」(29.9%)、「学校、職場、施設」(26.2%) と続いている。

[図表Ⅲ-9-2: 福祉サービスなどの情報の入手先]

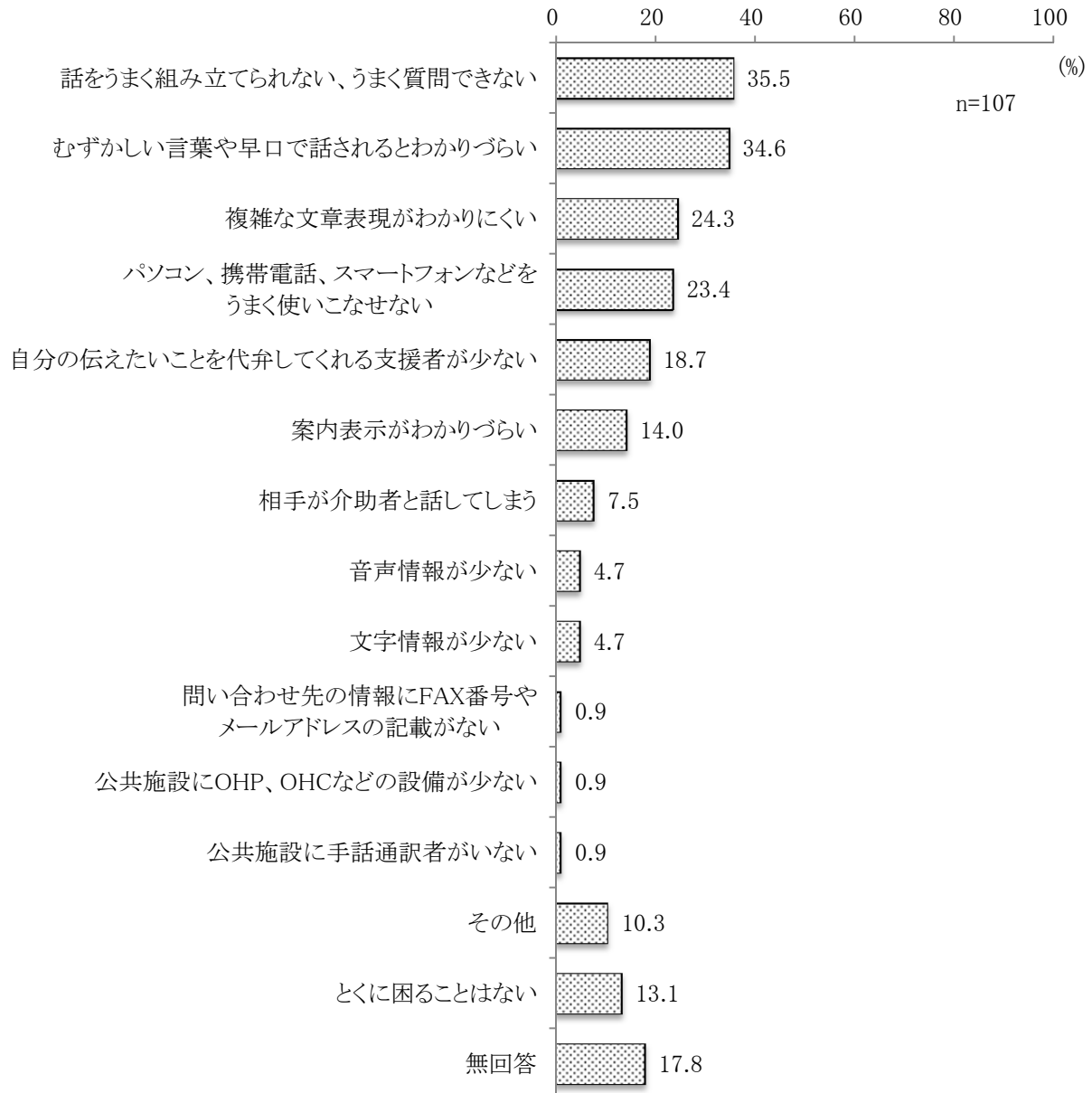


(3) コミュニケーションや情報取得をするうえで困ること

問 31 コミュニケーションや情報取得をするうえで困ることはどのようなことですか。(○はいくつでも)

コミュニケーションや情報取得をするうえで困ることとしては、「話をうまく組み立てられない、うまく質問できない」ことをあげる人が 35.5%と最も多く、次いで「むずかしい言葉や早口で話されるとわかりづらい」が 34.6%で続いている。

[図表Ⅲ-9-3: コミュニケーションや情報取得をするうえで困ること]



10 障がい福祉サービスについて

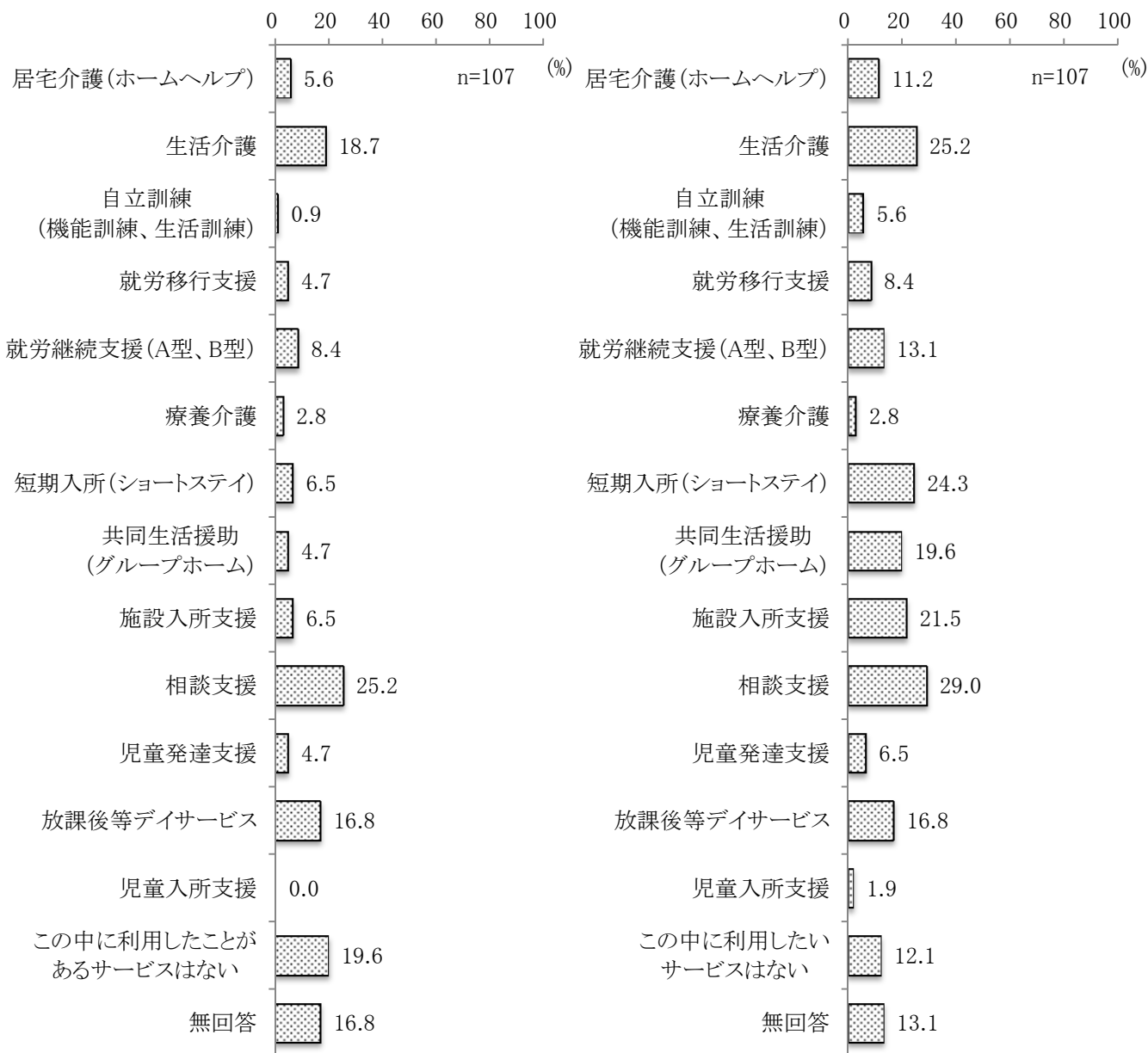
(1) サービスの利用状況

問 32 あなたは、ここ1年くらいの間に、次のサービスを利用したことがありますか。利用したことがあるものすべてに○をつけてください。(○はいくつでも)

利用したことのある障がい福祉サービスは、「相談支援」が25.2%と最も多く、次いで「生活介護」が18.7%で続いている。なお、約2割は、「この中に利用したことがあるサービスはない」(19.6%)と回答している。

[図表Ⅲ-10-1: サービスの利用状況]

[図表Ⅲ-10-2: サービスの利用意向]



(2) サービスの利用意向

問 33 次のサービスの中で、今後も引き続き利用したい、あるいは、新たに利用したいと思うサービスはありますか。利用したいものすべてに○をつけてください。(○はいくつでも)

今後も引き続き利用したい、あるいは新たに利用したいと思う障がい福祉サービスは、「相談支援」が29.0%と最も多く、次いで「生活介護」が25.2%で続いている。

利用したことのある障がい福祉サービスがない21人についてみると、9人(42.9%)は「この中に利用したいサービスはない」と回答しているが、「共同生活援助(グループホーム)」と「相談支援」を利用したい人はそれぞれ3人(それぞれ14.3%)など、今後新たに障がい福祉サービスを利用したいと考えている人もみられる。

[図表Ⅲ-10-3: サービスの利用意向/いままで障がい福祉サービスを利用したことがない人]

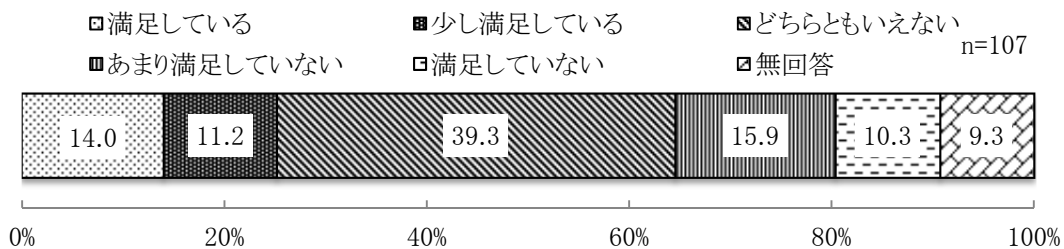
n=21	居宅介護(ホームヘルプ)	生活介護	就労移行支援	就労継続支援(A型、B型)	療養介護	共同生活援助(グループホーム)
	4.8%	9.5%	9.5%	4.8%	4.8%	14.3%
	施設入所支援	相談支援	児童発達支援	放課後等デイサービス	この中に利用したいサービスはない	無回答
	4.8%	14.3%	4.8%	9.5%	42.9%	4.8%

(3) 障がい福祉サービスの満足度

問 34 市の障がい福祉サービス全般について、満足していますか。(○は1つ)

市の障がい福祉サービス全般については14.0%が「満足している」、11.2%が「少し満足している」と回答している。

[図表Ⅲ-10-4: 障がい福祉サービスの満足度]



障がい福祉サービスの利用状況別にみると、何らかのサービスを利用したことがある人では、「満足している」13.2%、「少し満足している」16.2%、「満足していない」14.7%、「あまり満足していない」19.1%となっており、満足と不満足を比較するとやや不満足の方が多。

[図表Ⅲ-10-5: 障がい福祉サービスの満足度/障がい福祉サービスの利用状況別]

	満足している	少し満足している	どちらともいえない	あまり満足していない	満足していない	無回答
サービス利用あり n=68	13.2%	16.2%	35.3%	19.1%	14.7%	1.5%
サービス利用なし n=21	23.8%	4.8%	52.4%	9.5%	4.8%	4.8%

(4) 障がい福祉サービスについて満足していないところ

問 35 満足していないのはどのようなところですか。ご自由にお書きください。(自由記入)

市の障がい福祉サービス全般について満足していないところとしては、具体的に次のような記入があった。

- ・ 色々な手続きがあつて、急に困った時にかんたんに利用できない。
- ・ サービスの内容についてこちらから出向いて行かないと、市から情報の説明が聞けない。
- ・ 困った時に対応してくれる入所施設がない。
- ・ 北本市には、相談できる施設がない。
- ・ どこに相談したらいいのか分からない。
- ・ 医療的ケアを受けられる施設の数が少ない上に近隣にない。
- ・ ショートステイ、入所施設などが市内にない。将来的に不安。
- ・ グループホームも今はいっぱい入れないと聞いているし、入所施設もないので将来が不安。
- ・ 行動援護を利用できるところが1ヶ所しかないこと。
- ・ 市内で行動援護や短期入所を行っている事業所が少ない。
- ・ 児童の短期入所がないので、家族や身内に何かあった時に困る。
- ・ 生活介護が社協しかなく、遠いために母がいつも送迎で申しわけない。
- ・ 学校を卒業後の行き先が不安。生活介護の施設の人員が、いっぱいだときいているので。
- ・ 支援の予約がヘルパー不足で取れない。
- ・ 市内に作業所が少ない。
- ・ 放課後デイサービスに空きがなく行けていない。
- ・ 大人になった時の日中に通える場所（送迎にて）があると助かる。
- ・ 余暇を楽しく過ごせる団体等の情報が少ない。
- ・ 重度の人のことも考えてほしい。
- ・ 市の児童発達支援センターに通所しているが、持病があるため、看護師がいると助かる。

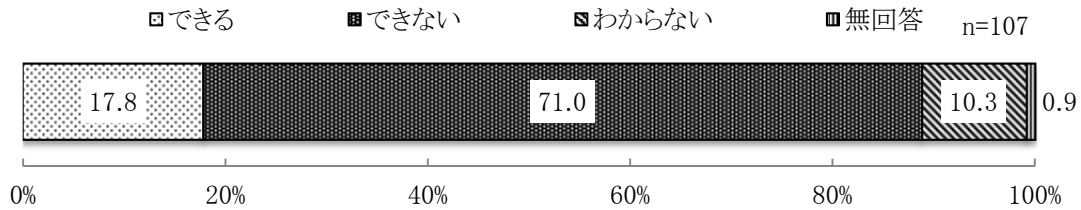
11 防災対策について

(1) 災害時の単独避難の能否

問 36 あなたは、地震や台風などの災害時に、ひとりで避難できると思いますか。(○は1つ)

地震や台風などの災害時に、ひとりで避難「できる」と回答した人は 17.8%で、約7割は「できない」(71.0%)と回答している。

[図表Ⅲ-11-1:災害時の単独避難の能否]

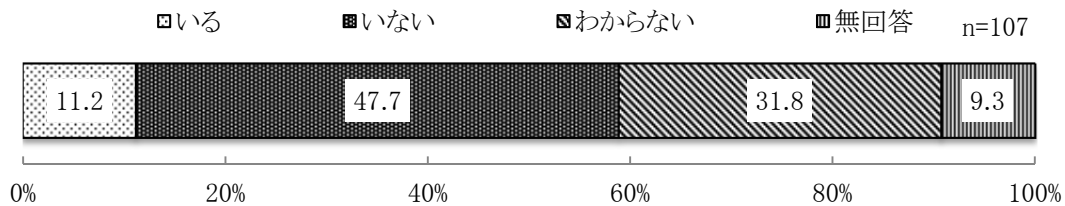


(2) 近隣援助者の有無

問 37 家族が不在の場合や、ひとり暮らしの場合、近所にあなただけを助けてくれる人はいますか。(○は1つ)

災害時、近所に助けてくれる人が「いる」人は 11.2%で、47.7%は「いない」と回答している。

[図表Ⅲ-11-2:近隣援助者の有無]

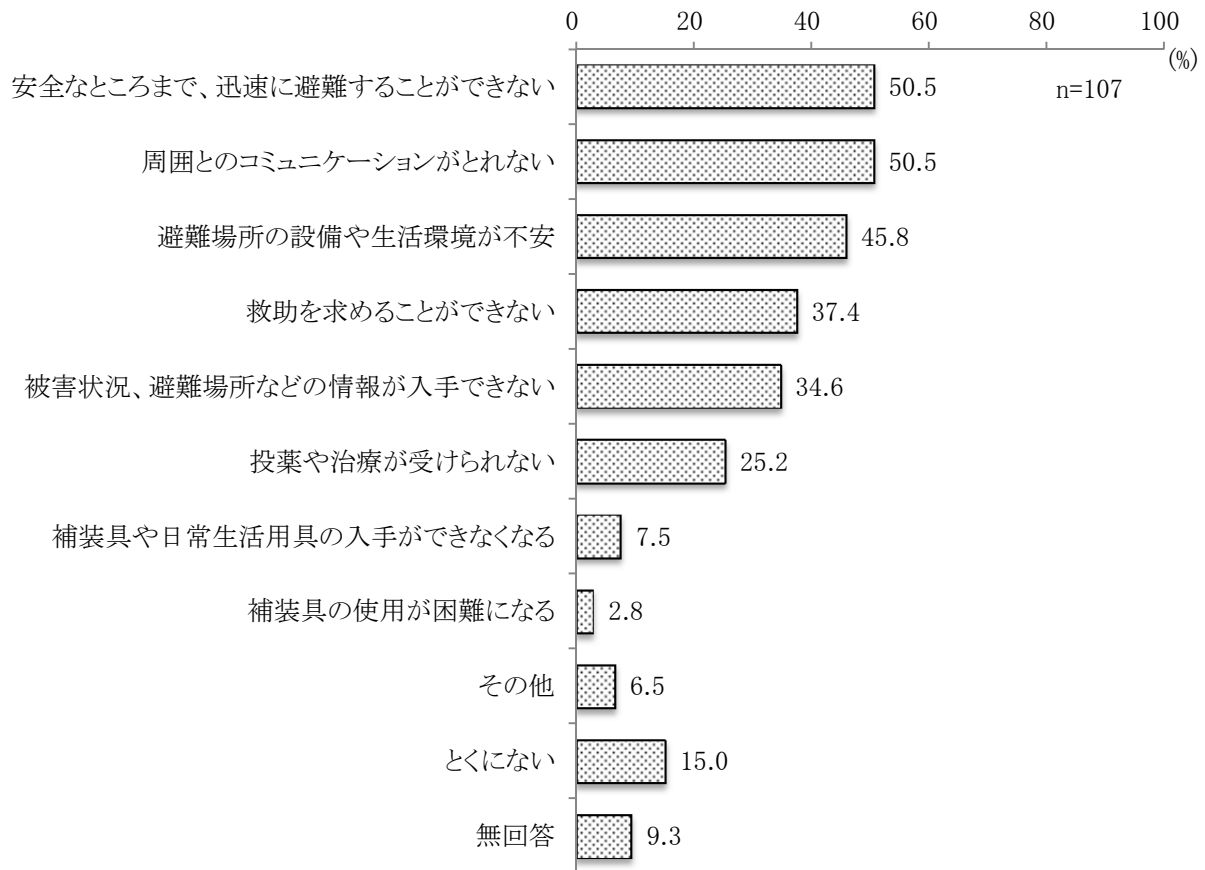


(3) 災害時に困ると思うこと

問 38 地震や台風などの災害時に困ると思うことはなんですか。(○はいくつでも)

災害時に困ることとしては、「安全なところまで、迅速に避難することができない」ことと「周囲とのコミュニケーションがとれない」ことをあげる人がそれぞれ 50.5%と最も多くなっている。

[図表Ⅲ-11-3:災害時に困ると思うこと]

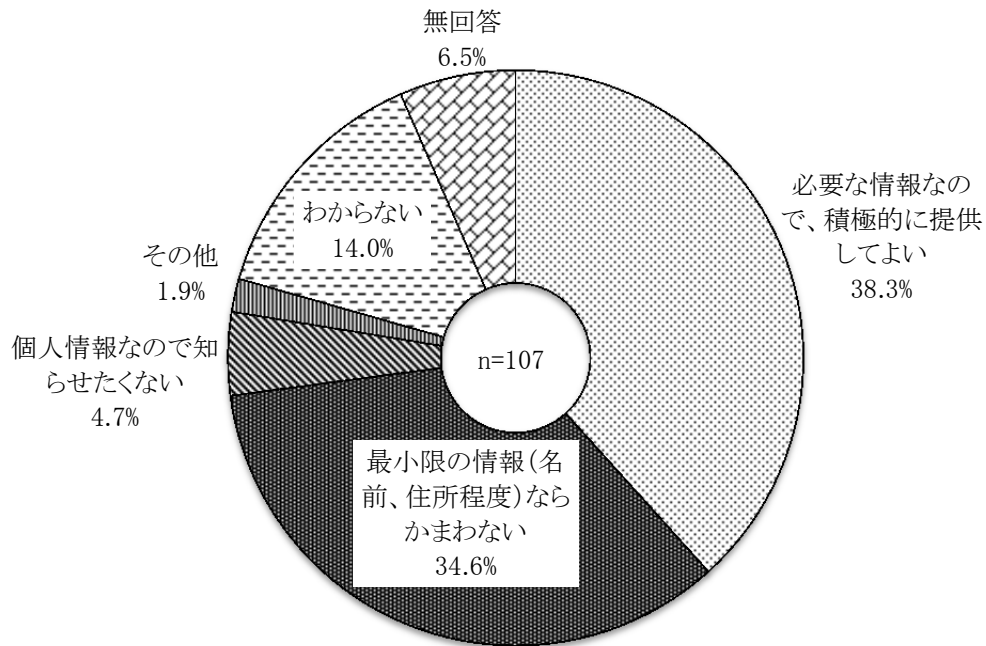


(4) 避難行動要支援者避難支援制度に対する考え

問 39 災害時に行政や地域などから支援を受けるため、あらかじめ個人情報（名前、住所、世帯の状況、障がいの状況等）を市に提供することについて、どう思いますか。（○は1つ）

避難行動要支援者避難支援制度については、38.3%の人が「必要な情報なので、積極的に提供してよい」、34.6%の人が「最小限の情報（名前、住所程度）ならかまわない」と回答しており、合わせると7割超は個人情報を提供してもかまわないと考えていることがわかる。

[図表Ⅲ-11-4: 避難行動要支援者避難支援制度に対する考え]



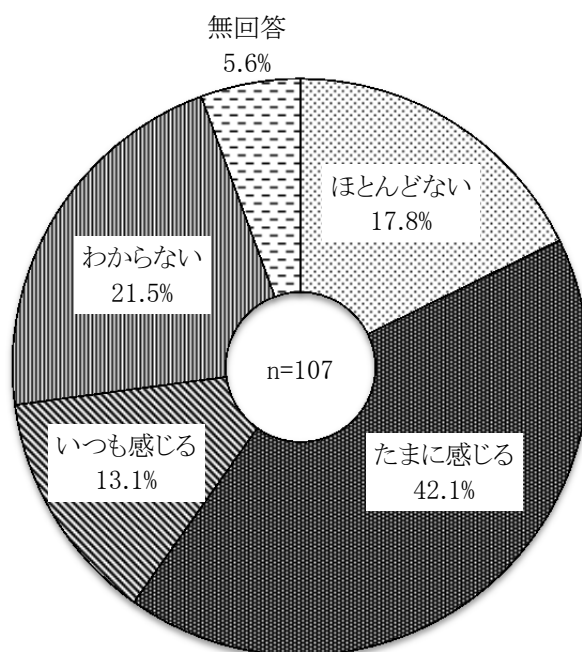
12 差別や人権侵害について

(1) 差別や人権侵害を受けた経験

問 40 障がいがあることで、差別や人権侵害を受けていると感じることはありますか。(○は1つ)

障がいがあることで差別や人権侵害を受けていると「いつも感じる」人は13.1%、「たまに感じる」人は42.1%で、合わせると5割超の人は差別や人権侵害を感じたことがあることがわかる。

[図表Ⅲ-12-1:差別や人権侵害を受けた経験]



(2) 差別や人権侵害の内容

問 41 具体的には、どのようなときに、差別や人権侵害を受けていると感じますか。(自由記入)

差別や人権侵害の具体的な内容については、次のような記入があった。

[言葉や視線]

- ・ 大きな声などを出したとき、まわりの人達がジロジロ見る。(28歳男性)
- ・ ヘッドギアをしてバギーで出かけると珍しそうに見られる。(4歳男性)
- ・ さわいでしまったときに、嫌な顔をされたり、じろじろと見られることがしばしば。並んでいる列から離れなければいけないときもある。(9歳男性)
- ・ 見知らぬ人に奇異の目で見られていると感じたとき。(6歳男性)
- ・ 見た目が普通なので周りが「アレレ？」という目になることがある。本人は気にしていないようだが。(16歳女性)
- ・ 他人とコミュニケーションがとれないため、なかなか理解されずに、偏見の目で見られてしま

う。(24歳男性)

- ・ 行動がゆっくりなので、足手まといな感じで対応されてしまう。(46歳女性)
- ・ 命令口調で言われたとき。(39歳男性)

[保育・教育、習い事]

- ・ 学生のとときに先生からしんようされなかった。バカにされたことがありました。(25歳男性)
- ・ 影で悪口を言われたり、先生がいないときにたたかれたり、イヤがらせをされたことがある。(16歳男性)
- ・ 健常者と同じ学校に通えない。通学バスでシートベルトに施錠されている。(12歳女性)
- ・ 体操教室で、募集があったので、見学に行ってみると、募集はないとことわられて、いやな思いをした。(16歳男性)

[外出時や交通機関]

- ・ 外出時、お店などで迷惑に思われたり、ジロジロ見られたりする。(23歳男性)
- ・ スーパー等の店に連れて行くと、店員が万引き防止のために見張り始める。障がいのために色々な場面で、時間がかかっていると、他の人から文句を言われる。(25歳女性)
- ・ バスを利用したとき(降りる時)手帳を見せたら「使えない」と言われたことがあります。(5歳男性)

[医療機関]

- ・ 病院の受け入れをことわられたこと。(15歳男性)

[障がいの理解に対する理解不足や誤解]

- ・ 大人(親)が子どもに「怖い=何をするか分からない」と、言っていることがある。(24歳男性)

[その他]

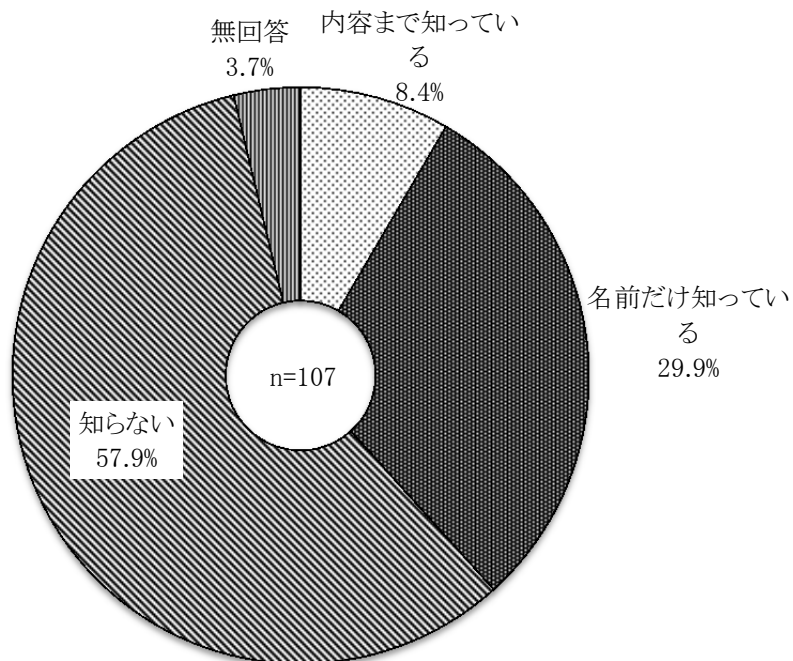
- ・ 見て見ぬふりが一番の差別。この生活を不幸だと思われるのも差別。(25歳男性)
- ・ 差別というか、理解してもらえない気がする。(8歳男性)
- ・ 健常者と障がい者では接し方がぜんぜんちがうと感じる。(23歳女性)
- ・ 療育手帳は人間として1番下に見られている。(46歳女性)

(3) 障害者差別解消法の認知状況

問 42 障がいのある方々への差別をなくすことを目的として、今年の4月1日に「障害者差別解消法」が施行されましたが、このことを知っていますか。(○は1つ)

障害者差別解消法を「内容まで知っている」人は8.4%、「名前だけ知っている」人は29.9%となっており、57.9%は「知らない」状況である。

[図表Ⅲ-12-2:障害者差別解消法の認知状況]

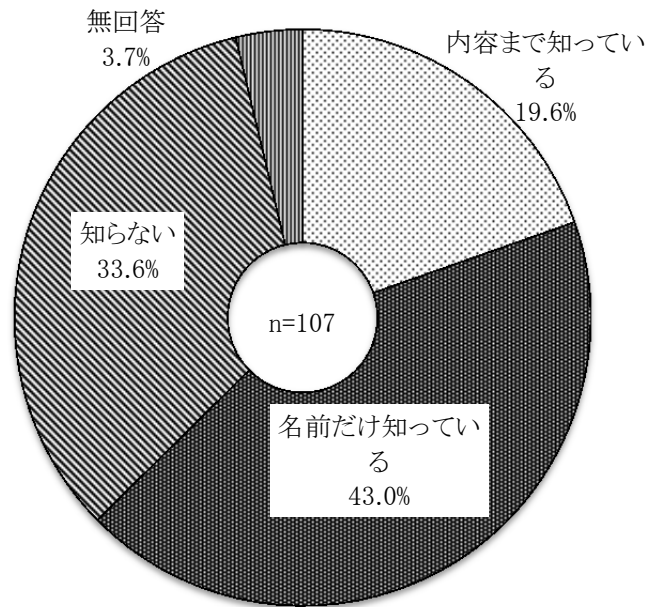


(4) 成年後見制度の認知状況

問 43 成年後見制度とは、知的障がいや精神障がいなどの理由により、判断能力が十分でない方の財産などの権利を守る制度です。あなたは、成年後見制度について知っていますか。(○は1つ)

成年後見制度を「内容まで知っている」人は19.6%、「名前だけ知っている」人は43.0%である。

[図表Ⅲ-12-3: 成年後見制度の認知状況]

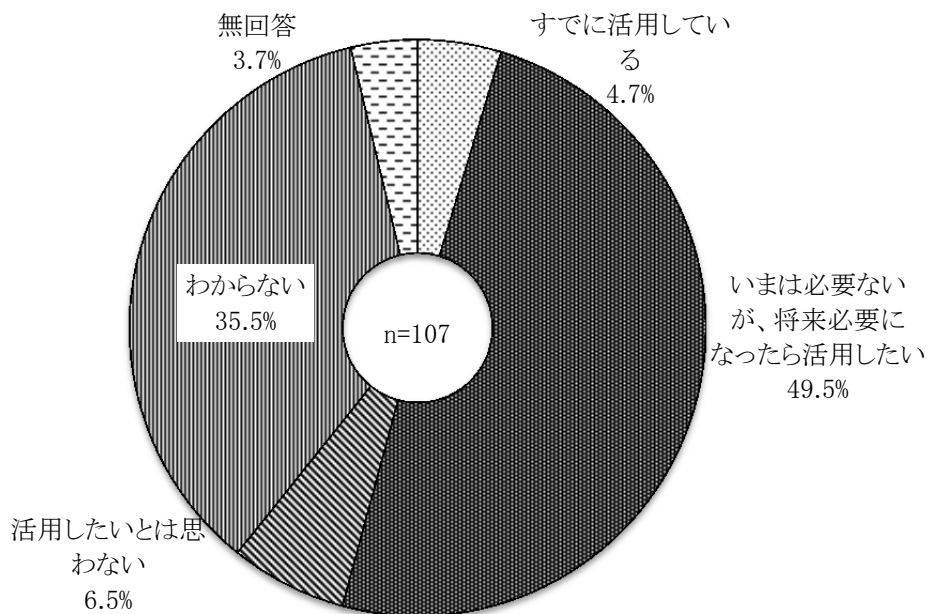


(5) 成年後見制度の活用意向

問 44 あなたは、成年後見制度を活用したいと思いますか。(○は1つ)

成年後見制度については、約半数が「いまは必要ないが、将来必要になったら活用したい」(49.5%)と回答しており、「活用したいとは思わない」と回答した人は6.5%にとどまっている。

[図表Ⅲ-12-4: 成年後見制度の活用意向]



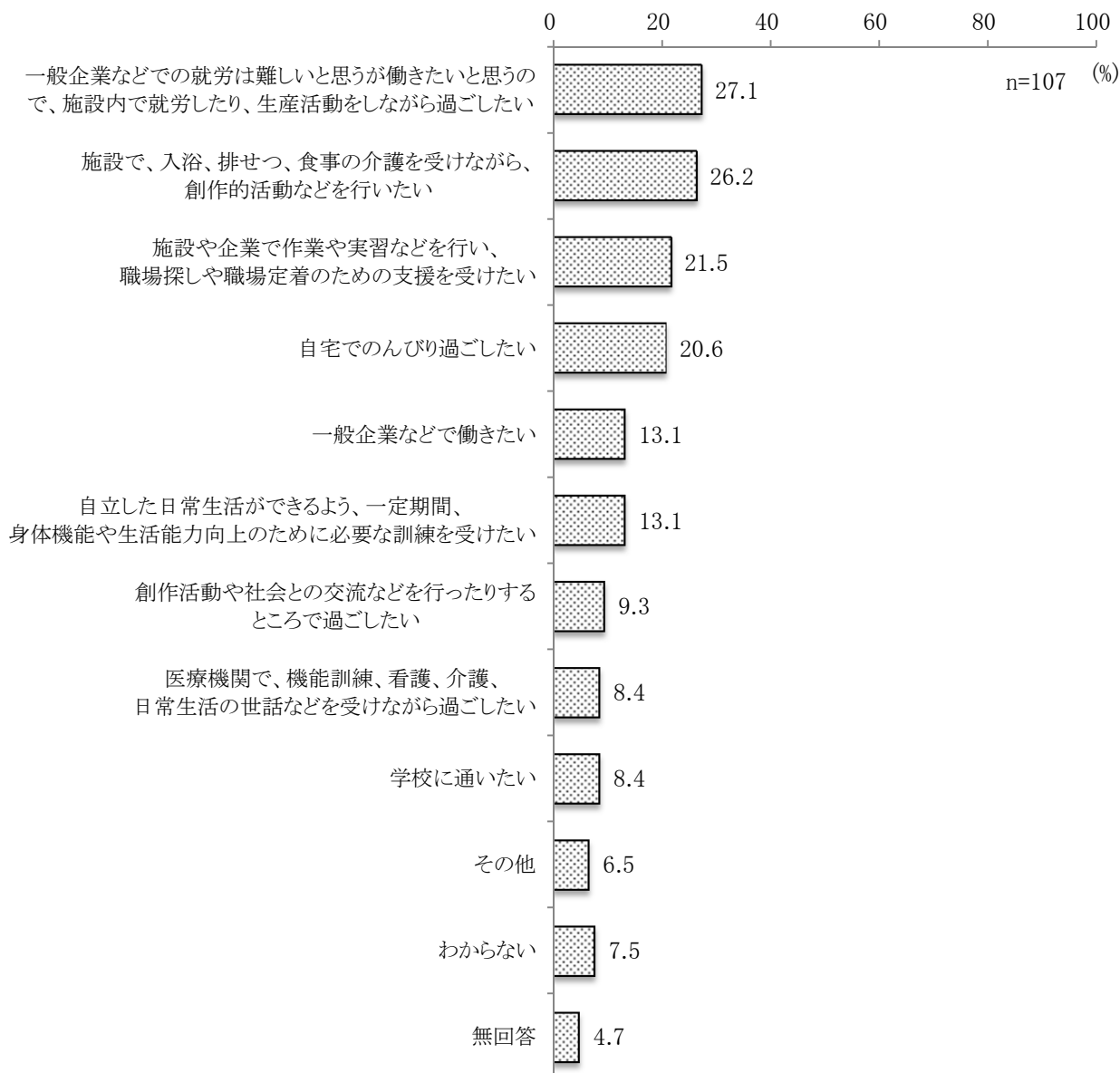
13 将来の希望等について

(1) 今後、希望する日中の過ごし方

問 45 今後、どのように日中を過ごしたいと思いますか。(〇はいくつでも)

今後、希望する日中の過ごし方としては、「一般企業などでの就労が難しいと思うが働きたいと思うので、施設内で就労したり、生産活動をしながら過ごしたい」と回答した人が 27.1%と最も多く、次いで「施設で、入浴、排せつ、食事の介護を受けながら、創作的活動などを行いたい」が 26.2%で続いている。

[図表Ⅲ-13-1: 今後、希望する日中の過ごし方]

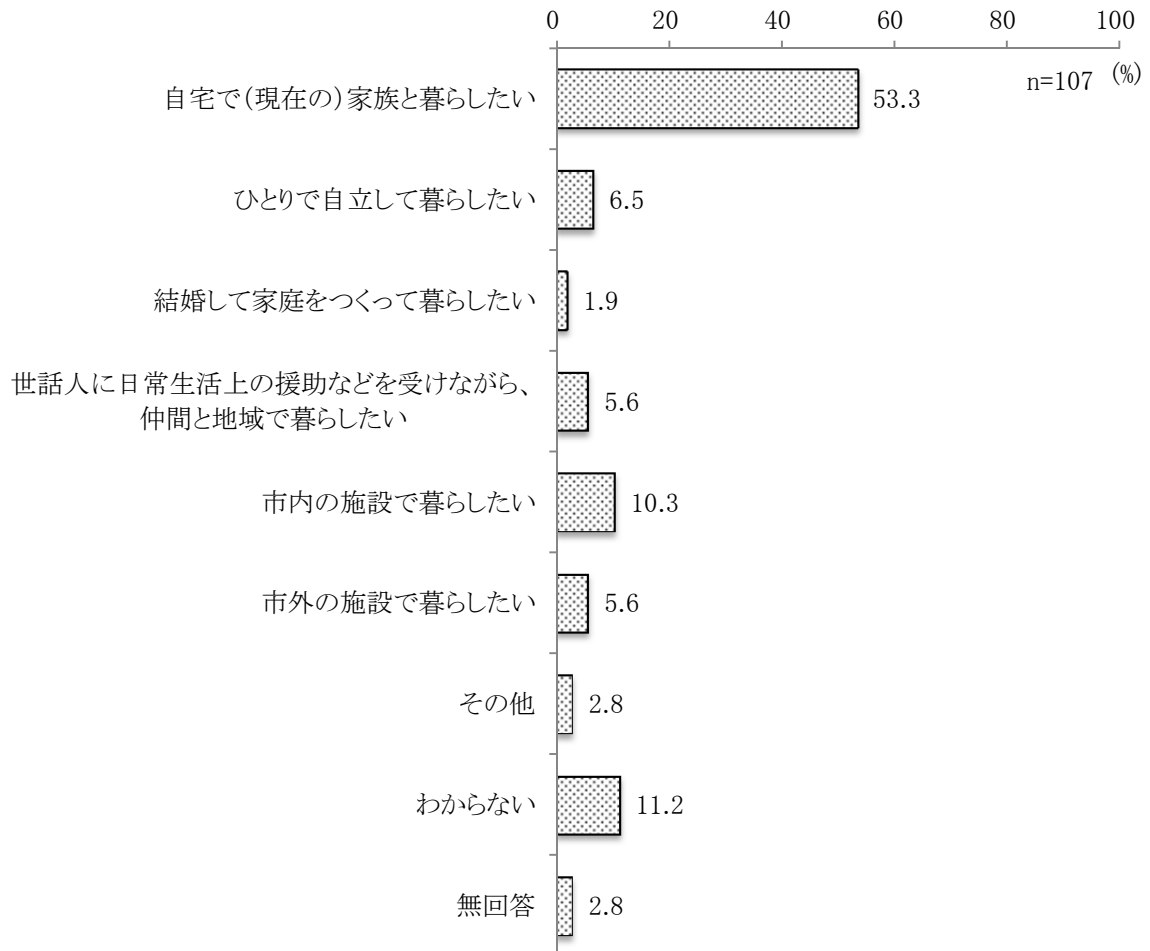


(2) 近い将来、希望する暮らし方

問 46 あなたは、近い将来（おおむね5～10年後）どのように暮らしたいと思いますか。（○は1つ）

近い将来（おおむね5～10年後）希望する暮らし方としては、53.3%の人が「自宅で（現在の）家族と暮らしたい」と回答している。

[図表Ⅲ-13-2:近い将来、希望する暮らし方]



(3) 意見・要望

最後に、この調査を通じて、選択肢や自由記入欄だけでは表現しきれなかったことや、ご意見・ご要望などがありましたら、ご自由にお書きください。(自由記入)

調査の終わりにあたり、意見・要望等についての自由記入欄を設けたところ、以下のような記入があった。

[環境整備などに関すること]

- ・ 移動手段、デマンドバスは重要。ずっと続けてほしい。(14歳女性)

[相談に関すること]

- ・ 学校に入ってからでも、療育センターで相談支援などを受けられると助かります。(6歳女性)

[情報提供に関すること]

- ・ 介護しながらの施設探しは、非常に、困難です。公的な機関の協力が欲しいです。情報不足です。発信をお願いします。(35歳男性)

[施設の整備などに関すること]

- ・ 北本市内にも施設があったらと思います。何かあっても遠方まで行かなくてはならない。(46歳女性)
- ・ 安心して、生活できる施設が必要。(45歳男性)
- ・ 重度行動援護を受けている人でも早急に入所できる施設をつくってほしいです。(35歳男性)
- ・ 北本市内には、障がい者の施設(作業所)が少なく、選択肢がありません。将来的に作業所に入所できるのかどうか、とても不安です。(16歳男性)
- ・ 介護保険を使うようになると、現在入所している施設を退所して老人ホームへ行かなければならないが、住みなれた入所施設で老後を過ごせるように願っている。(43歳女性)

[障がいに対する理解や権利擁護に関すること]

- ・ 障がいを理解してもらうのはむずかしい。もっと世の中が分かってもらって手伝ってほしい。(8歳男性)
- ・ おじいちゃん、おばあちゃんとすんでいます、障がいのことを理解してくれません。高れい者の人にもっとしてもらいたいです。(13歳男性)

[将来の不安などに関すること]

- ・ 親なき後も、いきいきと生活していけるような、支援の体制をぜひつくっていただきたいです。(44歳女性)

[交流の機会に関すること]

- ・ 一般企業で働いていますが、なかなか友達ができないので、休みの日でも一日中家にいることになってしまいます。(19歳男性)

[その他]

- ・ 意見や立場は常に変動するものです。このようなアンケートはできるだけ続けていただき、声を大切に聞いてほしいです。そして実行に移していただけたなら、幸いです。（11歳男性）
- ・ もっともっと障がいのある人が受け入れられ、どんな人でも住みやすい北本になって欲しい。（24歳男性）
- ・ 家族をまきこみたくない。家族が大事で、家族の体が心配です。僕がもっとよくなって家族が楽に一緒にすめるように力をかけてほしい。（25歳男性）
- ・ 手帳は使いにくいので小型化（カード）にしてほしい。（20代男性）

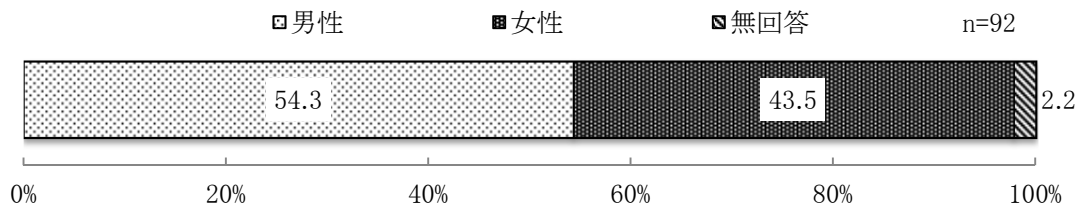
1 基本的な属性

(1) 性別

問2 あなたの性別をお答えください。(○は1つ)

男性が 54.3%、女性が 43.5%である。

[図表IV-1-1:性別]



(2) 年齢

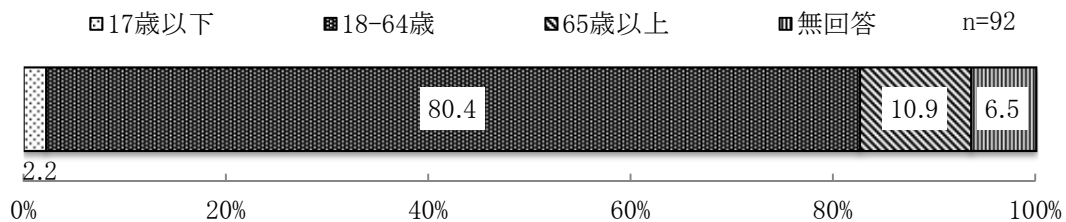
問3 年齢(11月1日現在)を記入してください。

年齢は、40歳代が 26.1%、50歳代が 21.7%を占め、平均年齢は 47.7歳である。なお、17歳以下は 2.2%、65歳以上は 10.9%となっている。

[図表IV-1-2:年齢(10歳刻み)]

年齢	割合 (%)
10歳代	2.2%
20歳代	6.5%
30歳代	18.5%
40歳代	26.1%
50歳代	21.7%
60歳代	13.0%
70歳代	5.4%
無回答	6.5%

[図表IV-1-3:年齢(3区分)]



(3) 居住場所

問4 現在、あなたはどこで暮らしていますか。(○は1つ)

現在、88.0%の人が「自宅で暮らしている」状況である。

[図表IV-1-4:居住場所]

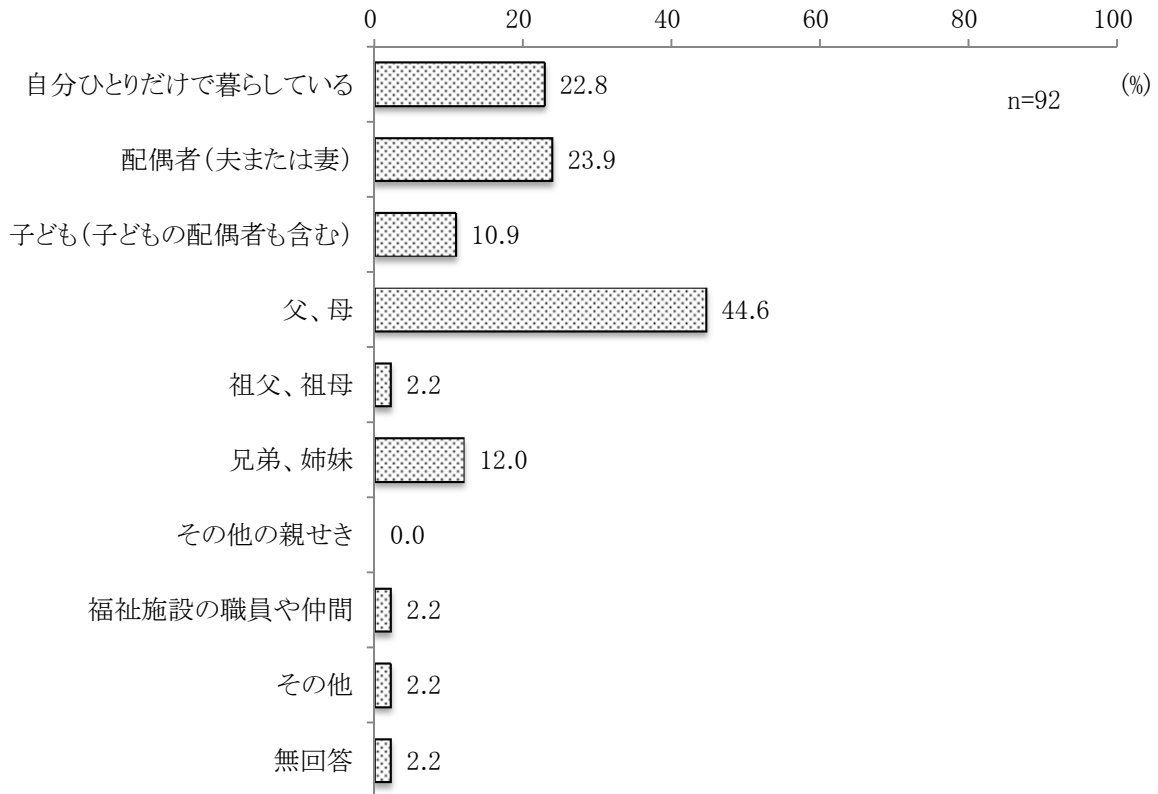
居住場所	割合 (%)
自宅で暮らしている	88.0%
病院に入院している	7.6%
福祉施設に入所している	3.3%
無回答	1.1%

(4) 同居者

問5 どなたと一緒に暮らしていますか。(○はいくつでも)

44.6%の人は「父、母」と、23.9%の人は「配偶者（夫または妻）」と暮らしており、「自分ひとりだけで暮らしている」人は22.8%である。

[図表IV-1-5:同居者]



(5) 調査票の記入者

問1 この用紙（調査票）に記入されるのはどなたですか。(○は1つ)

調査票の記入者については、「本人（この調査票が郵送されたあて名の方）が記入、または本人が答え、代筆者が記入」が67.4%、「家族（本人の立場に立って記入）」が25.0%である。

[図表IV-1-6:調査票の記入者]

	本人(この調査票が郵送されたあて名の方)が記入、または本人が答え、代筆者が記入	家族(本人の立場に立って記入)	施設や病院等の職員(本人の立場に立って記入)	無回答
n=92	67.4%	25.0%	1.1%	6.5%

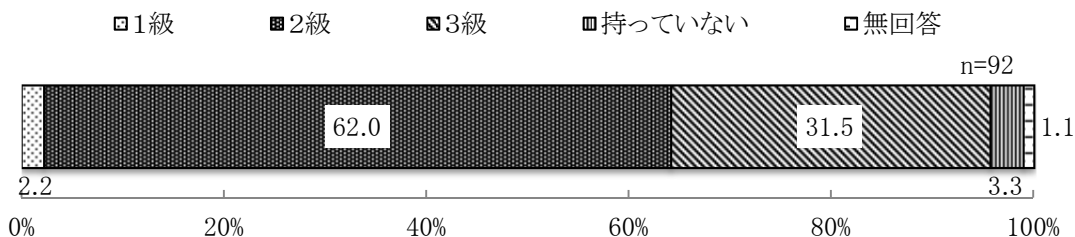
2 障がいの状況

(1) 障がいの程度

問6 精神障害者保健福祉手帳に記載された障がいの程度をお答えください。(○は1つ)

精神障害者保健福祉手帳に記載されている障がいの程度は、「1級」が2.2%、「2級」が62.0%、「3級」が31.5%である。

[図表IV-2-1:障がいの程度]

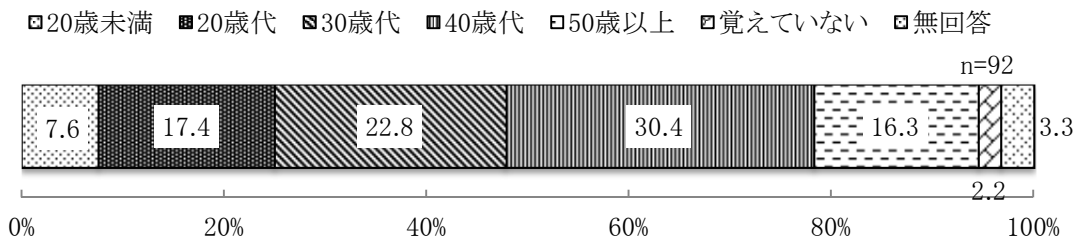


(2) 精神障害者保健福祉手帳の取得時期

問7 あなたが「精神障害者保健福祉手帳」を初めて所持されたのは何歳くらいのときですか。(○は1つ)

精神障害者保健福祉手帳を取得した時期は、「40歳代」が30.4%、「30歳代」が22.8%を占めている。

[図表IV-2-2:精神障害者保健福祉手帳の取得時期]

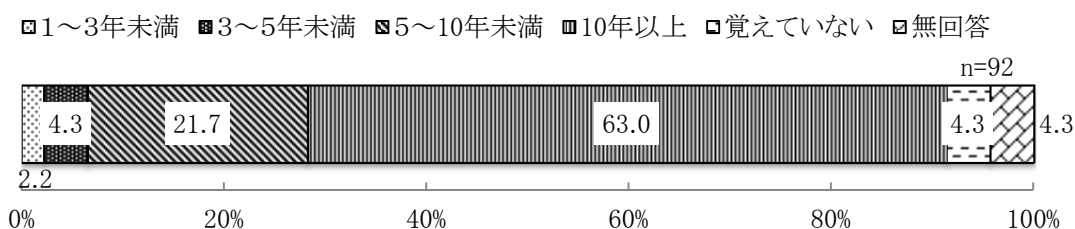


(3) 現在の症状が発症してからの年数

問8 現在の症状が発症してから何年になりますか。(○は1つ)

現在の症状が発症してからの年数は、「10年以上」が63.0%を占めている。

[図表IV-2-3:現在の症状が発症してからの年数]

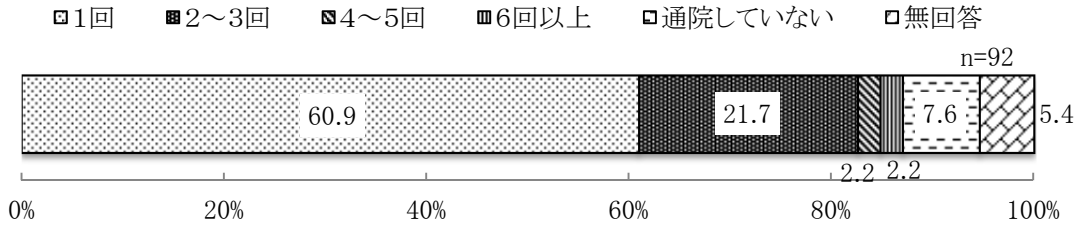


(4) 精神科または神経科の病院・診療所への通院頻度

問9 月に何回くらい精神科または神経科の病院・診療所に通院していますか。(○は1つ)

精神科または神経科の病院・診療所への通院頻度は、月に「1回」が60.9%を占めている。

[図表IV-2-4:精神科または神経科の病院・診療所への通院頻度]

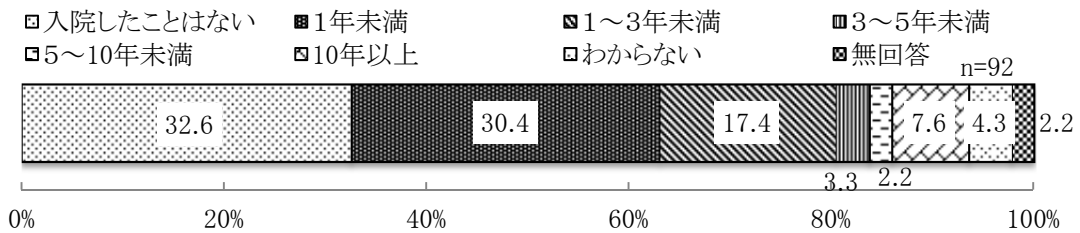


(5) 精神科または神経科の病院に入院した期間

問10 これまでに、精神科または神経科の病院に入院した期間を全部合わせるとどれくらいになりますか。(○は1つ)

精神科または神経科の病院に入院した期間は、合計「1年未満」が30.4%、「1~3年未満」が17.4%となっているが、32.6%の人は「入院したことはない」状況である。

[図表IV-2-5:精神科または神経科の病院に入院した期間]

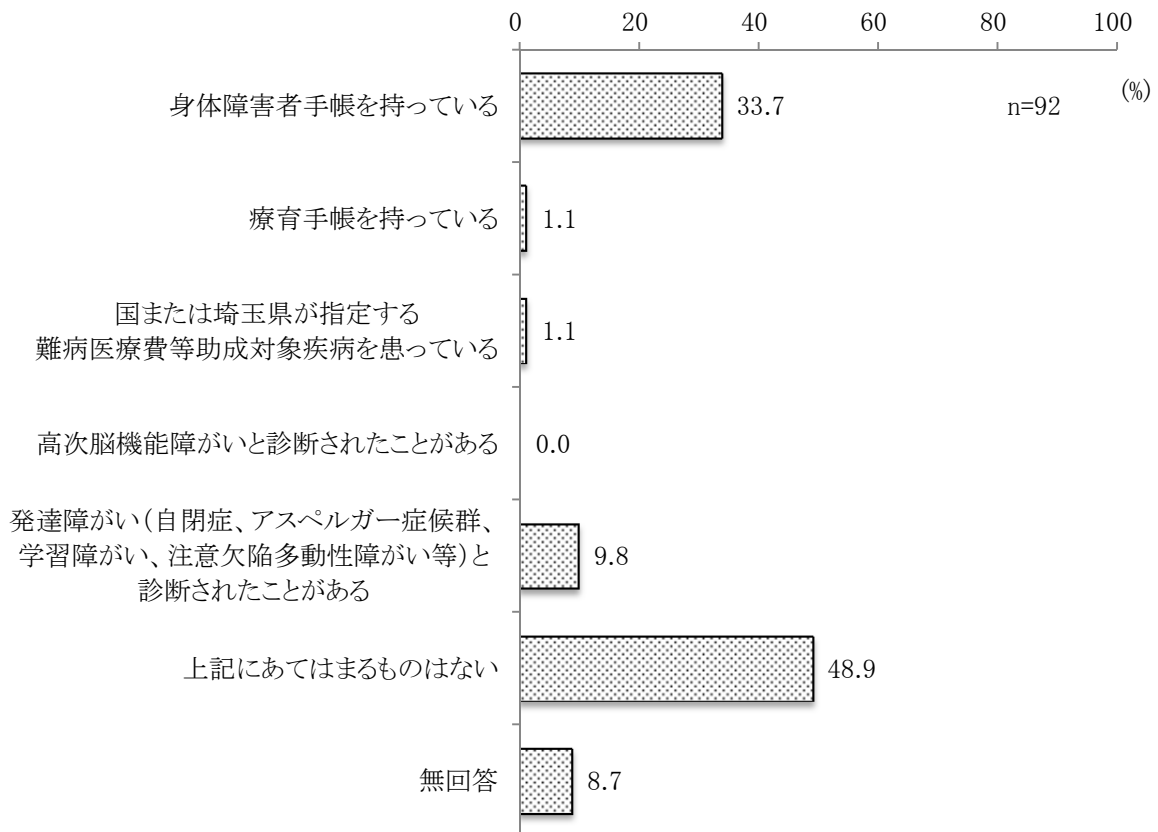


(6) 他の障がいの状況

問 11 次のうち、あてはまるものに○をつけてください。(○はいくつでも)

知的障がいのほか、「身体障害者手帳を持っている」人は33.7%、「療育手帳を持っている」人は1.1%、「国または埼玉県が指定する難病医療費等助成対象疾患を患っている」人は1.1%、「発達障がい(自閉症、アスペルガー症候群、学習障がい、注意欠陥多動性障がい等)と診断されたことがある」人は9.8%である。

[図表IV-2-6:他の障がいの状況]



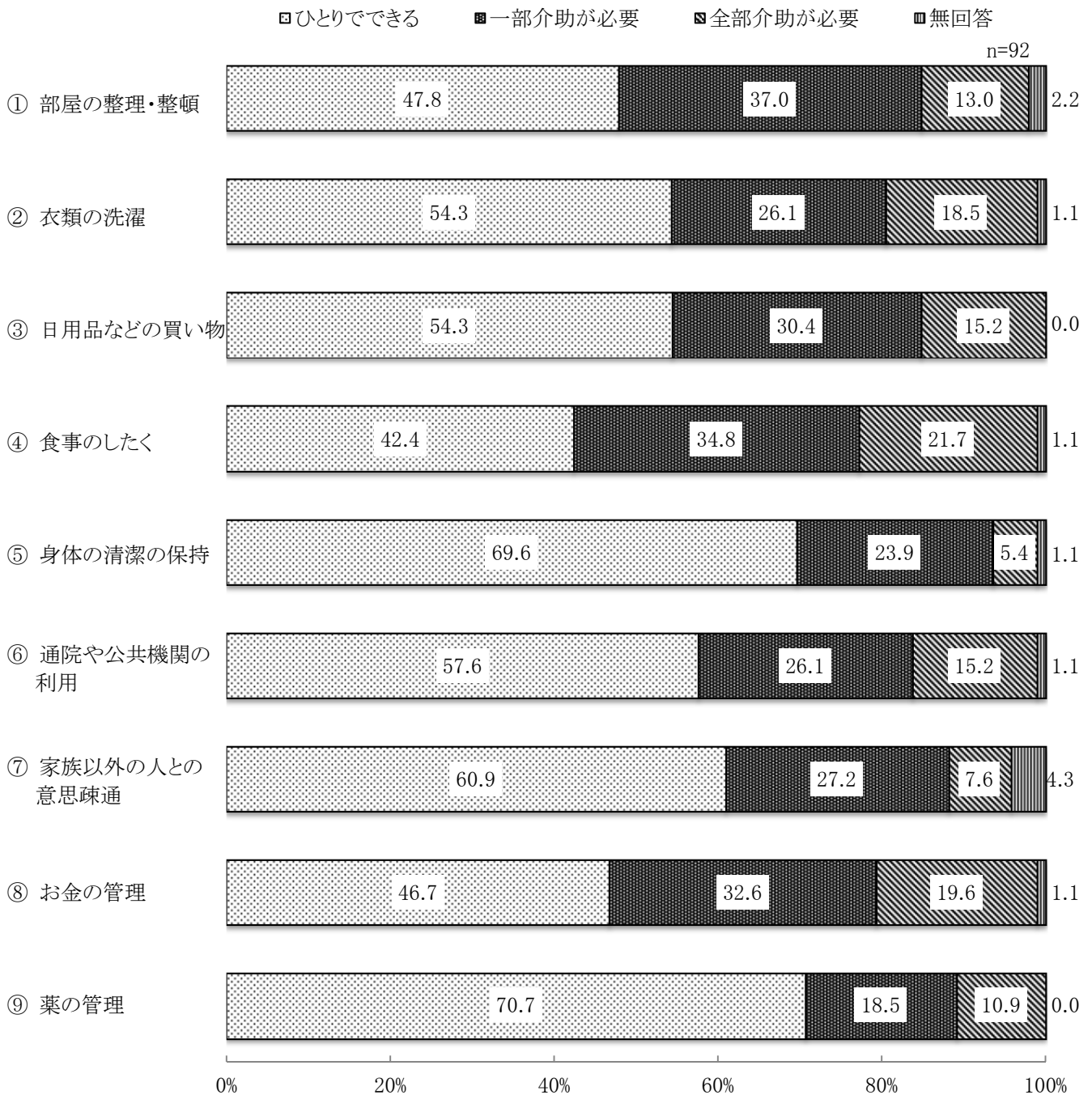
3 介助・援助の状況

(1) 日常生活における介助・援助の必要性

問 12 日常生活で、次のことをどのようにしていますか。①から⑨のそれぞれにお答えください。(○は①から⑨それぞれに1つずつ)

日常生活で介助・援助の必要性が最も高いのは「食事のしたく」で、21.7%が「全部介助が必要」、34.8%が「一部介助が必要」な状況である。

[図表IV-3-1: 日常生活における介助・援助の必要性]



(2) 主な介助・援助者

問 13 ふだん、あなたを主に介助・援助しているのはどなたですか。(○は1つ)

主な介助・援助者は、「父、母」が44.6%、「配偶者（夫、妻）」が16.3%を占めている。

[図表IV-3-2: 主な介助・援助者]

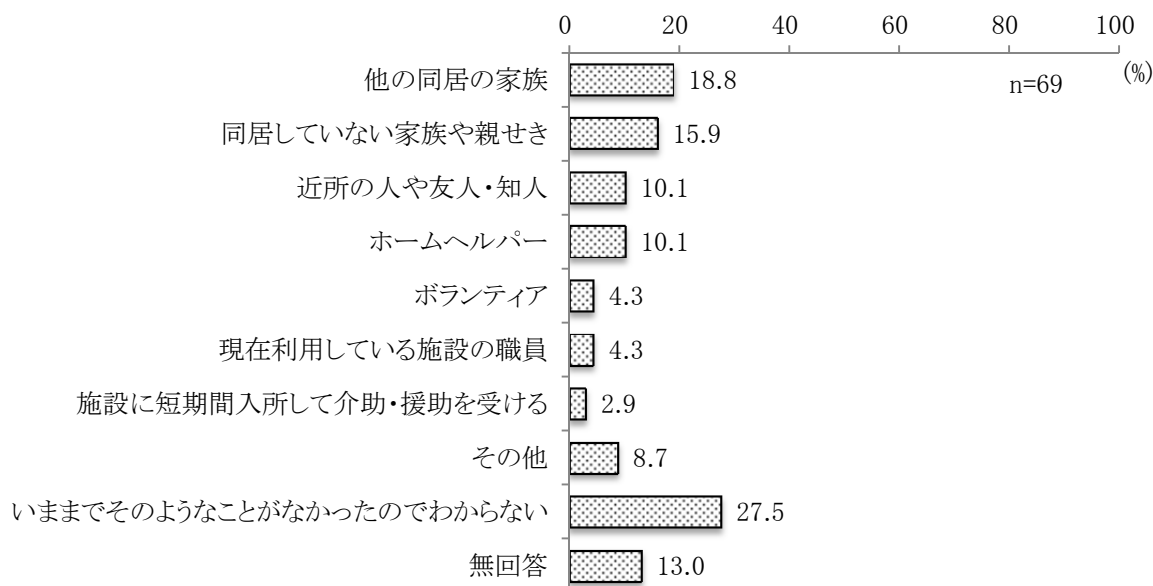
	父、母	配偶者 (夫、妻)	子ども、子 どもの配 偶者	兄弟姉妹	ホームヘル パー等の在 宅サービス 事業者	その他	介助・援助 している人 はいない (必要ない)	無回答
n=92	44.6%	16.3%	2.2%	4.3%	4.3%	3.3%	21.7%	3.3%

(3) 代わりの介助・援助者

問 14 あなたを主に介助・援助している方が、病気や外出をしなければならないときは、代わりにどなたに介助・援助してもらいたいと思いますか。(○はいくつでも)

代わりに介助・援助してもらいたい人は、「他の同居の家族」が18.8%と最も多く、次いで「同居していない家族や親せき」が15.9%で続いている。

[図表IV-3-3: 代わりの介助・援助者]



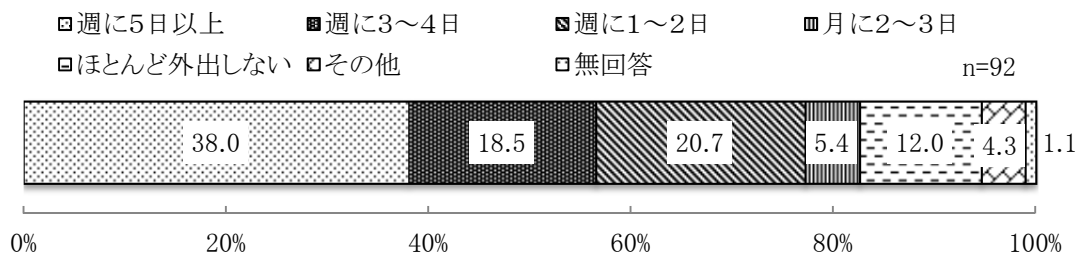
4 外出などの状況

(1) 外出の頻度

問 15 あなたは、どのくらい外出しますか。通園、通学、通勤、買い物、日常の散歩など、すべてを含めてお答えください。(○は1つ)

外出の頻度は、「週5日以上」が38.0%、「週に3～4日」が18.5%、「週に1～2回」が20.7%と、8割弱の人は週1日以上外出しているが、「ほとんど外出しない」人も約1割(12.0%)みられる。

[図表IV-4-1:外出の頻度]

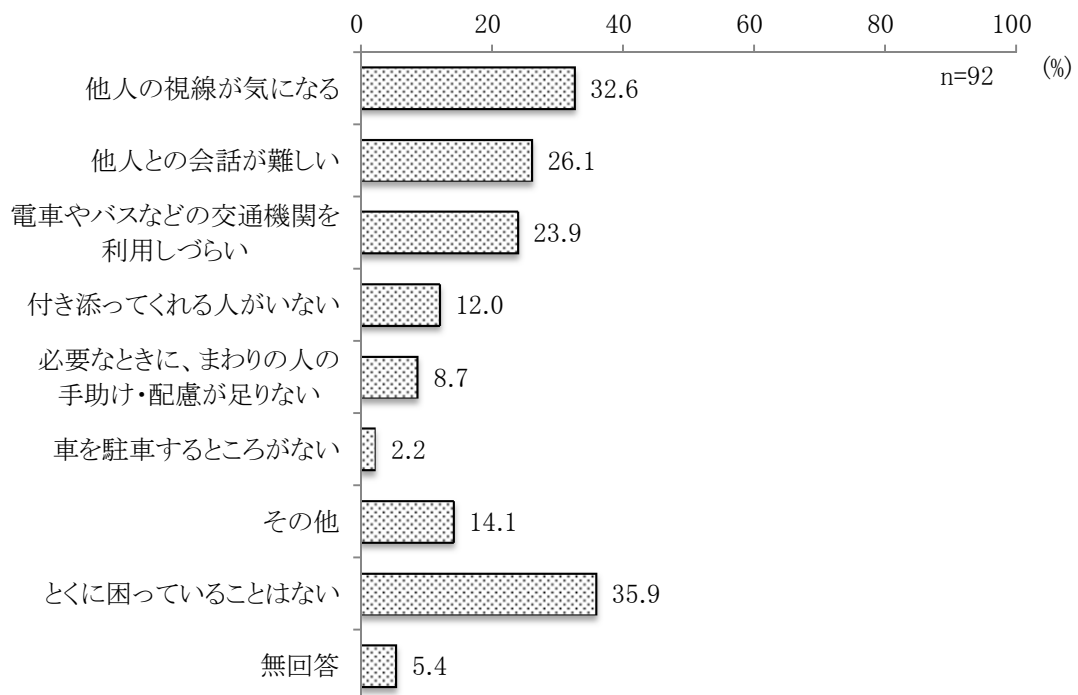


(2) 外出の際に困っていること

問 16 外出の際に困っていることがありますか。(○はいくつでも)

外出の際に困っていることは、「他人の視線が気になる」ことをあげる人が32.6%と最も多く、次いで「他人との会話が難しい」が26.1%と続いている。

[図表IV-4-2:外出の際に困っていること]

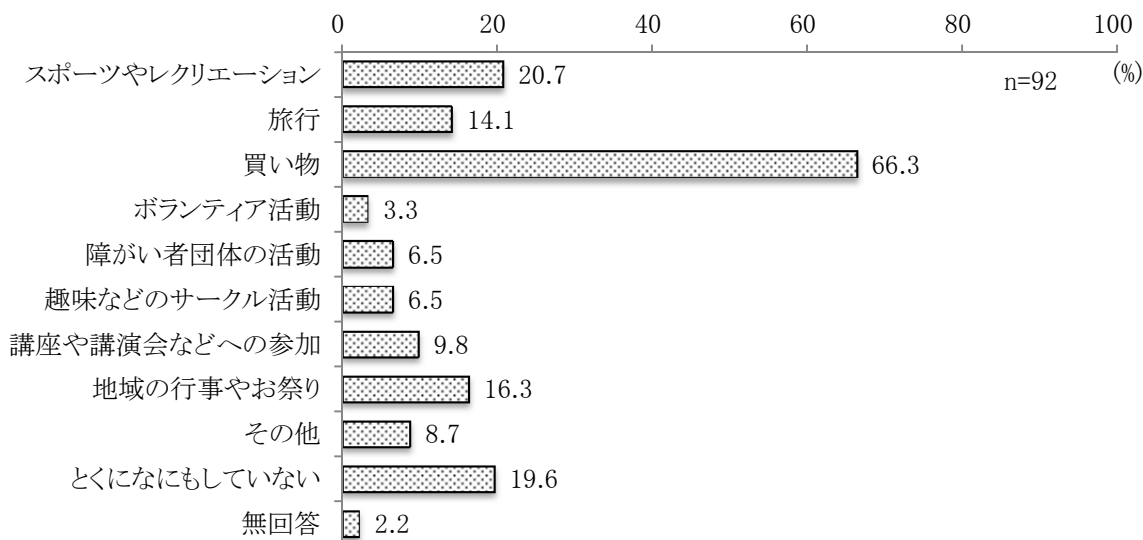


(3) 1年間の活動内容

問 17 この1年くらいの間に、次のような活動をしましたか。(○はいくつでも)

この1年くらいの間に行った活動としては、「買い物」が66.3%と最も多く、次いで「スポーツやレクリエーション」(20.7%)、「地域の行事やお祭り」(16.3%)と続いている。

[図表IV-4-3: 1年間の活動内容]

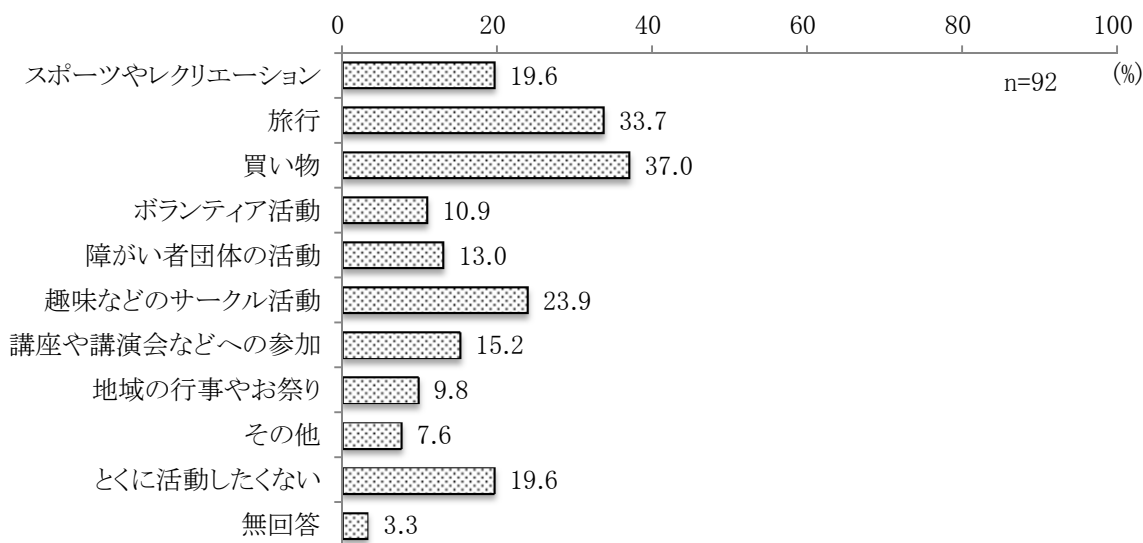


(4) 今後希望する活動内容

問 18 これから、どのような活動をしたいと思いますか。(○はいくつでも)

今後行いたい活動としては、「買い物」が37.0%と最も多く、次いで「旅行」(33.7%)、「趣味などのサークル活動」(23.9%)と続いている。

[図表IV-4-4: 今後希望する活動内容]



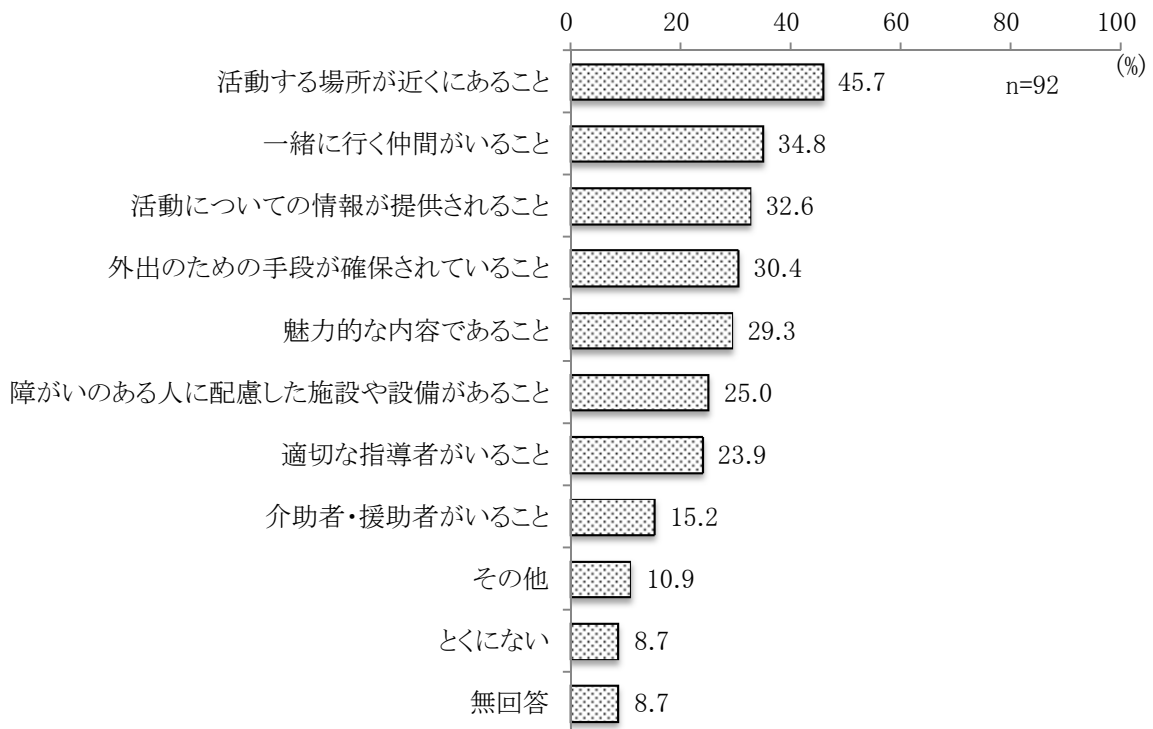
この1年くらいの間に行った活動と今後行いたい活動を比較してみると、「旅行」については、実際にこの1年間に行くことができた人は14.1%だが、今後行きたいと考えている人は33.7%となっており、その差が大きい。

(5) 希望する活動をするために必要な条件

問19 問18のような活動をするためには、どのような条件が必要だと思いますか。(○はいくつでも)

希望する活動をするために必要な条件としては、「活動する場所が近くにあること」をあげる人が45.7%と最も多く、次いで「一緒に行く仲間がいること」が34.8%で続いている。

[図表IV-4-5: 希望する活動をするために必要な条件]

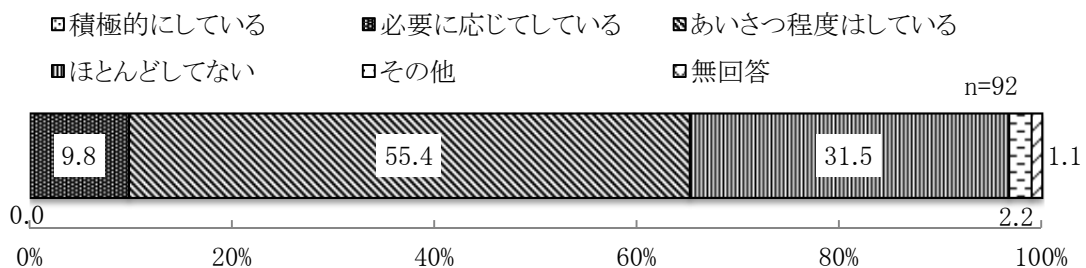


(6) 近所とのつきあいの状況

問20 ご近所とのつきあいは、次のどれにあてはまりますか。(○は1つ)

近所とのつきあいの状況は、「必要に応じてしている」が9.8%、「あいさつ程度はしている」が55.4%で、約3割の人は「ほとんどしてない」(31.5%)状況である

[図表IV-4-6: 近所とのつきあいの状況]



5 医療や健康管理の状況

(1) 医療的ケアの状況

問 21 あなたは、現在、次のような医療的ケアを受けていますか。(〇はいくつでも)

現在、40.2%の人は「医療的ケアは受けていない」状況であり、受けている医療的ケアとしては、「服薬管理」が40.2%となっている。

[図表IV-5-1:医療的ケアの状況]

	医療的ケアは受けていない	服薬管理	その他の医療的ケアを受けている	無回答
n=92	40.2%	40.2%	5.4%	16.3%

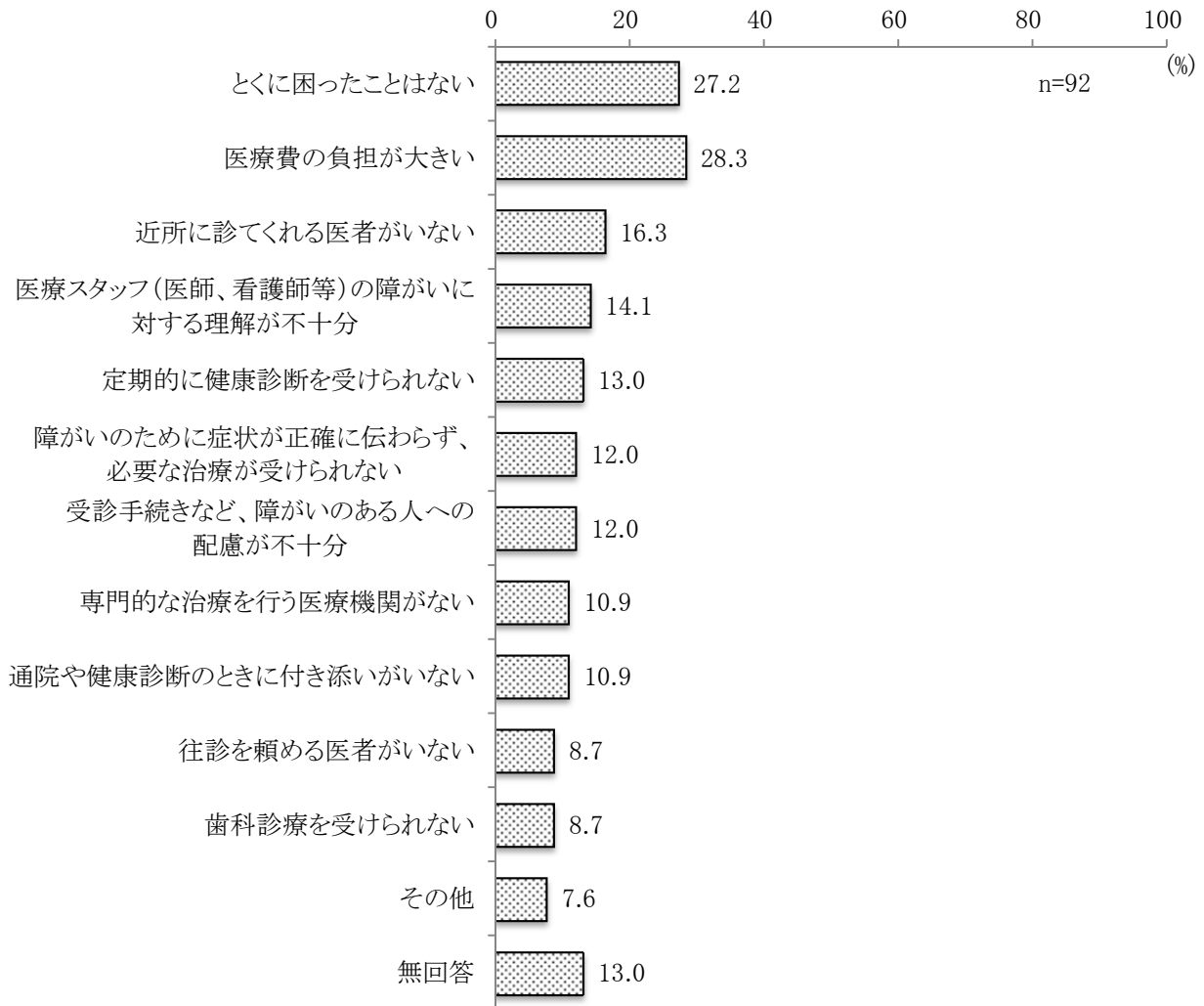
なお、「その他の医療的ケア」としては、具体的に「訪問看護」、「精神科通院」、「ブロック注射」などの記入があった。

(2) 健康管理や医療について困ったり不便に思うこと

問 22 健康管理や医療について、困ったり不便に思ったことがありますか。(〇はいくつでも)

健康管理や医療については、27.2%の人が「とくに困ったことはない」と回答しているが、困ったり不便に思うこととしては、「医療費の負担が大きい」ことをあげる人が28.3%と最も多く、次いで「近所に診てくれる医者がない」(16.3%)、「医療スタッフ(医師、看護師等)の障がいに対する理解が不十分」(14.1%)と続いている。

[図表IV-5-2: 健康管理や医療について困ったり不便に思うこと]



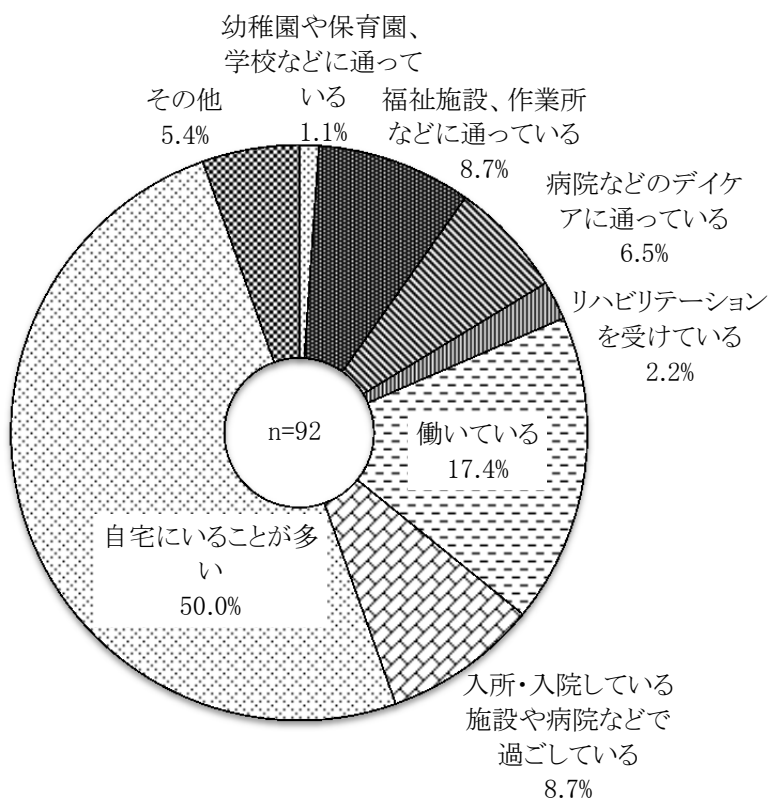
6 日中の過ごし方

(1) 日中の過ごし方

問 23 あなたは、平日の日中を主にどのように過ごしていますか。(○は1つ)

平日の日中は、「自宅にすることが多い」と回答した人が 50.0%と最も多く、次いで「働いている」(17.4%)、「福祉施設、作業所などに通っている」と「入所・入院している施設や病院などで過ごしている」(それぞれ 8.7%) と続いている。

[図表IV-6-1:日中の過ごし方]



年齢別にみると、18歳～64歳では、約2割の人が「働いている」(20.3%) 状況である。

[図表IV-6-2:日中の過ごし方/年齢別]

	幼稚園や保育園、学校などに通っている	福祉施設、作業所などに通っている	病院などのデイケアに通っている	リハビリテーションを受けている
17歳以下 n=2	50.0%	—	—	—
18歳～64歳 n=74	—	8.1%	5.4%	1.4%
65歳以上 n=10	—	—	20.0%	10.0%
無回答 n=6	—	33.3%	—	—

	働いている	入所・入院している施設や病院などで過ごしている	自宅にすることが多い	その他
17歳以下 n=2	—	—	—	50.0%
18歳～64歳 n=74	20.3%	6.8%	55.4%	2.7%
65歳以上 n=10	10.0%	20.0%	30.0%	10.0%
無回答 n=6	—	16.7%	33.3%	16.7%

7 就労について

(1) 就労状況

問 24 現在、あなたは収入を伴う仕事をしていますか。(○は1つ)

18歳～64歳のうち、「収入を伴う仕事をしている」人の割合は28.4%である。

[図表Ⅳ-7-1: 就労状況／年齢別]

	収入を伴う仕事をしている	収入を伴う仕事はしていない	無回答
全 体 n=107	25.0%	73.9%	1.1%
17歳以下 n=2	—	100.0%	—
18歳～64歳 n=74	28.4%	70.3%	1.4%
65歳以上 n=10	10.0%	90.0%	—
無回答 n=6	16.7%	83.3%	—

(2) 仕事の形態

問 25 仕事の形態は、次のうちどれですか。(○は1つ)

仕事の形態は、23人中12人が「アルバイト、臨時、パート、嘱託」(52.2%)、5人が「就労継続支援、就労移行支援などの事業所、作業所」(21.7%)である。

[図表Ⅳ-7-2: 仕事の形態]

	自営業(家業の手伝いを含む)	会社・団体等の正規の職員	アルバイト、臨時、パート、嘱託	就労継続支援、就労移行支援などの事業所、作業所	その他
n=23	4.3%	17.4%	52.2%	21.7%	4.3%

(3) 給与・賃金の額

問 26 あなたご自身の1か月あたりの平均的な給与・賃金はいくらですか。(○は1つ)

1か月あたりの平均的な給与・賃金の額は、「5万円～10万円未満」が30.4%、「10万円～20万円未満」が26.1%である。

[図表Ⅳ-7-3: 給与・賃金の額]

	5千円未満	5千円～1万円未満	1万円～3万円未満	3万円～5万円未満	5万円～10万円未満	10万円～20万円未満	20万円～30万円未満	無回答
n=23	8.7%	4.3%	4.3%	8.7%	30.4%	26.1%	13.0%	4.3%

(4) 仕事をするうえで困っていること

問 27 仕事をするうえで困っていることはなんですか。(○はいくつでも)

仕事をするうえで困っていることとしては、「給与・工賃などが少ない」が 56.5%と最も多く、次いで「職場の人間関係」(47.8%)、「通勤がたいへん」(34.8%)と続いている。

[図表IV-7-4: 仕事をするうえで困っていること]

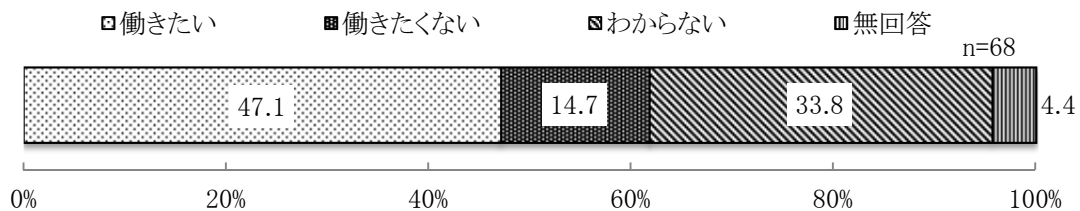
	給与・工賃 などが少ない	職場の人間 関係	通勤がたい へん	障がいに対 する職場の 理解不足	勤務時間、 日数が多 く、体力的 に不安	職場外で 相談相手 がいない	業務内容 が合わない	とくに困っ ていること はない
n=23	56.5%	47.8%	34.8%	30.4%	26.1%	21.7%	13.0%	8.7%

(5) 就労意向

問 28 今後、自分の健康状況や通勤の可能性など、条件が整えば働きたいと思いますか。(○は1つ)

現在働いていない人でも、自分の健康状況や通勤の可能性などの条件が整えば、47.1%の人は「働きたい」と回答している。

[図表IV-7-5: 就労意向]

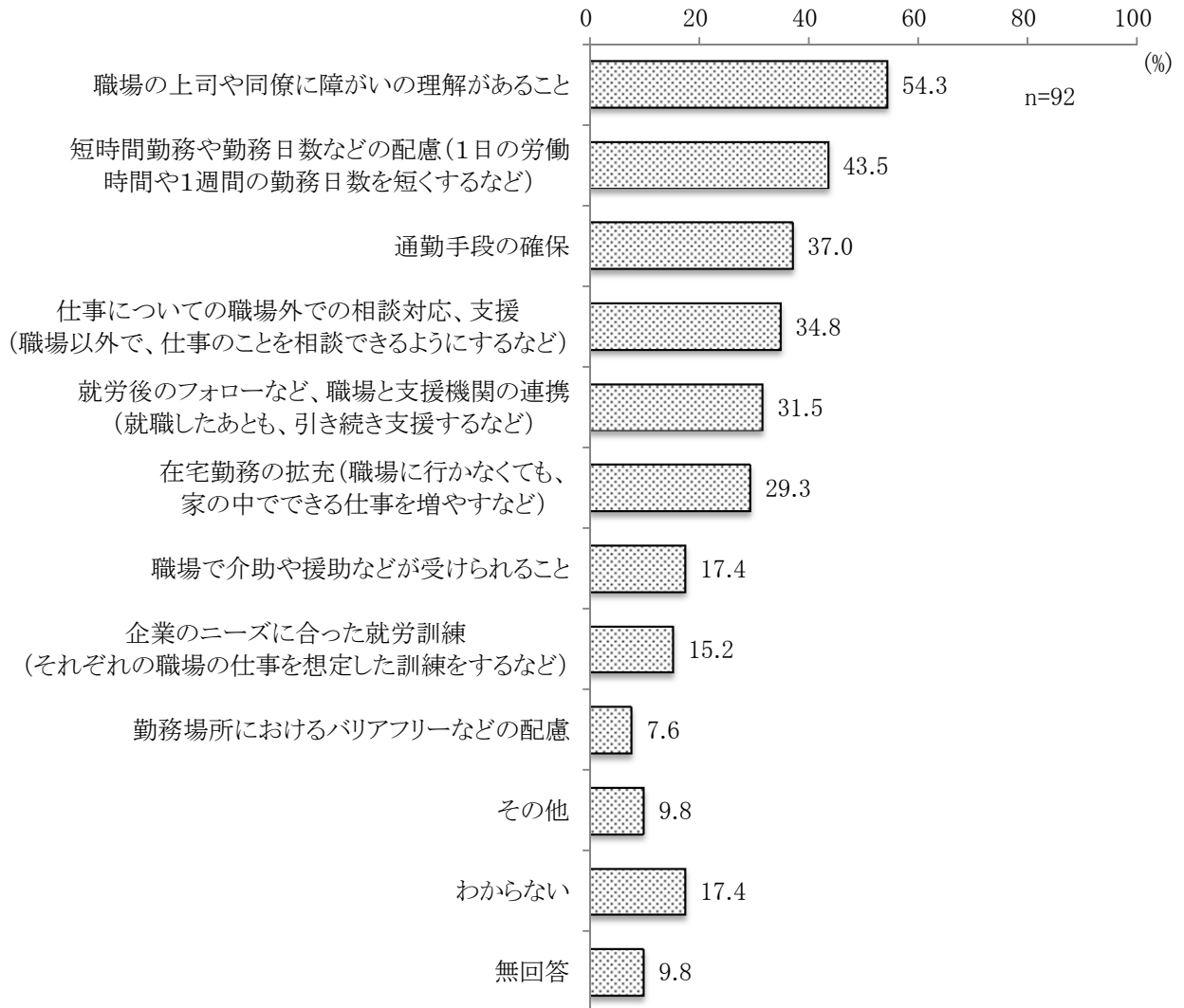


(6) 障がい者の就労支援に必要なこと

問 29 あなたは、障がい者の就労支援として、どのようなことが必要だと思いますか。あてはまるものに○をつけてください。(○はいくつでも)

障がい者の就労支援として必要なこととしては、「職場の上司や同僚に障がいの理解があること」をあげる人が54.3%と最も多く、次いで「短時間勤務や勤務日数などの配慮(1日の労働時間や1週間の勤務日数を短くするなど)」が43.5%で続いている。

[図表IV-7-6:障がい者の就労支援に必要なこと]



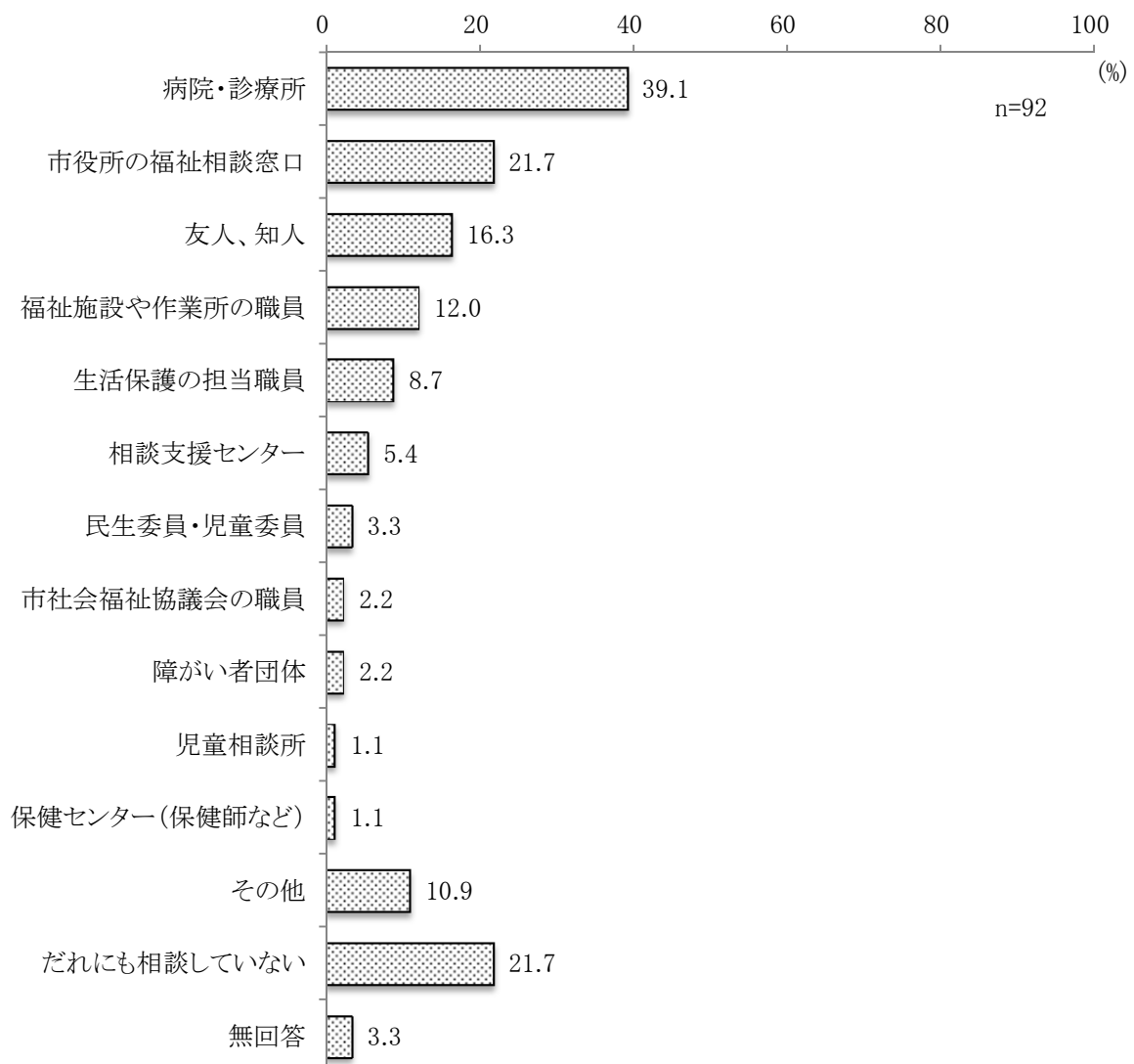
8 相談や情報入手の状況

(1) 悩みごとや心配ごとの相談先

問30 あなたは、悩みごとや心配ごとがあるとき、家族や親せき以外に、どのようなところに相談していますか。
(○はいくつでも)

悩みごとや心配ごとの相談先としては、「病院・診療所」をあげる人が39.1%と最も多く、次いで「市役所の福祉相談窓口」が21.7%で続いているが、21.7%は「だれにも相談していない」状況である。

[図表IV-8-1: 悩みごとや心配ごとの相談先]

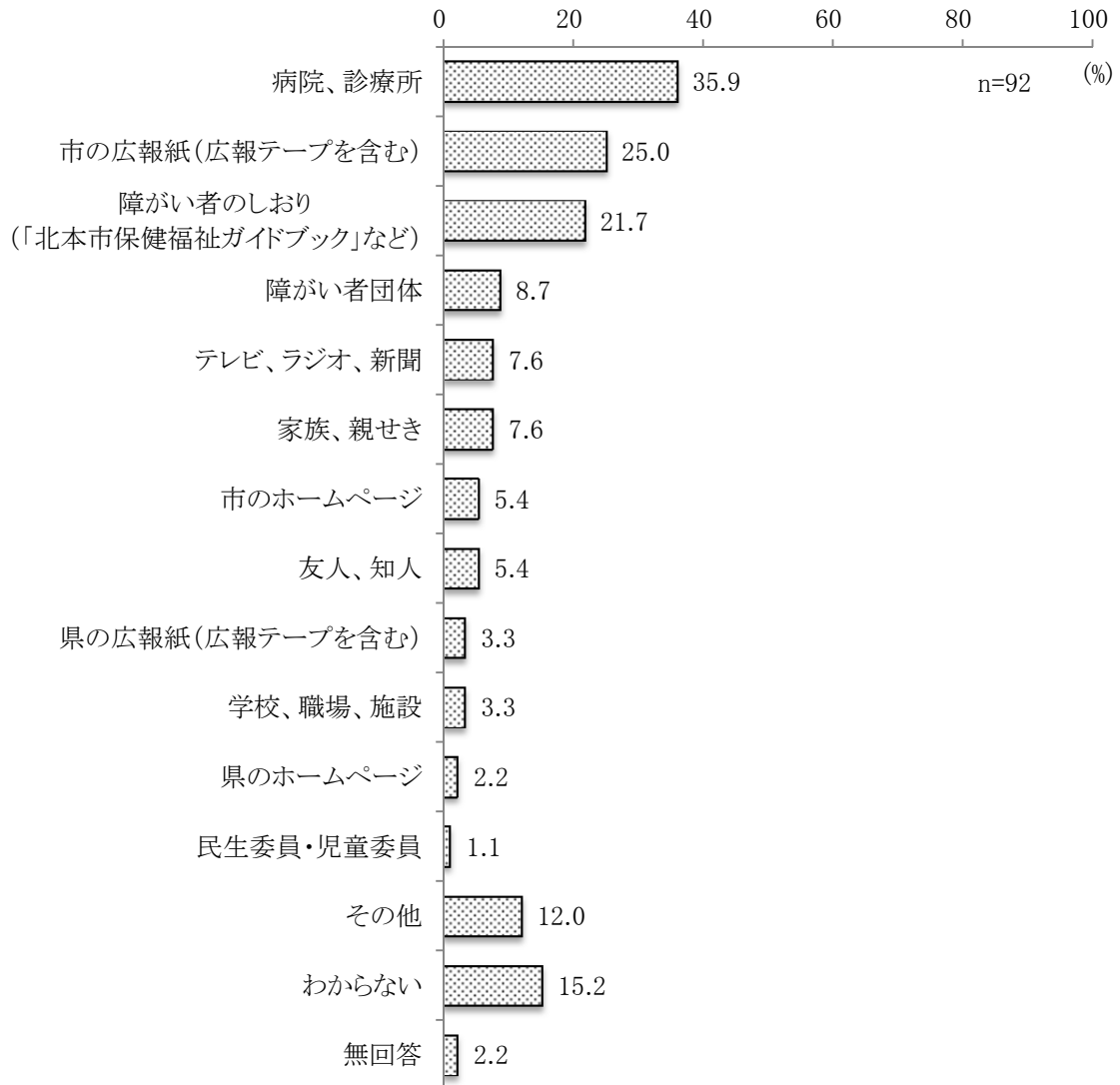


(2) 福祉サービスなどの情報の入手先

問 31 障がい福祉サービスなどの情報をどこから得ていますか。(〇はいくつでも)

障がい福祉サービスなどの情報の入手先は、「病院、診療所」が 35.9%と最も多く、次いで「市の広報紙(広報テープを含む)」(25.0%)、「障がい者のしおり(「北本市保健福祉ガイドブック」など)」(21.7%)と続いている。

【図表IV-8-2:福祉サービスなどの情報の入手先】

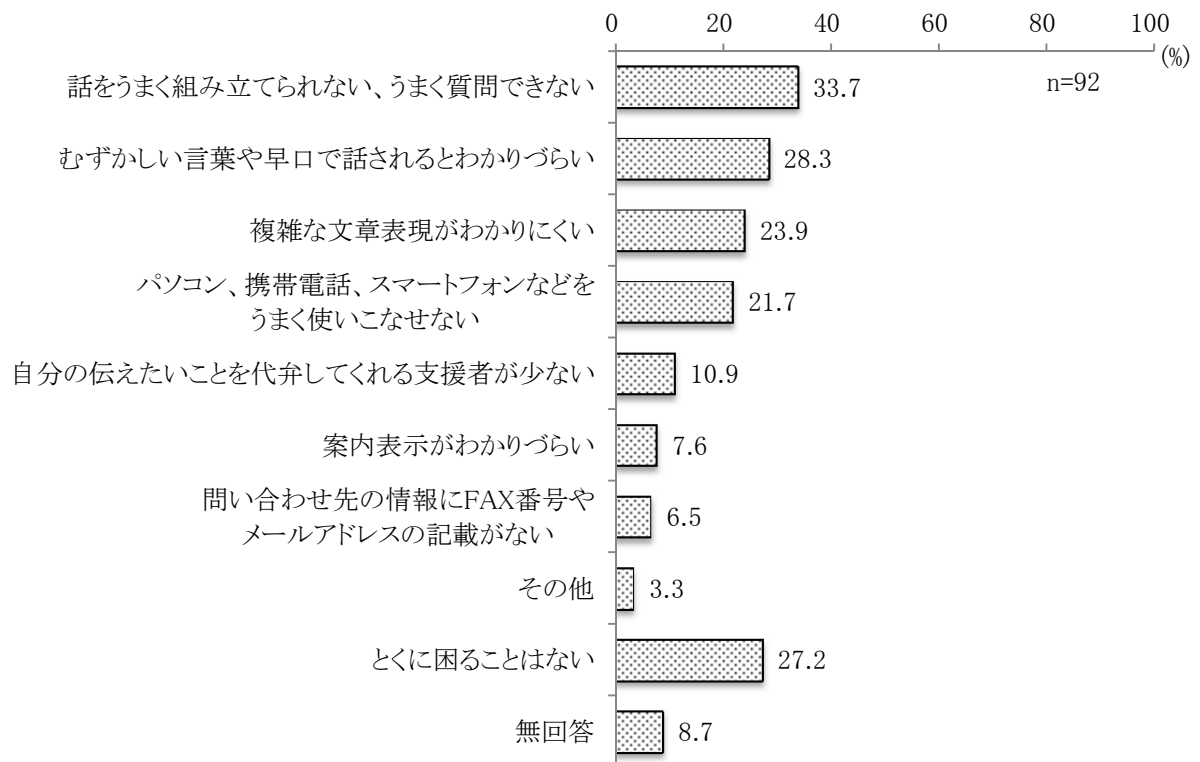


(3) コミュニケーションや情報取得をするうえで困ること

問 32 コミュニケーションや情報取得をするうえで困ることはどのようなことですか。(○はいくつでも)

コミュニケーションや情報取得をするうえで困ることとしては、「話をうまく組み立てられない、うまく質問できない」ことをあげる人が 33.7%と最も多く、次いで「むずかしい言葉や早口で話されるとわかりづらい」が 28.3%で続いている。

[図表IV-8-3:コミュニケーションや情報取得をするうえで困ること]



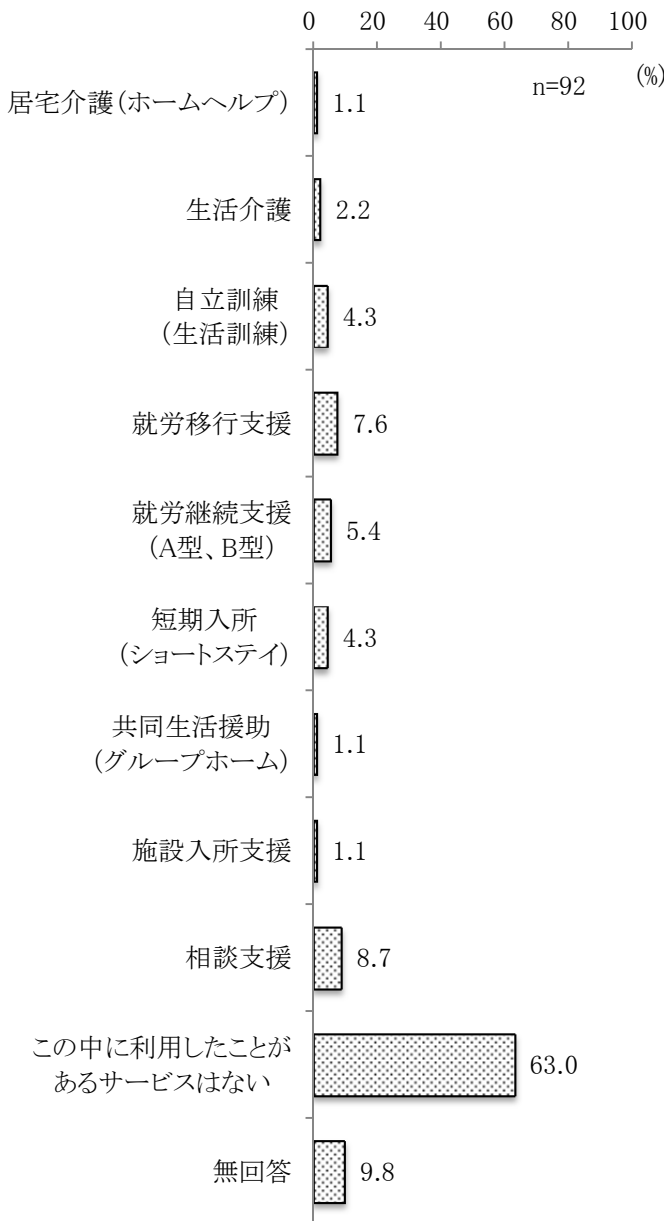
9 障がい福祉サービスについて

(1) サービスの利用状況

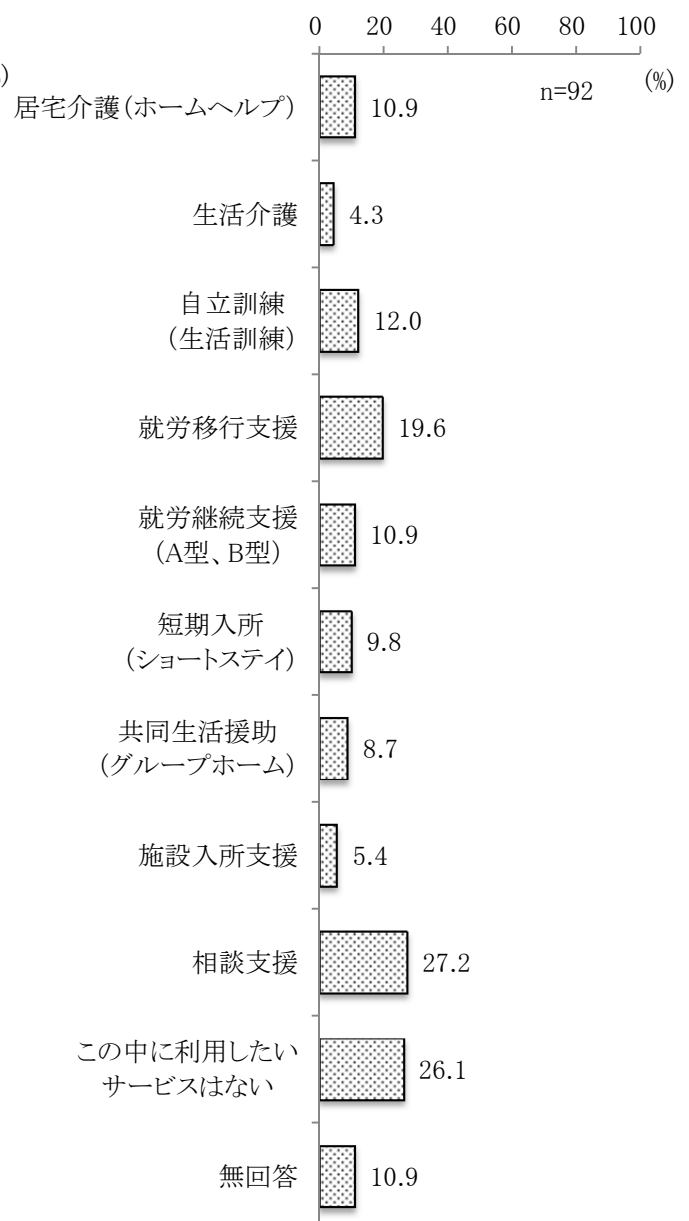
問 33 あなたは、ここ1年くらいの間に、次のサービスを利用したことがありますか。利用したことがあるものすべてに○をつけてください。(○はいくつでも)

利用したことのある障がい福祉サービスは、「相談支援」が8.7%と最も多く、次いで「就労移行支援」が7.6%で続いている。なお、63.0%の人は、「この中に利用したことがあるサービスはない」と回答している。

[図表IV-9-1: サービスの利用状況]



[図表IV-9-2: サービスの利用意向]



(2) サービスの利用意向

問 34 次のサービスの中で、今後も引き続き利用したい、あるいは、新たに利用したいと思うサービスはありますか。利用したいものすべてに○をつけてください。(○はいくつでも)

今後も引き続き利用したい、あるいは新たに利用したいと思う障がい福祉サービスは、「相談支援」が27.2%と最も多く、次いで「就労移行支援」が19.6%で続いている。

利用したことのある障がい福祉サービスがない人についてみると、34.5%は「この中に利用したいサービスはない」と回答しているが、「相談支援」を利用したい人は29.3%、「就労移行支援」を利用したい人は15.5%など、今後新たに障がい福祉サービスを利用したいと考えている人もみられる。

[図表IV-9-3: サービスの利用意向/いままで障がい福祉サービスを利用したことがない人]

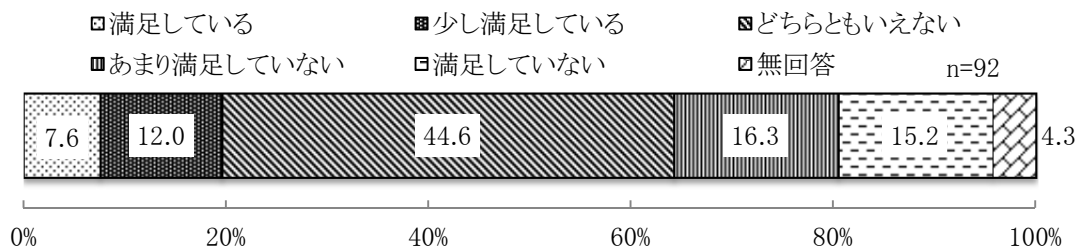
n=58	居宅介護(ホームヘルプ)	生活介護	自立訓練(生活訓練)	就労移行支援	就労継続支援(A型、B型)	短期入所(ショートステイ)
	6.9%	3.4%	10.3%	15.5%	5.2%	5.2%
	共同生活援助(グループホーム)	施設入所支援	相談支援	この中に利用したいサービスはない	無回答	
	6.9%	5.2%	29.3%	34.5%	10.3%	

(3) 障がい福祉サービスの満足度

問 35 市の障がい福祉サービス全般について、満足していますか。(○は1つ)

市の障がい福祉サービス全般については7.6%が「満足している」、12.0%が「少し満足している」と回答している。

[図表IV-9-4: 障がい福祉サービスの満足度]



障がい福祉サービスの利用状況別にみると、何らかのサービスを利用したことがある25人では、「満足している」2人(8.0%)、「少し満足している」5人(20.0%)、「満足していない」6人(24.0%)、「あまり満足していない」4人(16.0%)となっており、満足と不満足を比較すると不満足のほうが多い。

[図表IV-9-5: 障がい福祉サービスの満足度/障がい福祉サービスの利用状況別]

	満足している	少し満足している	どちらともいえない	あまり満足していない	満足していない	無回答
サービス利用あり n=25	8.0%	20.0%	28.0%	16.0%	24.0%	4.0%
サービス利用なし n=58	8.6%	8.6%	44.8%	19.0%	13.8%	5.2%

(4) 障がい福祉サービスについて満足していないところ

問 36 満足していないのはどのようなところですか。ご自由にお書きください。(自由記入)

市の障がい福祉サービス全般について満足していないところとしては、具体的に次のような記入があった。

- ・ 情報発信の場所が少ないように思う。
- ・ 情報提供が少ない。従来からある制度、新しい制度、施設、相談方法等々。
- ・ 「北本市保健福祉ガイドブックを下さい」と言ったら、数年前のものを渡された。
- ・ サービス内容を知らない。全て、ネットで調べて、自分で動くしかない。
- ・ どんな福祉サービスがあるか北本市のHPではわからない。
- ・ 親身な相談が得られない(相談員が不在)。
- ・ 就労が途切れていることもあるが、相談もできなく困っている。
- ・ どのような手順でサービスを受ければよいのかわかりにくい。
- ・ アルバイトをゴールとする就労支援。正社員で働きたい。
- ・ 障がい者同士のみで相談し合える場所がない。
- ・ 市内で利用出来る施設が少ない。(交流サロン、相談事業所、デイケアなど)
- ・ 手帳を持っていても、利用できないことがたくさんある。
- ・ 手帳の種類で受けられるサービスが異なる。差別感を感じる。
- ・ 障がいのため我が子を乳児院に預けざるをえなかった。障がい者でも子育てできる 24 時間子育てヘルパー制度やボランティアを派遣する制度があれば。

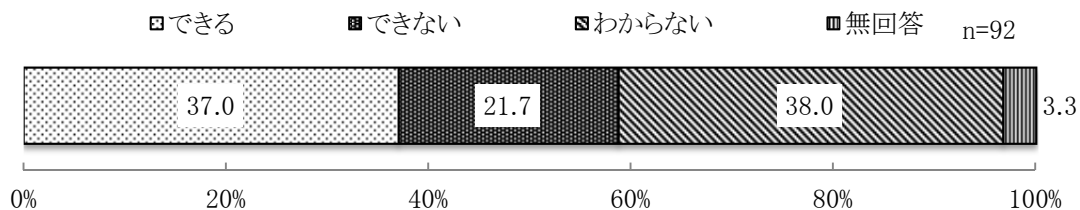
10 防災対策について

(1) 災害時の単独避難の能否

問 37 あなたは、地震や台風などの災害時に、ひとりで避難できると思いますか。(○は1つ)

地震や台風などの災害時に、ひとりで避難「できる」と回答した人は37.0%で、約2割は「できない」(21.7%)と回答している。

[図表IV-10-1: 災害時の単独避難の能否]

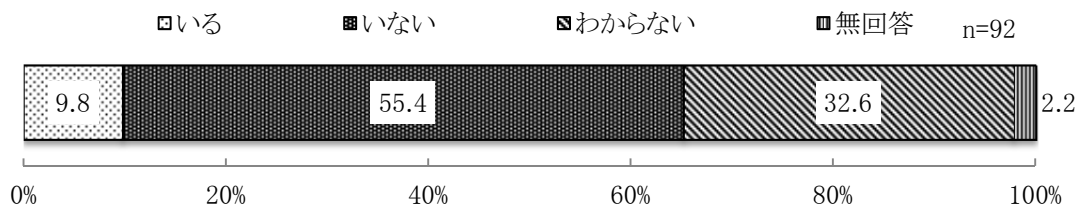


(2) 近隣援助者の有無

問 38 家族が不在の場合や、ひとり暮らしの場合、近所にあなただけを助けてくれる人はいますか。(○は1つ)

災害時、近所に助けてくれる人が「いる」人は9.8%で、55.4%は「いない」と回答している。

[図表IV-10-2: 近隣援助者の有無]

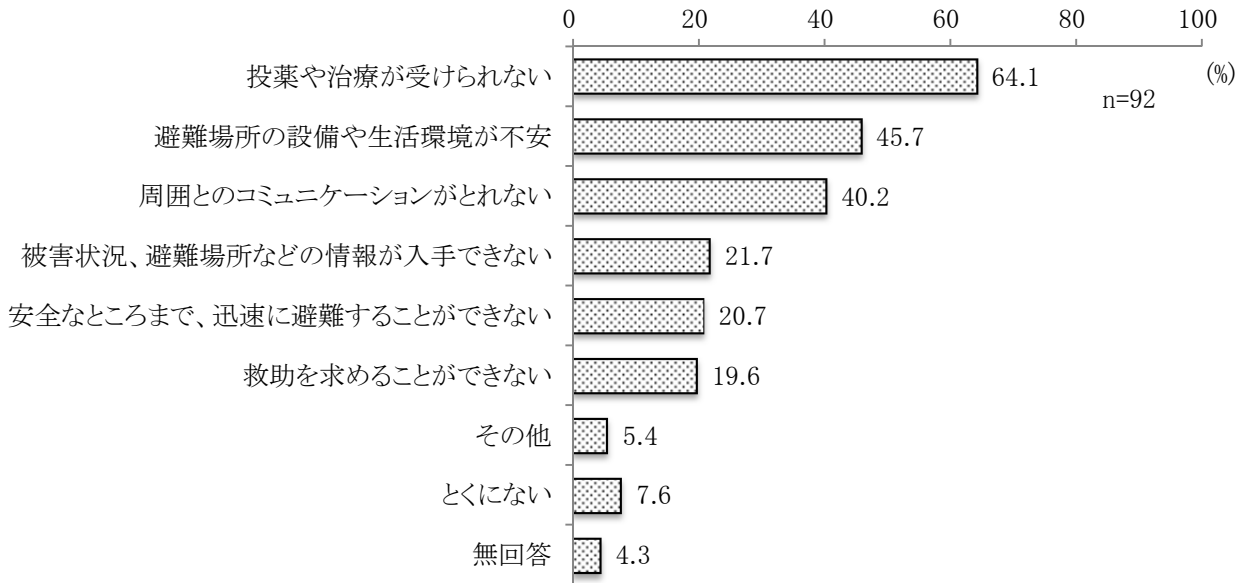


(3) 災害時に困ると思うこと

問 39 地震や台風などの災害時に困ると思うことはなんですか。(○はいくつでも)

災害時に困ることは、「投薬や治療が受けられない」が64.1%と最も多い。

[図表IV-10-3: 災害時に困ると思うこと]

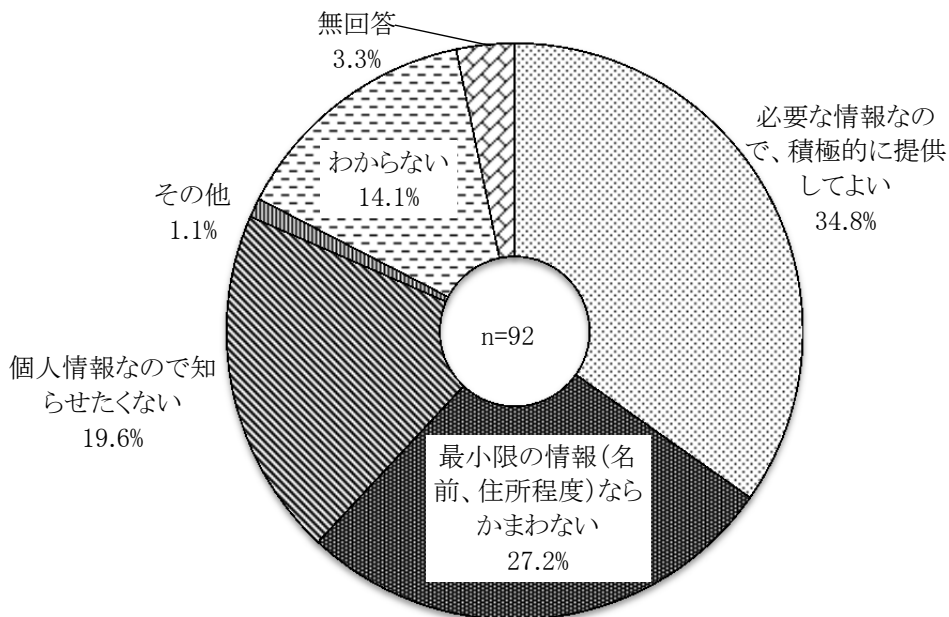


(4) 避難行動要支援者避難支援制度に対する考え

問 40 災害時に行政や地域などから支援を受けるため、あらかじめ個人情報(名前、住所、世帯の状況、障がいの状況等)を市に提供することについて、どう思いますか。(○は1つ)

避難行動要支援者避難支援制度については、34.8%の人が「必要な情報なので、積極的に提供してよい」、27.2%の人が「最小限の情報(名前、住所程度)ならかまわない」と回答しており、合わせると約6割は個人情報を提供してもかまわないと考えていることがわかる。

[図表IV-10-4: 避難行動要支援者避難支援制度に対する考え]



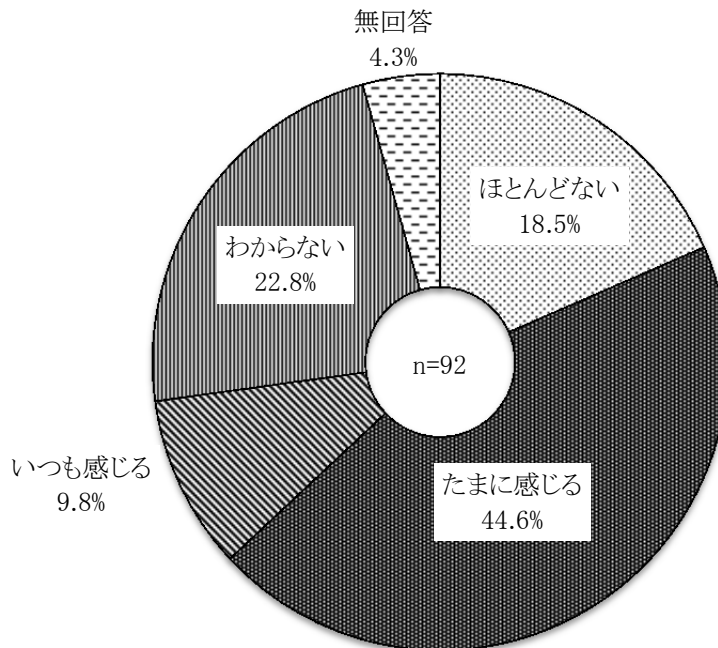
11 差別や人権侵害について

(1) 差別や人権侵害を受けた経験

問 41 障がいがあることで、差別や人権侵害を受けていると感じることはありますか。(○は1つ)

障がいがあることで差別や人権侵害を受けていると「いつも感じる」人は9.8%、「たまに感じる」人は44.6%で、合わせると5割超の人は差別や人権侵害を感じたことがあることがわかる。

[図表IV-11-1:差別や人権侵害を受けた経験]



(2) 差別や人権侵害の内容

問 42 具体的には、どのようなときに、差別や人権侵害を受けていると感じますか。(自由記入)

差別や人権侵害の具体的な内容については、次のような記入があった。

[言葉や視線]

- ・ 障がい者用の駐車場で止めるときなど、まわりからへんな目で見られているみたい。(47歳男性)
- ・ 他人の言動が気になる。(50代女性)
- ・ 変な目で見られる気がする。(38歳男性)

[就労・職場]

- ・ 仕事を探すのが大変。(41歳女性)
- ・ 今まで色々仕事をさがしてきたが、精神障がい者というだけですべて断われた。(61歳男性)

- ・ 就職しようと思っても、障がい者であること理由に受けいれてくれない。（体面上は、求めている人材と違うという理由でことわられる。）（54 歳男性）
- ・ 手帳の色で対応が違ったことがある。特に就労関係。（41 歳女性）
- ・ 賃金が最低賃金であること。（45 歳男性）

[外出時や交通機関]

- ・ 駅などで差別的な発言をされることがたまにある。（38 歳男性）
- ・ あいさつをしてもかえしてくれない。（55 歳男性）

[医療機関]

- ・ 病院の先生や事務職員とかの対応や言葉。
- ・ 病院内で受付の人の態度が違う。（33 歳男性）
- ・ 医療機関、行政機関で特に感じる。（女性）

[交流の機会]

- ・ 友人、知人と話しているとき。（21 歳男性）

[障がいに対する理解不足や誤解]

- ・ ひま人、なまけている、根性、努力が足りない、と思われている気がする。（46 歳女性）

[その他]

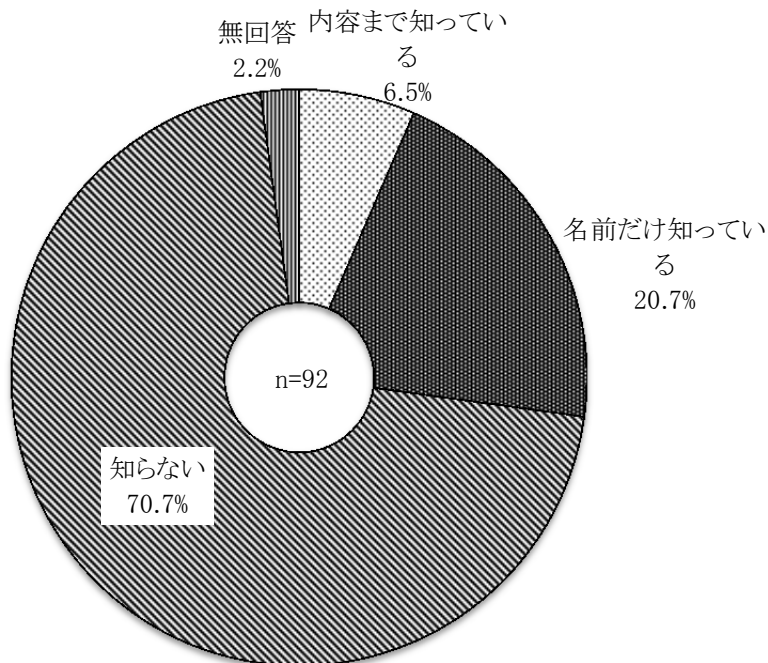
- ・ 家族から「障がいがあることを前面に出すな」と言われたとき。（29 歳女性）
- ・ 精神障がい者は常にバカにされているように感じる。（48 歳女性）
- ・ 差別は障がい者の中でもある。精神は身体と知的の2つに比べ乗物の割引がない。（41 歳男性）
- ・ あ的那个人だから〇〇する、という文をネットで見るとき。（22 歳男性）

(3) 障害者差別解消法の認知状況

問 43 障がいのある方々への差別をなくすことを目的として、今年(2016年)の4月1日に「障害者差別解消法」が施行されましたが、このことを知っていますか。(○は1つ)

障害者差別解消法を「内容まで知っている」人は 6.5%、「名前だけ知っている」人は 20.7% となっており、約7割は「知らない」(70.7%) 状況である。

[図表Ⅳ-11-2: 障害者差別解消法の認知状況]

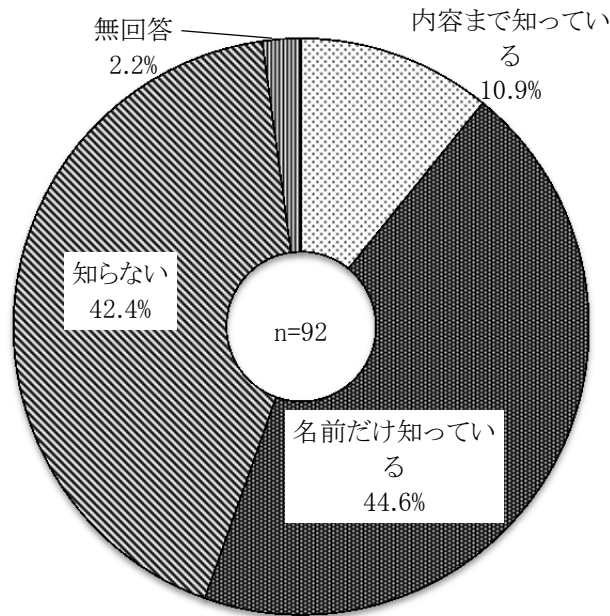


(4) 成年後見制度の認知状況

問 44 成年後見制度とは、知的障がいや精神障がいなどの理由により、判断能力が十分でない方の財産などの権利を守る制度です。あなたは、成年後見制度について知っていますか。(○は1つ)

成年後見制度を「内容まで知っている」人は10.9%、「名前だけ知っている」人は44.6%である。

[図表IV-11-3: 成年後見制度の認知状況]

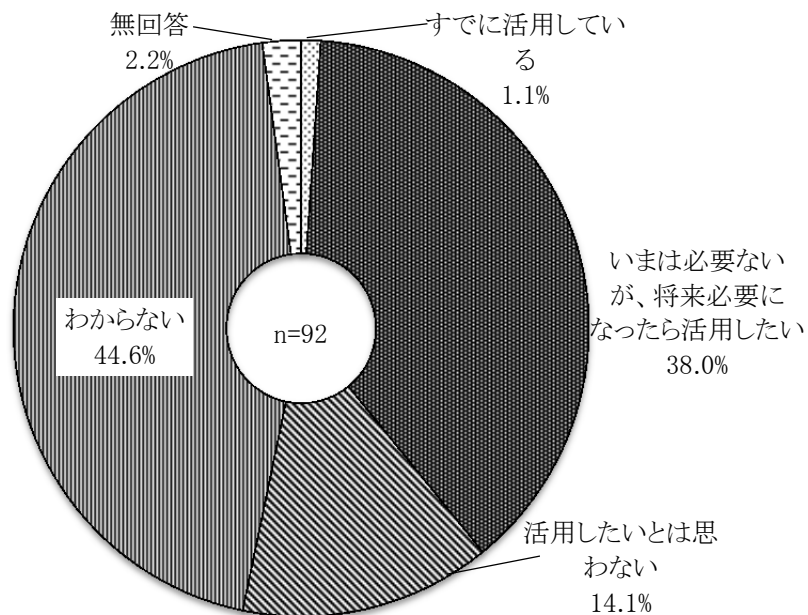


(5) 成年後見制度の活用意向

問 45 あなたは、成年後見制度を活用したいと思いますか。(○は1つ)

成年後見制度については、38.0%が「いまは必要ないが、将来必要になったら活用したい」と回答しており、「活用したいとは思わない」と回答した人は14.1%となっている。

[図表-11-4: 成年後見制度の活用意向]



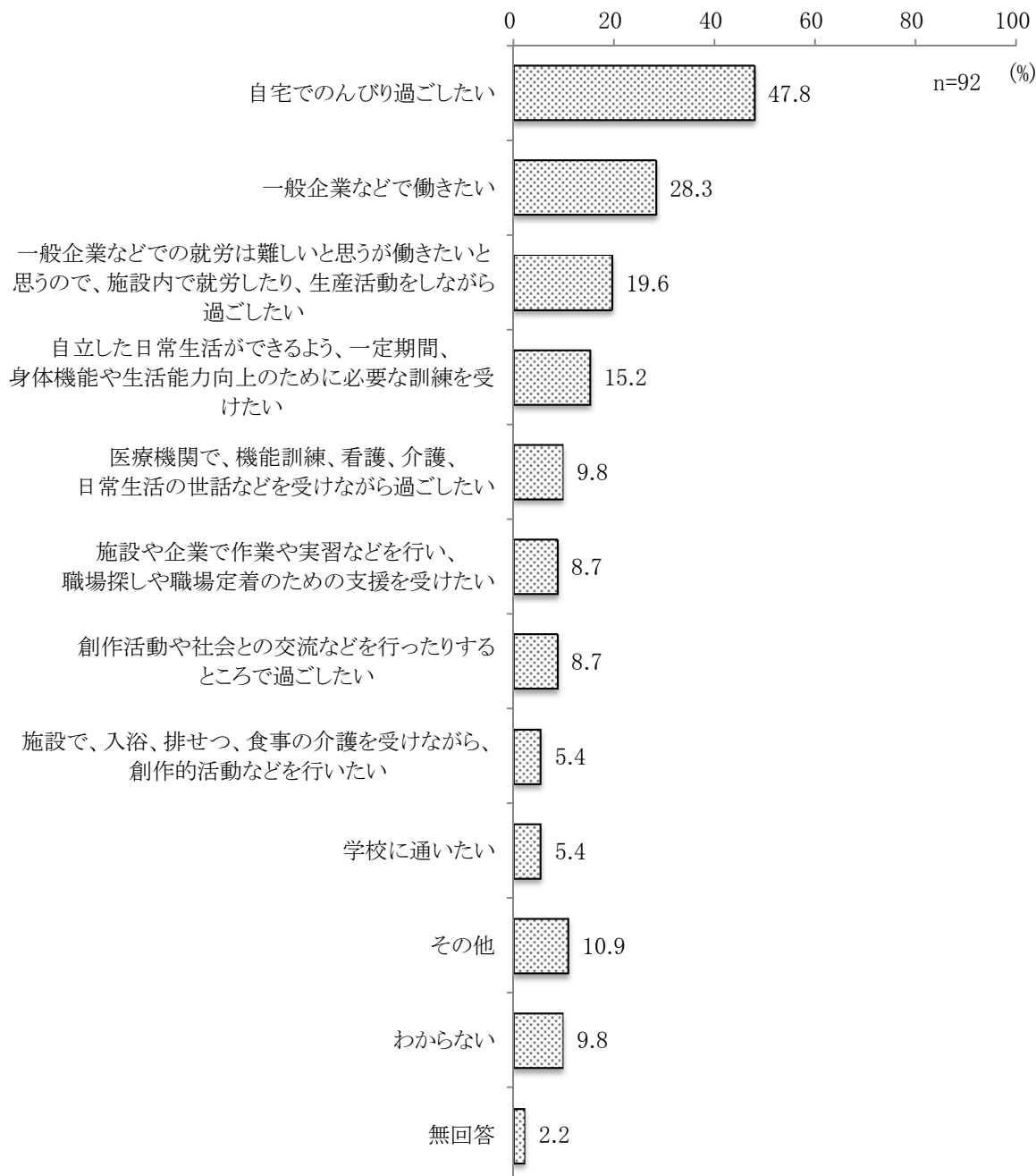
12 将来の希望等について

(1) 今後、希望する日中の過ごし方

問 46 今後、どのように日中を過ごしたいと思いますか。(〇はいくつでも)

今後、希望する日中の過ごし方としては、「自宅でのんびり過ごしたい」と回答した人が 47.8% と最も多く、次いで「一般企業などで働きたい」が 28.3%で続いている。

[図表IV-12-1: 今後、希望する日中の過ごし方]

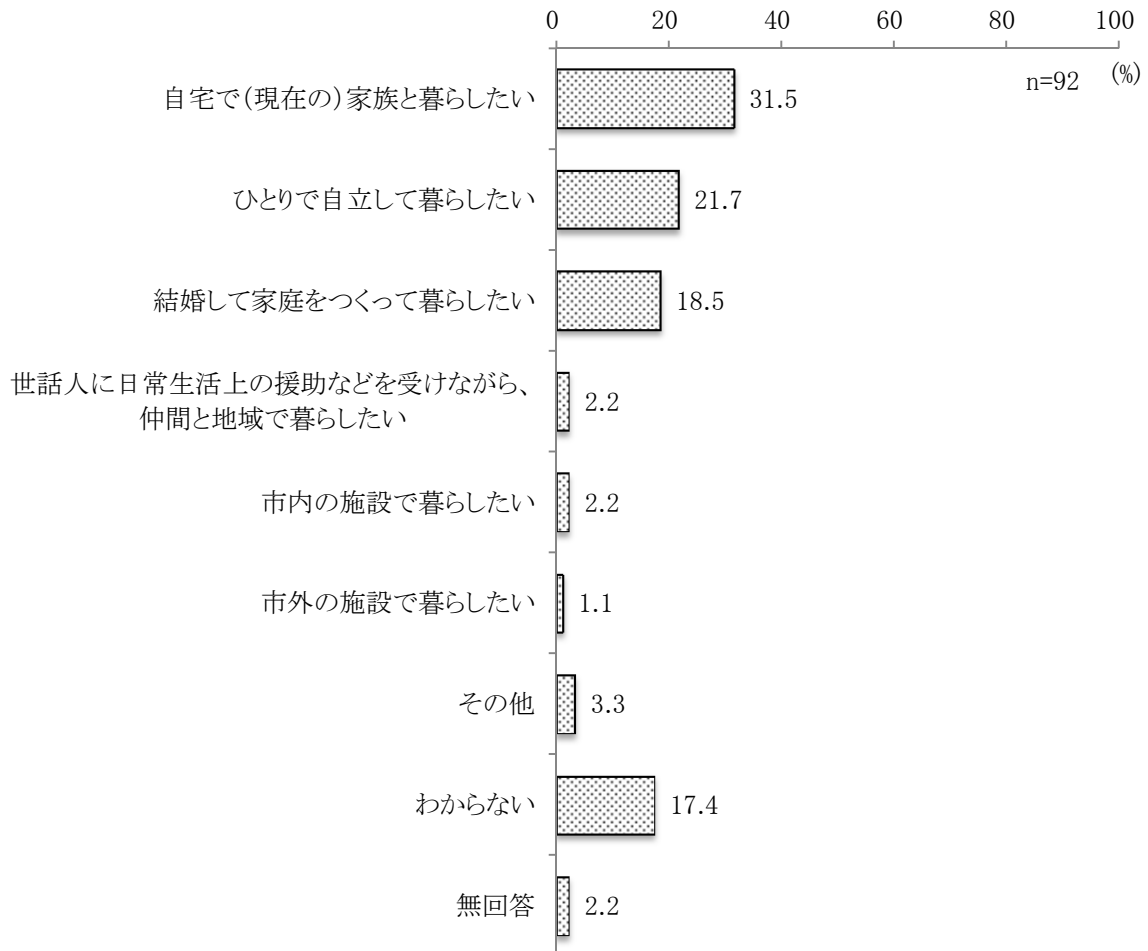


(2) 近い将来、希望する暮らし方

問 47 あなたは、近い将来（おおむね5～10年後）どのように暮らしたいと思いますか。（○は1つ）

近い将来（おおむね5～10年後）希望する暮らし方としては、31.5%の人が「自宅で（現在の）家族と暮らしたい」、21.7%の人が「ひとりで自立して暮らしたい」と回答している。

[図表IV-12-2:近い将来、希望する暮らし方]



(3) 意見・要望

最後に、この調査を通じて、選択肢や自由記入欄だけでは表現しきれなかったことや、ご意見・ご要望などがありましたら、ご自由にお書きください。(自由記入)

調査の終わりにあたり、意見・要望等についての自由記入欄を設けたところ、以下のような記入があった。

[相談に関すること]

- ・ 市の窓口で、困ったことを相談できる体制をつくってほしい。(45歳女性)
- ・ 誰か家にきて一ヶ月に一度一時間でもいいから話し相手になってほしい。(43歳女性)
- ・ カウンセリングルームや傾聴ボランティアなどを施設に併設して欲しい。家族や友人、身近な人に話せないことがある。(41歳女性)
- ・ 自分担当のケースワーカーさんがいたらいいなと思います。(46歳女性)

[各種サービスに関すること]

- ・ 障がいに応じた級の福祉サービスを増やしてほしい。同じ手帳で同じ級でも人によって違うのだから。(52歳男性)

[生活の場などに関すること]

- ・ 障がい者では収入が少なく、URなど一人で安心して入居できる場所が少ない。障がいを持っている人でも、安心して独立した生活が送れるような制度がほしい。(37歳女性)
- ・ トイレ、風呂付きの個人部屋のグループホーム(しかも親から近い場所)で暮らせたら親が死亡しても一人で暮らせると思う。(46歳男性)

[経済的なこと]

- ・ 介護施設に入所していたが毎月の費用が高すぎると思う。働いておらず収入のない身に毎月20万以上の支払いは高すぎる。(68歳男性)

[就労に関すること]

- ・ 短時間で、同じ病気の人のみで、ある程度の収入を得たい。(38歳男性)
- ・ 多くの企業が法定雇用率だけを見ていて、雇用した後のことをほとんど考えていない。(45歳男性)
- ・ デイケアに通って、作業所に通って、もう一度働きたいです。でもそれができなかつたらグループホームでやっていきたいです。(48歳女性)

[障がいに対する理解や権利擁護に関すること]

- ・ 障がい者にも理解のある街になって欲しい。私たちは障がい者である前にまず人間なのです。

[将来の不安などに関すること]

- ・ 将来の不安がとても大きい。(33歳男性)

- ・ 両親も 70 才を超え、将来 1 人になったとき、兄弟もいないし、身内も遠いし、お金もないし、食事も作れないし、不安がたくさんあるので、どうしていいかわかりません。(41 歳男性)
- ・ 両親が生存している間はなんとかなるが、父母も高齢なため、いつまで現在の生活が維持できるか不安でならない。(38 歳男性)

[交流の機会に関すること]

- ・ 北本でも、精神障がい者（発達障がい者）向けの昼間に過ごす場所を多く作ってほしい。同じ障がいを持った人と交流する場所があれば嬉しい。(29 歳女性)
- ・ 自宅で、一人でだれともかかわらずに常に一人で過したいです。他人とかかわりたくありません。(38 歳男性)

[その他]

- ・ 13 年間病気を患っていてずっと辛かった。今でも辛いことがある。だが、様々な人に支えられて、少しずつ前に進んできた。これからも前に進んで行きたい。(34 歳女性)
- ・ 市職員の方のアドバイスやご指導には感謝いたしております。(58 歳女性)
- ・ 親や兄弟もいない人も多いと思います。もっと広く考えて頂きたいです。(45 歳男性)

1 基本的な属性

(1) 対象者からみた続柄

問1 本人(あて名の方)からみて、あなた(介助・援助をしている方)はどのような続柄ですか。(○は1つ)

回答があった家族(介助・援助者)について、対象者から続柄をみると、身体障がい者の家族では「妻」が36.3%と最も多く、知的障がい者の家族では「母」が79.3%と最も多く、精神障がい者の家族では「母」が35.7%と最も多い。

[図表V-1-1:対象者からみた続柄]

	母	父	妻	夫	子ども	祖母・祖父	兄弟・姉妹	その他
身体障がい者の家族 n=331	7.6%	2.7%	36.3%	21.5%	23.9%	0.3%	3.9%	3.9%
知的障がい者の家族 n=92	79.3%	10.9%	2.2%	—	—	—	6.5%	1.1%
精神障がい者の家族 n=56	35.7%	19.6%	10.7%	14.3%	5.4%	1.8%	10.7%	1.8%

(2) 家族(介助・援助者)の性別・年齢

問2 あなた(介助・援助をしている方)の性別・年齢をお答えください。

回答があった家族(介助・援助者)の性別をみると、身体障がい者の家族は「女性」が65.1%、知的障がい者の家族は「女性」が85.2%、精神障がい者の家族は「女性」が55.6%である。

[図表V-1-2:家族(介助・援助者)の性別]

	女性	男性
身体障がい者の家族 n=321	65.1%	34.9%
知的障がい者の家族 n=88	85.2%	14.8%
精神障がい者の家族 n=54	55.6%	44.4%

平均年齢は、身体障がい者の家族は65.4歳、知的障がい者の家族は57.1歳、精神障がい者の家族は66.0歳である。

[図表V-1-3:家族(介助・援助者)の年齢]

	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上	平均値
身体障がい者の家族 n=285	0.7%	2.1%	8.1%	21.4%	27.0%	27.4%	13.3%	65.4歳
知的障がい者の家族 n=72	—	5.6%	29.2%	15.3%	36.1%	13.9%	—	57.1歳
精神障がい者の家族 n=53	1.9%	3.8%	9.4%	9.4%	30.2%	32.1%	13.2%	66.0歳

(3) 家族（介助・援助者）の健康状態

問3 あなた(介助・援助をしている方)の健康状態はいかがですか。(○は1つ)

回答があった家族（介助・援助者）の健康状態をみると、身体障がい者の家族の25.7%、知的障がい者の家族の24.7%、精神障がい者の家族の33.9%は、「体調が悪く、医者にかかっている」状況である。

[図表V-1-4:家族(介助・援助者)の健康状態]

	健康(特に悪いところはない)	まあまあ健康	医者にかかる程でもないが体調はよくない	体調が悪く、医者にかかっている	その他
身体障がい者の家族 n=335	23.6%	38.8%	8.7%	25.7%	3.3%
知的障がい者の家族 n=93	12.9%	45.2%	9.7%	24.7%	7.5%
精神障がい者の家族 n=56	12.5%	33.9%	8.9%	33.9%	10.7%

2 介助・援助の状況

(1) 介助・援助に際しての悩みや心配事

問4 ふだんから介助・援助をしていて、どのような悩みや心配事がありますか。(○はいくつでも)

介助・援助をしているの悩みや心配事としては、身体障がい者・知的障がい者・精神障がい者の家族いずれにおいても、「自分が高齢で介助・援助できなくなった時のことなど、将来が不安である」が最も多くあげられている。

なお、2番目に多くあげられているのは、身体障がい者の家族では「身体的な負担が大きい」(23.1%)、知的障がい者の家族では「目を離せないことが多く、精神的に疲れる」(37.4%)、精神障がい者の家族では「経済的な負担が大きい」(43.9%)である。

[図表 V-2-1: 介助・援助に際しての悩みや心配事]

		自分が高齢で介助・援助できなくなった時のことなど、将来が不安である	身体的な負担が大きい	自分の時間がもてない	経済的な負担が大きい
身体障がい者の家族	n=324	47.2%	23.1%	21.0%	21.0%
知的障がい者の家族	n=91	71.4%	22.0%	23.1%	13.2%
精神障がい者の家族	n=57	64.9%	31.6%	17.5%	43.9%
		病気や用事などで急に介助・援助できなくなったとき、助けてくれる人がいない	睡眠不足になりがちで疲労がとれない	目を離せないことが多く、精神的に疲れる	介護を手伝ってくれる人がいない
身体障がい者の家族	n=324	19.4%	14.8%	14.5%	13.0%
知的障がい者の家族	n=91	35.2%	23.1%	37.4%	14.3%
精神障がい者の家族	n=57	36.8%	15.8%	22.8%	17.5%
		本人にとってどのような介助・援助やサービスがよいかわからない	近所づきあいや地域活動などができない	仕事をしたいが介助・援助のためにできない	家事や他の家族の世話が十分にできない
身体障がい者の家族	n=324	10.5%	9.3%	7.7%	7.4%
知的障がい者の家族	n=91	27.5%	14.3%	17.6%	15.4%
精神障がい者の家族	n=57	19.3%	7.0%	5.3%	3.5%
		使える法定サービスが少ない	介助・援助の方法がわからない、情報が得られない	その他	とくに悩みや心配事はない
身体障がい者の家族	n=324	7.1%	4.6%	11.7%	22.8%
知的障がい者の家族	n=91	12.1%	6.6%	14.3%	7.7%
精神障がい者の家族	n=57	19.3%	10.5%	12.3%	5.3%

3 将来の生活について

(1) 対象者の将来の生活についての考え

問5 あなた(介助・援助をしている方)は、本人(あて名の方)の将来の生活について、どのように考えていますか。
 なお、本人(あて名の方)が18歳以下の場合は、成人した以降の将来の生活について、あなたの考えをお聞かせください。(○は1つ)

対象者の将来の生活についての考えとしては、身体障がい者・知的障がい者・精神障がい者の家族いずれにおいても、「自宅で、家族を中心に介助・援助しながら生活させたい」と回答した人が最も多い。

なお、知的障がい者の家族では、「グループホームやケアホームで生活させたい」(22.2%)と「手厚いケアを受けられる施設等に入所させたい」(21.0%)と回答した人の割合が、身体障がい者や精神障がい者の家族に比べて高い。また、精神障がい者の家族では、「自宅以外でひとり暮らしをするなど、自立した生活をさせたい」と回答した人の割合が15.2%と、身体障がい者や知的障がい者の家族に比べて高くなっている。

[図表 V-3-1: 対象者の将来の生活についての考え]

	自宅で、家族を中心に介助・援助しながら生活させたい	自宅で、在宅サービスなどを使いながら生活させたい	自宅以外でひとり暮らしをするなど、自立した生活をさせたい	グループホームやケアホームで生活させたい	手厚いケアを受けられる施設等に入所させたい	その他
身体障がい者の家族 n=238	39.5%	27.3%	1.7%	8.4%	13.9%	9.2%
知的障がい者の家族 n=81	25.9%	9.9%	7.4%	22.2%	21.0%	13.6%
精神障がい者の家族 n=46	30.4%	23.9%	15.2%	10.9%	8.7%	10.9%

(2) 意見・要望

調査の終わりにあたり、意見・要望等についての自由記入欄を設けたところ、以下のような記入があった。
 ※ () 内は、調査対象者本人の性別・年齢

[身体障がい者の家族]

- ・ 公的援助に何があるのか。詳しいことがわからない。パンフレット等があれば良いのでは。(43 男性)
- ・ もっと情報をください。何が使えて、何が使えないのか全く伝わりません。(4 歳男性)
- ・ 手続き、案内等の煩雑さの解消に期待。(78 歳女性)
- ・ 種々の申告、提出書類、確定申告等が面倒。簡単にできないものか。(79 歳女性)
- ・ 障害者医療費の助成の申請手続きを簡素化してほしい。(78 歳女性)
- ・ 将来1人になってしまうこと(親なき後)を考えて30才位までには、親元を離れケアホーム(グループホーム)や短期入所をして少しずつ慣らせていきたい。(17 歳男性)
- ・ 北本には重度の障がい者を受け入れる日中介護施設や日中一時、又、グループホームが無く、この先、今と同じ充実した日々を送ることがはたしてできるのかとても不安です。(16 歳女性)
- ・ 今はまだ薬をのみながらも、まあまあ健康に過しておりますが、動く事ができなくなったとき受入施設が充分ではないのが不安です。安く入れる施設を希望致します。(78 歳男性)

<V 家族調査結果>

- ・ 施設（グループホーム、ケアホーム等）の種別、内容、料金等について説明、講習の機会を設定してほしい。（72 歳女性）
- ・ グループホームを必要としている本人、親を集め、すぐにでも、市として、話し合う場所をまず、作ってほしい。（45 歳女性）
- ・ 高齢者を対象とした施設は市内に多数ありますが、高齢に至るまでに利用できる施設の選択肢が無いのが残念です。（91 歳女性）
- ・ 施設等が金額的に高額すぎる。入所したくとも年金では無理。（78 歳男性）
- ・ ショートステイでは、リハビリ等（日常の運動）はほとんどなく運動機能が大幅落ちた。もう少し工夫していただきたいと思いました。（78 歳男性）
- ・ 北本市には障がい者の生活介護が社協しかありません。選べるように、市外にいかなくても行ける場所を作してほしい。（25 歳男性）
- ・ 補装具等日常生活の用具に経済負担がかかる。市独自の補助ができないものか。（96 歳女性）
- ・ デマンドバスを利用しようとしても予約がいっぱいで利用できないことがある。（86 歳男性）
- ・ 介護タクシーなど安い料金で利用できればと思う。（67 歳男性）
- ・ 福祉タクシー券を利用していますが、券の枚数の増加してほしい。（68 歳男性）
- ・ 福祉タクシー利用サービスと自動車燃料費助成事業は選択制になっていますが、補助額が同額ではありません。他市等は、同額の所が多いと思います。（16 歳男性）
- ・ 老後を生きがいの持てる、生活を送れるように環境作りを進めて欲しい。（87 歳女性）
- ・ 経済面が一番不安です。母子家庭で一人っ子なので収入がどうしても足りません。母も満足には働けないし私自身も奨学金の返済もあるので。（46 歳女性）
- ・ 災害時の避難場所（指定）が遠く、現実では避難ができない。地域の公民館や幼稚園等検討する施設はたくさんある。（82 歳女性）
- ・ 障がい者用駐車場に一般者のマナーが非常に悪く無断で停めています。（46 歳男性）
- ・ 本人が希望する生活ができるよう、行政サービスが充実するような市であってほしい。（82 歳女性）
- ・ 将来の生活については、「させたい」意識でなく、「できるようにしたい」と思います。（75 歳男性）
- ・ 将来の生活については本人の希望を尊重したい。（60 歳女性）
- ・ 安心して将来を過せるように、介護病棟で長期に渡って医療、介護していただけるようにしてほしい。（70 歳女性）
- ・ 福祉予算を削減しないで、ムダな支出を抑制して欲しい。（53 歳女性）
- ・ 現金給付をいくらもらってもこの生活は変わらない。社会からの手切れ金のように感じる。どうしたら、この北本市で障がいのある子も共に暮らせるのか、実践してほしい。（1 歳男性）
- ・ 北本に住み始めて 30 年以上になります。以前より色々と市のサービス・対応が良くなりました。（94 歳女性）

[知的障がい者の家族]

- ・ 福祉サービス等の情報が提供されるようなメールマガジンといったものがあると助かる。（8 歳男性）

- ・ 相談支援専門員が北本市にいませんので置いてほしい。遠方まで出掛けていかなければなりません。(46歳女性)
- ・ 相談支援専門員の概念がよくわかりにくい。(28歳男性)
- ・ 「わからないことや困ったことがあったときには、市へ相談に行ける」と思うと心強いです。(43歳女性)
- ・ 私たちは障がい者同士の夫婦です。何とか助け合っていますがどこにたよってよいかわからず心細いときがあります。定期的に訪問してくれて「何かこまっていることはありませんか」と尋ねてくれる人がほしいです。(39歳男性)
- ・ 北本にも作業所やグループホーム、入所施設がほしいです。(15歳男性)
- ・ 入所施設を作ってください。早急に施設を作って委託業者を募って下さい。(19歳男性)
- ・ グループホームや作業所をもっと増やして下さいとありがたいです。(18歳男性)
- ・ 北本市には、入所施設等がないが入所、グループホーム等をぜひともお願い致します。(31歳女性)
- ・ グループホームを立ち上げたとしても仲間うちでの経営は難しく、やはり施設があったらよいと思う。なんとか行政で建物をつくることはできないのでしょうか。(24歳男性)
- ・ 北本市に短期入所やグループホームを作してほしい。(39歳男性)
- ・ 市内には障がい者のグループホームがなく他の地域の情報も得られず、どうしたらよいのか悩んでおります。(24歳男性)
- ・ 高校卒業後の作業所や入所施設を増やしていただくと助かります。(9歳男性)
- ・ 入所・入居などの市立の施設がほしい。(46歳女性)
- ・ できれば、施設などには入れたくない。(32歳男性)
- ・ 施設、短期入所など、障がいの軽度の人から先に、入れて、障がいの重い人が取り残されてしまうので強く逆になる様に、改善して欲しいです。(35歳男性)
- ・ 生活介護の場がない。作ってほしいです。(25歳男性)
- ・ 子どもは重度の知的障がいがあり、将来が不安です。北本市の福祉事業所の生活介護の枠はもうすぐいっぱいになると聞いているので、自分の子どもが学校を卒業する時どうなるのか、心配しています。(12歳女性)
- ・ 児童の短期入所できるサービスがないので、介護をしている人や、身内に何かあった時に預かってもらえる所がないので不安です。(14歳男性)
- ・ 自宅で出来る仕事内職など能力に合う仕事を支援してほしい。(39歳男性)
- ・ 現在(6カ月位)仕事がない状態なので、早く、できる仕事が見つければよいと思います。(25歳男性)
- ・ 障がいのある子達が働ける場所をもっと作っていただくと安心です。(8歳男性)
- ・ これから、就労するところ(作業所)が少なくなると聞きました。充実させてほしい。支援学校に行っていますが、母の体調が悪く、学校に行けていません。家の中にわかってくれる人がいないのでつらいです。(13歳男性)
- ・ 仕事先をたくさん作ってほしいし、受け入れをしてくれる作業所、会社を増やしてほしいです。(12歳男性)
- ・ 作業所の販売する食品や弁当を、社協などのお祝い行事で取り扱ったりしてはどうか。(44歳女性)

<V 家族調査結果>

- ・ 障がい者の医療費の窓口無料化が北本市では、進んでいません。手続きが煩雑なのは、将来的にも心配です。(25歳女性)
- ・ 障がいの状況はC(軽度)なので、医療費の支援がなく障がい年金もないので本人が病気になった時は、経済的に負担が大きくなる。(20歳男性)
- ・ 重度心身障害者医療費請求書は6ヶ月～1年に1度の申請にできないか。毎月病院へ申請し、市役所へ届けるのは困難。(69歳男性)
- ・ 現在、受けている、手当などが、所得制限でほとんど受けていないに等しい状態。所得の金額ではなく、所得の内容、支出状況(住宅ローンの有無など)での判断も必要なのでは。(4歳男性)
- ・ 市の窓口に行って、装身具の修繕や更新を依頼したが、日数がかかりすぎる。何事も、依頼を受けたら、その場で所要日数を相手に伝えて、迅速に実行して欲しい。(31歳男性)
- ・ 病院に通えない者への自宅診療(健康診談など)をしてほしい。(39歳男性)
- ・ 保育園・幼稚園についてですが、障がい児を受け入れ可能としているところと、断固拒否のところ、受け入れ可能だけど、年によって異なる等があります。支援級や支援学校へのステップアップとして幼稚園、保育園を望む障がい児(と家族)の選択肢が少しでも広がるよう、行政からの支援を望んでおります。(5歳男性)
- ・ 障がいをもつ本人だけでなく家族の人も生き生きと社会参加ができることは、障がいをもつ本人にとっても良いことだと思います。(6歳男性)

[精神障がい者の家族]

- ・ 娘は統合失調症ですが、具体的にどういう支援が受けられるのか広報などで積極的に知らせたい。あまりにも情報が少ない。(34歳女性)
- ・ 障がい者本人が日常生活の困りごとを自由に話せる相談員を設置してください。
- ・ 相談対応をより充実させて下さい。(70歳男性)
- ・ 介護なしには生活ができない身にとって、(就労してない)毎月の経済負担が重すぎる。(68歳男性)
- ・ 障がい者が3人います。障がい者が複数いる家庭向けのケアを考えていただきたい。(55歳女性)
- ・ もっともっと、障がいの程度に関係なく、やさしい社会になって欲しいです。苦しい、ツライです。一人で、かかえるしかない母親は、たくさんいると思います。(13歳女性)
- ・ 自分も妻もかなり年をとっている。いつまでも面倒を見ることができない。そのときが来たらどうすればいいのか不安である。(38歳男性)
- ・ 本人が社会にとけ込んでいけるよう、見守ってもらえる環境をつくっていただきたい。そして本人が仕事に向かい自立することを願っています。(39歳男性)
- ・ 自立支援を切に願う。(41歳女性)
- ・ 社会生活が苦手なので将来が不安です。(50歳男性)
- ・ 我が子は知的障がい軽度の発達障がいです。なかなかまわりから理解をしてもらうのはとても難しいです。(15歳男性)
- ・ 精神病患者とのことで病院の受入れを拒否されました。(70歳女性)

1 団体の活動について

(1) 活動内容

問1 貴団体の活動内容を教えてください。(活動目的、会員数、活動内容など)

回答があった5団体の活動目的や活動内容については、具体的に次のような記入があった。

- ・ 活動目的は、家族同士の親睦、情報交換、家族にしかわかり合えない悩みを語り、聞き、共感する場所づくり。活動内容は、月1回のおしゃべり会、定例会年1回、食事会、ひだまりショップお手伝い、イベント、自立支援精神部会、障害者団体連絡協議会。
- ・ 活動目的は、精神障がい者が地域の中で社会人として豊かな人生を送ることが出来るよう、社会資源の充実、社会参加の促進、地域福祉の増進に寄与すること。活動内容は、地域活動支援センターかばざくらの運営、かがやきの郷交流サロンの運営。
- ・ 活動目的は、聴覚障がい者相互の協力、上部団体の一般社団法人埼玉県聴覚障害者協会・北本手話サークルの連携により、福祉の増進や生活向上を図ることにより、社会福祉の充実と発展に寄与すること。活動内容は、①聴覚障がい者の権利を守り、生活水準を高めるなど、福祉向上を図る活動。②聴覚障がい者相互の親睦を深めるとともに、健聴者との交流を図る活動。③一般社会の聴覚障がい者に対する理解を啓発するとともに、手話の普及を図る活動。④手話通訳者の養成と手話サークルと連携しての活動。
- ・ 活動目的は、会員の相互の楽しみと皆が好きなカラオケ、バスハイク、食事会と親睦。
- ・ 活動目的は、神経難病に疾患した者とその家族、遺族が交流し、病気に関する情報交換を行い、また専門医の指導を受け、日常生活が快適に営むことができること。活動内容は、患者相互が闘病に関する情報の交換、埼玉県パーキンソン病友の会、関係行政機関との連携。

(2) 活動に際して困っていること

問2 現在、活動を行っていて、何か困っていることはありますか。

活動を行っていて困っていることについては、具体的に次のような記入があった。

- ・ 会員の高齢化、親自身の病気。親亡き後、当事者が福祉と切れることなく、つながっていけるように願ってやみません。
- ・ 施設の老朽化。トイレが1つしかない。場所が駅から遠いので不便。
- ・ ①会員がふえないこと。②活動する上で、財政面で苦しい。③若い会員が少なく、後継者を育てるのがむずかしい。
- ・ 月1回の定例会を鴻巣保健所で開催しています。その際、患者自身で車を運転してくる人、家族や知人に送迎してもらっている人、公共交通機関を利用している人、様々ですが、他市では歩行が困難な会員には会場まで送迎をしてくれるところがあるそうです。せめて、一人でも二人でも送迎をしてくれたら、大変ありがたいのですが。

(3) 活動に関して行政に期待する支援

問7 活動に関して、行政（北本市等）にどのような支援を期待していますか。

活動に関して行政に期待する支援としては、具体的に次のような記入があった。

- ・ スタッフの研修、補強等の相談にのってほしい。
- ・ 施設の移転、設備の問題について相談にのってほしい。
- ・ ①聴覚障害者協会の団体のPRを広報紙その他の方法で、市民や行政・民間企業にも周知してほしい。②活動をおこなう上で必要なため、市からの補助金・助成金を交付してほしい。③聴覚障がい者は、普段でも情報の入手量が少ないが、災害等の場合はさらに情報がつかめないし、混乱するのは目に見えている。災害等の時は、聴覚障がい者へ配慮した支援（避難所への手話通訳等の派遣、安否確認、支援に必要な情報・備品の提供など）をおこない、聴覚障がいがあっても安心安全に生活できるようにしてほしい。
- ・ 他市では、ナースが自宅を訪問して様子を見て回っているケースもある。コミュニティーナースはナースの集まりで団体を作り、ドクターも参加している。行政で協力してよいのではないか。
- ・ 歩行が不自由なメンバーも多く、市内循環バスを利用するにあたり、わかりやすい停留所の場所、発着の時間の説明（パンフレット、大きな字で）をしてもらいたい。
- ・ メンバーの年齢も50歳以上が大半ですので、パーキンソン病以外、他の病気も併発しているケースも大半です。ほかの病気の援助も考えてもらいたい。

(4) 活動に関して行政以外に期待する支援

問8 活動に関して、行政以外（市民や地域）にどのような支援を期待していますか。

活動に関して行政以外に期待する支援としては、具体的に次のような記入があった。

- ・ 精神障がいについて理解してほしい。
- ・ 地域の人やみんな福祉に関心を持ってもらいたい。
- ・ 定例会イベント時、ボランティアとしてメンバーのお世話などをしてほしい。
- ・ 精神の病は症状が一人一人異なり、外見からは理解しづらい所もあります。近所の人に当事者から「おはようございます」と声がけしても、無視されるケースもあります。
- ・ ①市民のみなさん（民間企業等も含めて）、みなが手話を覚えて使ってほしい。初めは日常生活程度の簡単なものでかまわない。②聴覚障害者団体の活動に対し、理解を深め、必要な場合、協力してほしい。

2 各種サービス利用について

(1) サービス利用について不都合や不便を感じること

問3 行政窓口や公共施設等におけるサービス利用に関して、不都合やご不便（社会的障壁）を感じたことがあればお書きください。

行政窓口や公共施設等におけるサービス利用に関する不都合な点等については、具体的に次のような記入があった。

- ・ それぞれの障がいによって社会資源の格差がある。（交通費、医療費、公共施設等の利用料など）
- ・ ①市役所の窓口職員が手話をできないため、コミュニケーションがうまくいかなくて困る。②市役所の市民課には電光掲示（番号表示）はあるが、他の課にはなくて不便である。通訳なしで行った場合、呼び出しが音声のみなので困る。③総合福祉センターは、会議や話し合い、例会などのために利用することが多いが、無料なので助かる。他の施設（公民館、勤労福祉センターなど）は有料で困る。
- ・ 北本市役所はバリアフリーが実現できていると思いますか。
- ・ 新制度導入により、薬代等の補助金に変動がありました。新制度の手続きは煩雑なので、身体が不自由な患者さんへ自宅まで説明に来て下さるサービスはできないのでしょうか。

3 社会生活について

(1) 日常生活を営むにあたり不都合や不便を感じること

問4 日頃、日常生活（社会生活）を営むにあたり、不都合やご不便（社会的障壁）を感じたことがあればお書きください。

日常生活を営む上での不都合な点等については、具体的に次のような記入があった。

- ・ 精神障がい者が急病になり、救急車を要請することがあった。しかし、精神疾患のため、受け入れてくれる病院がなかなか見つからないことがある。このような場合、命にかかわる一大事だとしたら、間に合わなくなるのではないか。
- ・ 行政無線は聴覚障がい者には聞こえなくて、大切な情報が得られない。たとえば、火事・災害（地震等）はもちろんだが、防犯や春から夏にかけての光化学スモッグ情報（注意報、警報）など、健康や生命に関わる大事な情報もある。
- ・ まだ市内の病院のバリアフリー化が少ない。
- ・ 道路の段差が激しい。
- ・ 電車での優先席を見直してもらいたい。健常者が平気で座っている。（外見ではわからない病気を患っている人もいると思いますが。）

(2) 社会的障壁を除去するために期待する配慮

問5 これらの社会的障壁を除去するためにはどのような配慮を期待していますか。

社会的障壁を除去するために期待する配慮としては、具体的に次のような記入があった。

- ・ 行政と医療のチームワーク、ネット作りに期待します。
- ・ 障がい者間格差をなくする。（法的）
- ・ ①市役所の窓口職員はもちろん、すべての職員が日常会話くらいの手話を覚えて、使えるようになってほしい。②市庁舎内の呼び出しなど、音声情報を視覚化できるもの（見てわかる表示）に変える。電光掲示板・呼び出し振動器等の設置。③行政無線の代わりとして、F a xやメールにより大切な情報を聴覚障がい者（宅）に知らせてほしい。
- ・ 現在、妊婦であるというバッジを付けている人を見かけますが、それと同じ様なものを病気で身体がつかないため、座らせてもらいたいとのバッジを作成したらどうでしょうか。

(3) 障害者差別解消法に対する考え

問6 平成28年4月に「障害者差別解消法」が施行されました。このことを受けて、どのように感じましたか。また、今後どうあってほしいと思いますか。

「障害者差別解消法」の施行等に関して感じていることとしては、具体的に次のような記入があった。

- ・ 精神障がいの事を簡単にカミングアウトできるような社会になってほしい。
- ・ 障害者差別解消法により、障がい者にとって困ることが減ることを期待している。できれば、困ることもまったくなくなって、安心して生活できるようになると良い。
- ・ 差別法の内容について、行政職員はもちろん、民間企業にも周知徹底し、また一般市民、障がい者に対するの説明会を開催して理解を広めてほしい。
- ・ 差別解消法にもとづき設置される障害者差別解消支援地域協議会に障がい当事者たる聴覚障がい者を委員にすることを求める。
- ・ 大変意義のある法律だと思います。積極的な啓蒙の必要性を強く感じます。

4 計画への要望等

(1) 活動の参加者・利用者から聞かれる不満や要望

問9 活動の参加者・利用者からは、どのような不満や要望が聞かれますか。(貴団体への要望等だけでなく、障がい者施策全般に係る不満・要望でもけっこうです。)

活動の参加者・利用者から聞かれる不満や要望としては、具体的に次のような記入があった。

- ・ 家族会の会員さんから、家族支援を要望する声が多くあります。24時間当事者と向き合い、狭い家で過ごすことがあります。家族もヘトヘトになるそんな時、家族の休息できる場所が無料で提供して頂けたらたいへんうれしく思います。
- ・ サロンの運営はボランティアグループが運営しているが、ボランティアの研修、学習を企画してほしい。
- ・ 「地域活動支援センターかばざくら」が遠い。トイレが少ないなど、設備的に充実していない。サロン(教育センター)のトイレが使いづらい。
- ・ ①障害者手帳3級以下のものは、ガソリン補助・福祉タクシーを使えなくて困る。②難聴者や中途失聴者で、手話を知らないため、これから覚えたいが、社協主催の講習会では聞こえないためついていくのが無理。埼玉県で難聴者・中途失聴者向けの講習会をやっているが、北本市で開いてほしい。
- ・ 会員の人がよく話すのは、年を取って動けなくなっても施設に入れない。役所に相談に行くと支援センターに相談に行けと言われる。
- ・ 外出するのが大変。身体上、つらい事が多いが医師があまり話を聞いてくれない。病気が進行してきて、身体が思う様に動かない。気分が落ち込み何もする気もない。

(2) 計画に盛り込んでほしい事項

問10 現在、策定を進めている「第三次北本市障害者福祉計画」に盛り込んでほしい事項はどのようなことですか。

「第三次北本市障害者福祉計画」に盛り込んでほしい事項としては、具体的に次のような記入があった。

- ・ 3障がい者間の社会資源の格差をなくしてほしい。
- ・ 障がいについての啓蒙活動を盛り込んでほしい。
- ・ ①北本市手話言語条例の制定。②行政職員、民間企業、一般市民。学校教育等での手話の習得のための施策を進めてほしい。③手話がわからない難聴者、中途失聴者のために必要な要約筆記者の育成のための講習会を市主催で開催、また市独自で要約筆記者の派遣事業をおこなう。④聴覚障がい者の生命を守るため、災害時の配慮を充分におこなう。

(3) 行政への提案や要望

問 11 その他、行政への提案や要望などがございましたら、ご自由にお書きください。

調査の終わりにあたり、意見・要望等についての自由記入欄を設けたところ、以下のような記入があった。

- ・ かばざくらは長くアクセスの悪い場所で、ボランティアさんや地域の人々に支えられながら運営してまいりました。建物も老朽化し男女別々のトイレもなく、大変不便な中で運営されています。補助金も 10 年変わらず、経営的にも苦しい中でさまざまな人々のご協力を得、今日にいたっています。行政のご協力で駅周辺に格安な不動産物件や障がい者にご理解のある人の情報など有りましたらお聞かせください。
- ・ 障がい福祉課の職員はみな忙しそうなので、人員を増やしてほしい。
- ・ 「精神障がい者の明るい未来のために」フォーラムに予算をつけてください。
- ・ ①市へ聴覚障害者協会として要望書を提出したが文書回答が遅くて困る。②要望書に対する回答は良いものが少ない。私達にとっては切実で必要なものなので、ぜひ予算化できるようにしてほしい。③市職員は、聴覚障がいや聴覚障がい者に対する理解を深めるため、手話研修を含め、必要な研修をすべての職員が受講してほしい。④市との交渉（話し合い）の時に、市長にも出席してほしい。

1 事業内容について

(1) 運営主体

問1 貴事業所の運営主体は、次のうちどれですか。(○は1つ)

事業所の運営主体は、14 事業所中、「NPO法人」が6 事業所 (42.9%)、「株式会社」が3 事業所 (21.4%)、「社会福祉法人」が2 事業所 (14.3%) である。なお、「その他」としては、具体的に、「合同会社」、「生活協同組合」との記入があった。

[図表Ⅶ-1-1:運営主体]

	社会福祉法人	株式会社	NPO法人	その他
n=14	14.3%	21.4%	42.9%	21.4%

(2) 実施しているサービス

問2 次のサービスのうち、現在、実施しているサービスはどれですか。

実施しているサービスは、14 事業所中、「居宅介護」が5 事業所 (35.7%)、「重度訪問介護」が4 事業所 (28.6%)、「同行援護」と「生活介護」がそれぞれ3 事業所 (21.4%) などとなっている。

[図表Ⅶ-1-2:実施しているサービス]

	居宅介護	重度訪問介護	同行援護	行動援護	共同生活援助	生活介護	就労移行支援	障がい者支援施設	相談支援
n=14	35.7%	28.6%	21.4%	7.1%	7.1%	21.4%	14.3%	7.1%	7.1%

(3) 実施を検討しているサービス

問3 また、現在は実施していないが、将来的に実施することを検討しているサービスがあればお答えください。(あてはまるものに○)

将来的に実施することを検討しているサービスは、14 事業所中、「相談支援」が5 事業所 (35.7%) と最も多く、次いで「就労継続支援A型・B型」が4 事業所 (28.6%)、「生活介護」が2 事業所 (14.3%)、「短期入所」と「共同生活援助」がそれぞれ1 事業所 (それぞれ7.1%) となっている。

[図表Ⅶ-1-3:実施を検討しているサービス]

	短期入所	共同生活援助	生活介護	就労継続支援A型・B型	相談支援	その他	特に検討しているサービスはない	無回答
n=14	7.1%	7.1%	14.3%	28.6%	35.7%	7.1%	28.6%	28.6%

(4) サービスの提供実績

問4 現在の何人くらいの方にサービスを提供していますか。そのうち北本市民は、およそ何人くらいですか。また、対応している障がいは次のうちどれですか。

サービスの提供実績は、以下のとおりである。

[図表Ⅶ-1-4: サービスの提供実績]

居宅介護

		利用者数				
		0人	1~10人	11人以上	無回答	平均
n=5		20.0%	60.0%	20.0%	—	4.6人

		うち北本市民				
		0人	1~10人	11人以上	無回答	平均
		20.0%	60.0%	20.0%	—	4.2人

		対応している障がい種別				
		身体	知的	精神	児童	無回答
n=5		60.0%	60.0%	60.0%	20.0%	20.0%

重度訪問介護

		利用者数				
		0人	1~10人	11人以上	無回答	平均
n=4		25.0%	50.0%	—	25.0%	1.0人

		うち北本市民				
		0人	1~10人	11人以上	無回答	平均
		25.0%	50.0%	—	25.0%	0.7人

		対応している障がい種別				
		身体	知的	精神	児童	無回答
n=4		25.0%	—	—	—	75.0%

同行援護

		利用者数				
		0人	1~10人	11人以上	無回答	平均
n=3		—	100.0%	—	—	1.0人

		うち北本市民				
		0人	1~10人	11人以上	無回答	平均
		—	66.7%	—	33.3%	1.0人

		対応している障がい種別				
		身体	知的	精神	児童	無回答
n=3		66.7%	33.3%	—	—	33.3%

行動援護

		利用者数				
		0人	1~10人	11人以上	無回答	平均
n=1		—	100.0%	—	—	10.0人

		うち北本市民				
		0人	1~10人	11人以上	無回答	平均
		—	100.0%	—	—	7.0人

		対応している障がい種別				
		身体	知的	精神	児童	無回答
n=1		—	100.0%	—	100.0%	—

共同生活援助

		利用者数				
		0人	1~10人	11人以上	無回答	平均
n=1		—	100.0%	—	—	7.0人

		うち北本市民				
		0人	1~10人	11人以上	無回答	平均
		—	100.0%	—	—	7.0人

		対応している障がい種別				
		身体	知的	精神	児童	無回答
n=1		—	100.0%	—	—	—

<Ⅶ サービス事業者調査結果>

生活介護

		利用者数				
		0人	1~10人	11人以上	無回答	平均
n=3		—	—	100.0%	—	29.7人

→

		うち北本市民				
		0人	1~10人	11人以上	無回答	平均
		—	—	100.0%	—	27.3人

		対応している障がい種別				
		身体	知的	精神	児童	無回答
n=3		66.7%	66.7%	—	—	

就労移行支援

		利用者数				
		0人	1~10人	11人以上	無回答	平均
n=2		—	—	50.0%	50.0%	29.0人

→

		うち北本市民				
		0人	1~10人	11人以上	無回答	平均
		—	50.0%	—	50.0%	10.0人

		対応している障がい種別				
		身体	知的	精神	児童	無回答
n=2		50.0%	50.0%	50.0%	—	50.0%

障がい者支援施設

		利用者数				
		0人	1~10人	11人以上	無回答	平均
n=1		—	—	100.0%	—	11.6人

→

		うち北本市民				
		0人	1~10人	11人以上	無回答	平均
		—	100.0%	—	—	10.0人

		対応している障がい種別				
		身体	知的	精神	児童	無回答
n=1		—	—	100.0%	—	

相談支援

		利用者数				
		0人	1~10人	11人以上	無回答	平均
n=1		—	—	100.0%	—	26.0人

→

		うち北本市民				
		0人	1~10人	11人以上	無回答	平均
		—	—	100.0%	—	26.0人

		対応している障がい種別				
		身体	知的	精神	児童	無回答
n=1		—	—	—	100.0%	—

2 運営状況について

(1) 平成 27 年度の収支状況

問5 貴事業所の平成 27 年度の事業の収支（黒字・赤字）の状況をお答えください。（○は1つ）

平成 27 年度の事業の収支は、14 事業所中、「黒字だった」が 6 事業所（42.9%）、「ほぼ収支が均衡した」が 5 事業所（35.7%）で、「やや赤字だった」事業者は 1 事業所（7.1%）にとどまっている。

[図表Ⅶ-2-1:平成 27 年度の収支状況]

	黒字だった	ほぼ収支が均衡した	やや赤字だった	大幅な赤字だった	無回答
n=14	42.9%	35.7%	7.1%	—	14.3%

(2) 新規のサービス提供依頼者数の動向

問6 昨年度（平成 27 年度）に比べて、今年度の貴事業所における新規のサービス提供依頼者数の動向はどうなっていますか。（○は1つ）

問7 サービス提供依頼者数の増加には対応できていますか。（○は1つ）

昨年度（平成 27 年度）に比べて、今年度の新規サービス提供依頼者数が、「かなり増えてきている」のは 14 事業所中 2 事業所（14.3%）、「増えてきている」のは 8 事業所（57.1%）となっており、合わせると約 7 割の事業所は新規の依頼者数が増えている状況である。なお、「減っている」のは 1 事業所（7.1%）となっている。

[図表Ⅶ-2-2:新規のサービス提供依頼者数の動向]

	かなり 増えてきている	増えてきている	変わらない	減っている	かなり 減っている	無回答
n=14	14.3%	57.1%	14.3%	7.1%	—	7.1%

新規のサービス提供依頼者数が増えていると回答した 10 事業所に、その対応状況を尋ねたところ、8 事業所は「対応できている」（80.0%）状況であり、「対応できていない（断っている）ことが時々ある」と回答したのは 2 事業所となっている。

[図表Ⅶ-2-3:サービス提供依頼者数の増加への対応状況]

	対応できている	対応できていない(断っている) ことが時々ある	対応がまったくできない状況にある
n=10	80.0%	20.0%	—

3 サービスの質の向上のための取り組み

(1) サービスの質の評価に関する取り組み

問8 貴事業所のサービスの質の評価に関する取り組み状況についてお答えください。(項目ごと、○は1つずつ)

サービスの質の評価に関する取り組みのうち、[サービスの質の自己評価]については、14事業所中9事業所(64.3%)が「定期的実施している・受けている」状況である。

[利用者からの評価]については、7事業所(50.0%)が「定期的実施している・受けている」状況であり、2事業所(14.3%)は「今後、実施する・受ける予定である」と回答している。

[第三者評価]については、5事業所(35.7%)が「定期的実施している・受けている」状況だが、3事業所(21.4%)は「実施する・受ける予定はない」と回答している。

[図表Ⅶ-3-1: サービスの質の評価に関する取り組み]

サービスの質の自己評価

	定期的実施している・受けている	今後、実施する・受ける予定である	検討中である	実施する・受ける予定はない	無回答
n=14	64.3%	7.1%	7.1%	—	21.4%

利用者からの評価

	定期的実施している・受けている	今後、実施する・受ける予定である	検討中である	実施する・受ける予定はない	無回答
n=14	50.0%	14.3%	14.3%	—	21.4%

第三者評価

	定期的実施している・受けている	今後、実施する・受ける予定である	検討中である	実施する・受ける予定はない	無回答
n=14	35.7%	—	35.7%	21.4%	7.1%

(2) サービスの質を向上させるために必要な支援

問9 サービスの質を向上させるためには、今後どのような支援が必要になるとお考えですか。(あてはまるものに○)

サービスの質を向上させるために、今後必要になることとしては、「行政との情報共有」をあげる事業所が14事業所中9事業所(64.3%)と最も多く、次いで「必要な人材のあっせん」と「職員の研修、訓練への支援」がそれぞれ8事業所(それぞれ57.1%)と続いている。なお、「その他」としては、具体的に「関係機関の連携、情報共有」との記入があった。

[図表Ⅶ-3-2 サービスの質を向上させるために必要な支援]

	行政との情報共有	必要な人材のあっせん	職員の研修、訓練への支援	事業運営に必要な情報提供	財政面での支援	障害者福祉に対する市民理解を得るための周知、啓発	事業振興のための支援	その他	無回答
n=14	64.3%	57.1%	57.1%	50.0%	42.9%	35.7%	14.3%	7.1%	7.1%

(3) 人材育成についての取り組み

問10 貴事業所では人材育成についてどのような取り組みを行っていますか。(あてはまるものに○)

人材育成についての取り組みについて尋ねたところ、「職員一人ひとりの能力向上に関する希望を把握している」、「個人別の育成(研修)計画を策定している」、「職員一人ひとりの気づきや工夫を全員で共有している」、「職員の意識を把握し、やる気の向上に取り組んでいる」と回答した事業所がそれぞれ14事業所中8事業所(57.1%)みられる。

[図表Ⅶ-3-3: 人材育成についての取り組み]

	職員一人ひとりの能力向上に関する希望を把握している	個人別の育成(研修)計画を策定している	職員一人ひとりの気づきや工夫を全員で共有している	職員の意識を把握し、やる気の向上に取り組んでいる	研修成果をレポートなどを通じて全員で共有している	報酬の向上に取り組んでいる	福利厚生制度の充実に取り組んでいる	その他	無回答
n=14	57.1%	57.1%	57.1%	57.1%	42.9%	35.7%	7.1%	7.1%	7.1%

4 利用者や家族からの声

(1) 利用者や家族からの苦情の有無

問 11 利用者や家族からの苦情が平成 27 年 4 月以降ありましたか。(○は 1 つ)

平成 27 年 4 月以降、利用者や家族からの苦情が「あった」のは 14 事業所中 6 事業所 (42.9%) である。

[図表Ⅶ-4-1: 利用者や家族からの苦情の有無]

n=14	あった	なかった	無回答
	42.9%	50.0%	7.1%

(2) 苦情への対応状況

付問 1 寄せられた苦情に、どのように対応されましたか。(○は 1 つ)

付問 2 苦情に対しては素早く対応しましたか。(○は 1 つ)

付問 3 寄せられた苦情の内容をお答えください。(○は件数の多いものから 5 つまで)

利用者や家族から寄せられた苦情への対応としては、6 事業所中 4 事業所が「関係機関へ連絡をとるなど、連携して対応した」(66.7%)、1 事業者が「事業所内でほぼ対応した」と回答している。なお、「その他」としては、具体的に「訪問ヘルパーを変更又は訪問終了した」との記入があった。

[図表Ⅶ-4-2: 苦情への対応状況]

n=6	事業所内でほぼ対応した	関係機関へ連絡をとるなど、 連携して対応した	その他
	16.7%	66.7%	16.7%

寄せられた苦情には、すべての事業所が素早く「対応した」と回答している。

[図表Ⅶ-4-3: 苦情に対して素早く対応したか]

n=6	対応した	対応できていないケースもある
	100.0%	—

寄せられた苦情の内容は、6 事業所中 3 事業所が「サービスの質や内容に関すること」(50.0%) をあげているほか、「従事者 (サービス提供者) の態度や言葉づかい等に関すること」が 2 事業者 (33.3%)、「従事者 (サービス提供者) の介護技術に関すること」と「サービス提供にかかる他機関との連携等に関すること」がそれぞれ 1 事業者 (それぞれ 16.7%) みられる。

[図表Ⅶ-4-4: 苦情の内容]

n=6	サービスの質や内容に関すること	従事者 (サービス提供者) の態度や言葉づかい等に関すること	従事者 (サービス提供者) の介護技術に関すること	サービス提供にかかる他機関との連携等に関すること
	50.0%	33.3%	16.7%	16.7%

(3) 苦情対応窓口の周知状況

問 12 貴事業所では、苦情対応窓口の存在を利用者に示していますか。(〇は1つ)

苦情対応窓口の存在を利用者に示しているか尋ねたところ、14 事業所中 10 事業所が「文書で明確に示している」(71.4%)と回答している。

[図表Ⅶ-4-5: 苦情対応窓口の周知状況]

	文書で明確に示している	口頭など何らかの形で示している	示していない	無回答
n=14	71.4%	7.1%	—	21.4%

5 事業所が抱える課題等

(1) 事業所が抱える課題

問 13 貴事業所では、経営的な面で、あるいは、障がい福祉サービスの事業展開の面で、現在、どのようなことが課題となっていますか。(あてはまるものに○)

事業所が抱えている課題としては、14 事業所中 8 事業所が「スタッフの確保」(57.1%)をあげて最も多く、次いで「責任者など中堅人材の確保・育成」が6 事業所(42.9%)、「利用者や家族がサービスをよく理解していない」が5 事業所(35.7%)と続いている。

[図表Ⅶ-5-1: 事業所が抱える課題]

n=14	スタッフの確保	責任者など中堅人材の確保・育成	利用者や家族がサービスをよく理解していない	他のサービス事業所との連携
	57.1%	42.9%	35.7%	28.6%
	新規利用者の獲得が困難	設備・スタッフなどが不足し個別ニーズに応えられない	スタッフの人材育成	新規利用ニーズが多く受け入れが困難
	21.4%	21.4%	14.3%	7.1%
	利用者一人あたりの利用量が少ない	利用者の身体状況の把握が難しい	他のサービス事業所との競合が激しい	医療機関との連携
7.1%	7.1%	7.1%	7.1%	
報酬単価が低い	その他	特に課題はない	無回答	
7.1%	7.1%	—	7.1%	

(2) 人材確保のための取り組み

問 14 貴事業所では、人材を確保するためにどのような取り組みを行っていますか。(あてはまるものに○)

人材を確保するために行っている取り組みとしては、14 事業所中 10 事業所が「求人広告等」(71.4%)をあげて最も多く、次いで「賃金の改善」が7 事業所(50.0%)で続いている。なお、「その他」としては、具体的に「知人、その他の人に声掛け」との記入があった。

[図表Ⅶ-5-2: 人材確保のための取り組み]

n=14	求人広告等	賃金の改善	ホームページ等での広報	ハローワーク、福祉人材バンクの活用
	71.4%	50.0%	28.6%	28.6%
	資格取得にかかる費用の助成	実習生・研修生の積極的な受け入れ	福利厚生の実施	法人内での人事異動の実施
21.4%	21.4%	14.3%	14.3%	
その他	特に何も行っていない	無回答		
7.1%	7.1%	7.1%		

6 意見・要望等

(1) 意見・要望等

・ 障がい者福祉全般について、ご意見・ご要望等がございましたらご自由にお書きください。また、「第三次北本市・障害者福祉計画」に盛り込むべきことなど、市への提案などがございましたらご自由にお書きください。

調査の終わりにあたり、意見・要望等についての自由記入欄を設けたところ、以下のような記入があった。

- ・ 市内に共同生活援助や相談支援サービス事業所を増やしていただきたい。
- ・ 行政は福祉サービスの入口であるため、専門性を持った職員を配置し、事業者や市民からの問い合わせに迅速に対応していただきたい。
- ・ ホームページ等を活用し、制度の情報などを掲示していただきたい。
- ・ 北本市独自の「自立支援協議会」の設置。
- ・ 障がいのある人々に行ったアンケートの声に応じて欲しい。利用者さん目線での対応。
- ・ 障がい者の人は個々に違い、1人1人にケアが異なり、ヘルパーとして対応がむずかしく、良かれと思いアドバイスをしてもなかなか受け入れてもらえず、残念に思えることが多いです。
- ・ 障害者総合支援法の基本理念に基づき、「可能な限り身近な場所において必要な日常生活または社会生活を営むための支援を受けられること」、「社会参加の機会の確保を」これらのことが守れますように、今後も利用者1人1人にニーズに添ったサービスの提供の向上に努めます。

資料

【身体障がい者調査票】

【知的障がい者調査票】

【精神障がい者調査票】

【家族調査結果】

【障がい者団体調査】

【サービス事業者調査結果】

奇数ページになるように配置を

第三次北本市障害者福祉計画策定のためのアンケート調査 結果報告書

発行日 平成 29 年 3 月

発 行 北本市福祉部障がい福祉課

〒364-8633 埼玉県北本市本町 1-111

電 話 048-594-5535 (直通)

F A X 048-593-2862
